

服飾芸術科
専門教育科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：必修
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
ナンバリング：F31A01	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	2年間の学修成果をディプロマポリシーにもとづいて振り返る。各履修モデルに即したテーマを設定し、自分の考えを論理的に相手にわかりやすくプレゼンテーションする。プレゼンテーション資料の制作過程におけるデータ収集、データ整理、考察、内容の構成、さらに発表における効果的な伝え方や見せ方のスキルを身に付ける。 (授業目標) ◎C：プレゼンテーションのテーマにふさわしい内容を構成することで思考力判断力が修得できる。 ○D：ディプロマポリシーにもとづき自分自身の2年間の学びを理解し、身に付けた知識を的確に説明できる。
授業計画	<p>1 履修登録の確認、避難訓練（服飾芸術科専任教員） 卒業要件に対する履修状況の確認、避難訓練</p> <p>2 制作に向けて、制作（1）、個別指導（1）（服飾芸術科専任教員） 制作および研究計画の概要、資料収集の方法とプレゼンテーションの手法について</p> <p>3 制作（2）、個別指導（2）（服飾芸術科専任教員） 研究テーマと概要、調査方法、制作方法をまとめる</p> <p>4 制作（3）、個別指導（3）（服飾芸術科専任教員） 研究テーマと概要、調査方法、制作方法をまとめる</p> <p>5 制作（4）、個別指導（4）（服飾芸術科専任教員） 資料収集とプレゼンテーション手法の個別指導</p> <p>6 プレゼンテーション（1）（服飾芸術科専任教員） 各クラスにて発表、意見交換、評価</p> <p>7 プレゼンテーション（2）（服飾芸術科専任教員） 各クラスにて発表、意見交換、評価</p> <p>8 プレゼンテーション（3）（服飾芸術科専任教員） 各クラスにて発表、意見交換、評価</p> <p>9 「生涯の学び」（菊池桃子客員教授） キャリア形成に必要な考え方について</p> <p>10 プレゼンテーション（4）（服飾芸術科専任教員） 各クラスにて発表、意見交換、評価</p> <p>11 プレゼンテーション（5）（服飾芸術科専任教員） 各クラスにて発表、意見交換、評価</p> <p>12 プレゼンテーション（6）（服飾芸術科専任教員） 服飾芸術科全2年生合同発表、意見交換、評価</p> <p>13 「働く女性の生き方」（ゲスト講師） 卒業後の生き方について</p> <p>14 PROGテスト 解説 PROGテスト 解説</p> <p>15 2年間の学びの振り返り（服飾芸術科専任教員） 2年間の学びを振り返る</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：プレゼンテーションのテーマに沿った構成を思考し説明できる。 ○D：自分自身が2年間で身に付けた知識を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：設定したテーマを表現するにあたり、どのような手法がふさわしいかを考えること（25分）。 事後学習：進捗過程に合わせて教員に指導を仰ぎ、友人と意見交換を行いながら修正を行うこと（20分）。
指導方法	2年間の学修成果のまとめ方を指導する。研究内容やプレゼンテーション方法について個別もしくはグループでの指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③採点（評価）返却、④授業後における採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：プレゼンテーションの資料や発表方法を評価する。 ○D：プレゼンテーション内容が的確か評価する。 課題 70%、授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし

参考書	適宜、指示する
履修上の注意	2年間における学修成果の達成状況を確認するゼミである。日頃から他の履修科目を主体的な態度で学び、図書館の文献、マスメディアの情報、店舗等における実態調査、映画、舞台芸術、美術館等を活用することが大切である。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F12A02	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッション造形（服飾造形）は、アート（芸術）、建築、デザイン、音楽、カルチャー（文化）などと、さまざまな関わりをもって創造される。ファッションデザイナー達は、アートをデザインソース（源泉）として、インスパイア（創作意欲を刺激）され、あるいはオマージュ（賛辞）を捧げるためにシーズンコレクションを発表することに力を注いでいる。本講義は、プロダクトデザイン（服飾製品）が生まれた源泉（芸術）を捉えつつ、デザイナーの個性はもちろんのこと、社会構造や時代背景との関わりについて解説をしていく。（授業目標）</p> <p>服飾造形が生まれた源泉について、芸術領域の観点から考察することができる。</p> <p>◎D：各時代における社会構造や時代背景をふまえ、服飾造形の特徴と芸術との関わりを正確に説明することができる。</p>
授業計画	<p>1 ファッションとアートの関連性（ZOOM） サンローランとモンドリアン、ルイヴィトンと村上隆などの作品にみるファッションとアートの関わりについて</p> <p>2 19世紀末の装飾芸術「アールヌーボー」（対面、Classroom） アーツ・アンド・クラフツ（芸術と工芸）運動とウィリアムモリスの思想について</p> <p>3 19世紀末の装飾芸術「アールヌーボー」（対面、Classroom） アーツ・アンド・クラフツ（芸術と工芸）運動とウィリアムモリスの思想について</p> <p>4 1920年代の世界恐慌と退廃美「シュルレアリスム」（対面、Classroom） ファッションデザイナーのスキヤパレリと芸術家ダリ、コクトーのコラボレーション作品について</p> <p>5 1920年代の世界恐慌と退廃美「シュルレアリスム」（対面、Classroom） ファッションデザイナーのスキヤパレリと芸術家ダリ、コクトーのコラボレーション作品について</p> <p>6 1930年代の低コストモダン「アールデコとミニマリズム」（対面、Classroom） シャネルとポールポワレにみるマーケティング戦略、バウハウスの合理主義・機能主義について</p> <p>7 1930年代の低コストモダン「アールデコとミニマリズム」（対面、Classroom） シャネルとポールポワレにみるマーケティング戦略、バウハウスの合理主義・機能主義について</p> <p>8 1960年代の大衆消費社会「ポップアート」/1970年代のカウンターカルチャー「サイケデリックムーブメント」（対面、Classroom）（対面とClassroom） アンディウォーホル、キースヘリングによるコミック表現、エミリオプッチの色彩柄について</p> <p>9 1960年代の大衆消費社会「ポップアート」/1970年代のカウンターカルチャー「サイケデリックムーブメント」（対面、Classroom）（対面とClassroom） アンディウォーホル、キースヘリングによるコミック表現、エミリオプッチの色彩柄について</p> <p>10 1980年代前半の反美学「ポストモダン」（対面、Classroom） 川久保玲、山本耀司の反骨精神、三宅一生の平面発想について</p> <p>11 1980年代前半の反美学「ポストモダン」（対面、Classroom） 川久保玲、山本耀司の反骨精神、三宅一生の平面発想について</p> <p>12 1980年代後半の造形美「ボディコンシャス」（対面、Classroom） アズティンアライアの美学と功績、その後の影響力について</p> <p>13 1980年代後半の造形美「ボディコンシャス」（対面、Classroom） アズティンアライアの美学と功績、その後の影響力について</p> <p>14 1990年代の最小限美学とカルチャー「ネオミニマリズムとグランジファッション」（対面、Classroom） ヘルムートラング、ジルサンダーにみるリアルクローズ、マルジェラのモードとエレガンスについて</p> <p>15 1990年代の最小限美学とカルチャー「ネオミニマリズムとグランジファッション」（対面、Classroom） ヘルムートラング、ジルサンダーにみるリアルクローズ、マルジェラのモードとエレガンスについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：各時代における服飾造形の特徴と芸術のテーマを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：講義内容のテーマについて、図書館等で調べておくこと（90分）。 事後学習：講義の事例以外の内容について、各時代の特徴を図書館や美術館等で確認すること（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答

アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「ファッションの世紀 共振する20世紀のファッションとアート」 著者：深井晃子 出版社：平凡社
履修上の注意	受講生が本科目を理解するうえで大切な姿勢は、講義に関連する内容について、日頃から図書館で文献を調べたり、映画、舞台芸術、美術館で確認する習慣を身につけることである。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F12A03	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>衣服を考える時、自然環境や歴史、習慣や職業、着心地やファッションセンスなど、様々な条件が挙げられる。その基本は、個々の人体に対する快適な衣環境として、素材・デザイン・縫製等が不可欠であり、体型に適合した衣服を着用することは、快適な衣生活の条件と考えられる。</p> <p>衣服の起源から既製衣料までを大きく「環境」「人体」「生産」「消費」の項目に分けて学修する。 (授業目標)</p> <p>◎D：着衣基体である人体構造と素材、デザイン、パターン設計の関係について理解できる。</p>
授業計画	<p>1 衣服の起源と推移 衣服と気候、風土、生活様式の影響</p> <p>2 衣服と環境（1）（対面）衣服と環境（2）（Classroom） 対面：和服の形態的特徴 Classroom：着物の名称</p> <p>3 衣服と環境（1）（対面）衣服と環境（3）（Classroom） 対面：和服の形態的特徴 Classroom：着物の基礎知識</p> <p>4 衣服と人体（1）（対面）衣服と環境（3）（Classroom） 対面：日常生活における動作と衣服圧 Classroom：着物の基礎知識</p> <p>5 衣服と人体（1）（対面）衣服と人体（2）（Classroom） 対面：日常生活における動作と衣服圧 Classroom：人体計測</p> <p>6 衣服と人体（3）（対面）衣服と人体（2）（Classroom） 対面：衣服の美的因子と身体因子 Classroom：人体計測</p> <p>7 衣服と人体（3）（対面）衣服と人体（4）（Classroom） 対面：衣服の美的因子と身体因子 Classroom：シルエット</p> <p>8 衣服と生産（1）（対面）衣服と人体（4）（Classroom） 対面：素材と造形性能 Classroom：シルエット</p> <p>9 衣服と生産（1）（対面）衣服と生産（2）（Classroom） 対面：素材と造形性能 Classroom：被服材料</p> <p>10 衣服と生産（3）（対面）衣服と生産（2）（Classroom） 対面：既製服の製造工程 Classroom：被服材料</p> <p>11 衣服と生産（3）（対面）衣服と生産（4）（Classroom） 対面：既製服の製造工程 Classroom：衣服の種類とサイズ表示</p> <p>12 衣服と生産（5）（対面）衣服と生産（4）（Classroom） 対面：注文服の製造工程 Classroom：衣服の種類とサイズ表示</p> <p>13 衣服と生産（5）（対面）衣服と消費（Classroom） 対面：注文服の製造工程 Classroom：既製服衣料の選択と購入</p> <p>14 衣服と生産（6）（対面）衣服と消費（Classroom） 対面：パターン設計におけるゆとり Classroom：既製服衣料の選択と購入</p> <p>15 衣服と生産（6）（対面）衣服と環境（2）（Classroom） 対面：パターン設計におけるゆとり Classroom：着物の名称</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：体型分類、寸法、布地の扱い方について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業計画のテーマについて検索し、知識を得ておくこと（90分）。 事後学習：人体と衣服の関係性を多面的に捉え、実証できるように、知識と技術の理解を深め復習をしておくこと（90分）。

指導方法	テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、講義形式で行う。 衣服に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：定期試験、授業内小テスト、授業への貢献度、課題を評価する。 定期試験50%、小テスト20%、授業への貢献度20%、課題10%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布
参考書	『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編』：笠井フジノ,他6名,文化出版局 『アパレル構成学 着やすさと美しさを求めて』：富田明美,株式会社朝倉書店
履修上の注意	衣服製作を行うための基礎となる理論を学修する。日頃着用する衣服がどのような構造によってできているのか、また着心地に関して考えること。
アクティブ・ラー ニング	特になし
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：必修
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F12A04	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>価値ある作品には、色彩や形状が巧みに構成されているものが多い。衣服をはじめとする商品のデザインにも、芸術作品から着想を得て生まれたものが多く存在する。芸術作品が生まれた時代背景や、どのような発想をもとに生まれたのかを、作品映像等を用いて解説する。 (授業目標)</p> <p>○C：広く知られる作品の必然性や意味を知り、自らの価値観と照らし合わせた上で作品の感想を述べることができる。</p> <p>◎D：それぞれの時代の特徴と、現代における影響力について説明することができる。</p>
授業計画	<p>1 デザイン、アートとは (ZOOM) デザインやアートの成り立ち、見方 ブレインストーミングにより、芸術(アート)という言葉から連想する言葉を提案し、発想することの重要性を学ぶ</p> <p>2 美術の起源、古代ローマ、ギリシャ、初期キリスト教美術 (対面、ZOOM) ラスコーの壁画から三大文明までの美術、日本における石器時代の生活におけるデザイン アルカイック美術、エトルリア美術、紀元前の地中海の文化 キリスト教誕生から、紀元5世紀頃までの美術の流れ</p> <p>3 中世ルネサンス (対面、ZOOM) 初期キリスト教美術に続きロマネスク美術、ゴシック美術を経てイタリアにおけるルネサンス文化</p> <p>4 17世紀、19世紀における西洋美術 (対面、ZOOM) ルネサンスから続くバロック、ロココ美術の流れや、フランス革命から生じた一連の美術、文化の流れ</p> <p>5 産業革命とデザイン、ファッション (対面、ZOOM) 産業革命をきっかけに生まれた、ウィリアム・モリス等に代表されるモダンデザインについて</p> <p>6 印象派、ジャポニズム、アールヌーヴォー (対面、ZOOM) 19世紀から始まる印象派の流れと、影響を与えた日本の美術</p> <p>7 旧石器時代から明治までの日本の美術の流れ (対面、ZOOM) 縄文時代から継がれる日本独自の文化と、朝鮮半島や西洋からの文化の影響を受けたことによる日本の文化の変化の流れ</p> <p>8 シュルレアリズム、抽象表現主義 (対面、ZOOM) ダリ、マックスエルンストなどのシュルレアリストからの抽象表現の流れ</p> <p>9 キュビズム、バウハウス (対面、ZOOM) ピカソ、ブラック、マチスらキュビズムの作家とバウハウスの講師、そこから生まれたデザインについて</p> <p>10 コンセプチュアルアート、ポップアートなどの戦前、戦後における芸術の変化 (対面、ZOOM) マルセルデュシャン、アンディウォーホルとその周辺の作家、ファッションの動きについて</p> <p>11 映像による表現について (対面、ZOOM) ビデオアートやプロモーションビデオなど、映像表現の発展について</p> <p>12 展示空間、インスタレーションについて (対面、ZOOM) 有名美術館をはじめとする展示空間とギャラリーや美術館の外へ広がる表現について また、ファッションブランドの所有するアートの展示空間について</p> <p>13 テクノロジーの発展による制作の多様化 (対面、ZOOM) デジタル技術の発展がデザイン、アートに及ぼす影響</p> <p>14 仮想現実の表現の発展について (対面、ZOOM) 映画やエンタテインメント業界における仮想現実空間の表現の発展と、芸術との関係性について</p> <p>15 これからのデザイン、アート (対面、ZOOM) 今後のデザイン、アートの世界がどのように変化していくかについて</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：広く知られている作品のテーマについて説明できる。</p> <p>◎D：基本的なデザイン、アートの歴史について説明することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：美術館やギャラリー、ファッション系、芸術系の書籍やWEBサイトなどで多くの作品を鑑賞する(120分)。</p> <p>事後学習：講義でとりあげた作家や作品とその時代背景との関連性などを考察する(60分)。</p>
指導方法	<p>講義に関連するDVDやパワーポイント等の視覚媒体を使用しながら解説を行う。</p> <p>小テスト：①小テスト実施、②採点后、解説、③授業で質疑対応</p>

	レポート提出：①事前課題を提示、②レポート提出（学生）、③授業にて質疑応答 リアクションペーパー：①授業終了後に提出（学生）、②授業で質疑対応
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：レポート課題、リアクションペーパー D：定期試験、小テスト 定期試験60%、小テスト10%、レポート課題10%、リアクションペーパー・授業態度および貢献度20%
テキスト	毎回プリントを配布する
参考書	適宜、授業で指示する
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと
アクティブ・ラー ニング	グループワーク
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F22A05	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自身のキャリアビジョンを描くには、企業での生き方や働き方が深く関わってくる。顧客への対応、上司と部下、同僚との関係構築、取引先との折衝など、全ての場面でビジネスにおけるコミュニケーションスキルの必要性は高まっており、企業から必要とされる人材になるには、独自の強みや成果を上げるための力を持たなければならない。本講義は、ビジネスで円滑な人間関係を構築するための手法を知り理解することを目的に、主にファッション業界で働くうえで必要とされるビジネスマナーやビジネス知識、仕事術を修得する。 (授業目標) ◎C：自分自身の現状を分析し、成果を出す方法を知る。
授業計画	1 ビジネスキャリアとは 本講義の概要、ステップアップをするキャリアビジョンについて 2 キャリアプラン・自己シナリオ作成 (対面)、志望会社研究 (Classroom) 対面：理想像・自分比較・到達手段・中間目標について Classroom：志望会社の研究 3 キャリアプラン・自己シナリオ作成 (対面)、自己シナリオ作成 (Classroom) 対面：理想像・自分比較・到達手段・中間目標について Classroom：キャリアや自己の武器を分析し未来に向けたシナリオを作成 4 企業研究・企業と組織 (対面)、自己シナリオ作成 (Classroom) 対面：IR資料の読み方、ファッション業界でのキャリアアップについて Classroom：キャリアや自己の武器を分析し未来に向けたシナリオを作成 5 企業研究・企業と組織 (対面)、キャリアアッププラン (Classroom) 対面：IR資料の読み方、ファッション業界でのキャリアアップについて Classroom：ファッション業界の入り口とキャリアアッププラン作成 6 職場でのコミュニケーション・プレゼンテーション (対面)、キャリアアッププラン (Classroom) 対面：挨拶の効果、依頼・断る・謝罪、好かれる力、反省力、巻き込み力、アイデアと企画・ターゲットについて Classroom：ファッション業界の入り口とキャリアアッププラン作成 7 職場でのコミュニケーション・プレゼンテーション (対面)、企画書作成 (Classroom) 対面：挨拶の効果、依頼・断る・謝罪、好かれる力、反省力、巻き込み力、アイデアと企画・ターゲットについて Classroom：企画書作成 8 ビジネス知識・ビジネスマナー・仕事術 (対面)、企画書作成 (Classroom) 対面：一般的なビジネスマナー、ファッション業界のワード、仕事の方法、手順と優先順位、PDCAサイクルについて Classroom：企画書作成 9 ビジネス知識・ビジネスマナー・仕事術 (対面)、PDCAサイクル (Classroom) 対面：一般的なビジネスマナー、ファッション業界のワード、仕事の方法、手順と優先順位、PDCAサイクルについて Classroom：優先順位・PDCAサイクル作成 10 販売職からのステップアップ、ワークライフバランス (対面)、PDCAサイクル (Classroom) 対面：NYのファッション業界トップの事例、ワークライフバランス、女性のキャリア開発、ブラック企業問題、ダイバーシティ経営 Classroom：優先順位・PDCAサイクル作成 11 販売職からのステップアップ、ワークライフバランス (対面)、ダイバーシティ経営 (Classroom) 対面：NYのファッション業界トップの事例、ワークライフバランス、女性のキャリア開発、ブラック企業問題、ダイバーシティ経営 Classroom：企業選びのポイント、ダイバーシティ経営のメリット 12 ターゲット分析・自己のSWOT分析 (対面)、ダイバーシティ経営 (Classroom) 対面：コーチングで使用するターゲット別攻略法、SWOT分析 Classroom：企業選びのポイント、ダイバーシティ経営のメリット 13 ターゲット分析・自己の自己のSWOT分析 (対面)、SWOT分析 (Classroom) 対面：コーチングで使用するターゲット別攻略法、SWOT分析 Classroom：自己のSWOT分析 14 ペルソナ像設定とプロファイリング、キャリアプラン修正 (対面)、SWOT分析 (Classroom) 対面：ペルソナ像設定、プロファイリングについて Classroom：自己のSWOT分析 15 ペルソナ像設定とプロファイリング、キャリアプラン修正 (対面)、志望会社研究 (Classroom) 対面：ペルソナ像設定、プロファイリングについて

Classroom：志望会社の研究	
学習成果・到達目標・基準	◎C：成果を出すために役立つ枠組みについてを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日経MJ、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（60分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（120分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：リアクションペーパー、定期試験を評価する。 定期試験60%、課題25%、授業態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで最新のビジネスに関する情報を得ておくこと。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F12C06	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>色彩について物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面から基本知識を修得する。日常生活のなかにある実例をあげながら、色が見えるしくみ、色名、色の心理効果、配色方法、ファッションの色彩、インテリアの色彩などについて順序立てて学ぶ。色彩検定受験者には検定対策の参考となるように、問題集も活用する。 (授業目標)</p> <p>色の3属性（色相・明度・彩度）のしくみについて確実に理解する。 ◎D：色のしくみを順序立てて理解し、色の3属性で説明することができる。 ○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図を描くことができる。</p>
授業計画	<p>1 色のはたらき (zoom) 色と心地よさ、色とイメージ、色とアピール、色と区別、色と見やすさの調節、色と統一感、色と象徴</p> <p>2 色はなぜみえるか (対面)、眼のしくみ (Classroom) 対面：光の性質と色 Classroom：色を見る眼のしくみ、網膜における光の処理</p> <p>3 色はなぜみえるか (対面)、眼のしくみ (Classroom) 対面：光の性質と色 Classroom：色を見る眼のしくみ、網膜における光の処理</p> <p>4 混色とは何か (対面)、色の3属性 (Classroom) 対面：加法混色、減法混色 Classroom：色相、明度、彩度、トーン</p> <p>5 混色とは何か (対面)、色の3属性 (Classroom) 対面：加法混色、減法混色 Classroom：色相、明度、彩度、トーン</p> <p>6 PCCS (対面)、慣用色名 (Classroom) 対面：PCCSの色相、明度、彩度 Classroom：系統色名、JIS慣用色名</p> <p>7 PCCS (対面)、慣用色名 (Classroom) 対面：PCCSの色相、明度、彩度 Classroom：系統色名、JIS慣用色名、平安・江戸の色</p> <p>8 色の心理効果 (対面)、配色イメージ (Classroom) 対面：色の連想と象徴、残像、対比、同化、面積効果 Classroom：色の3属性と配色イメージ</p> <p>9 色の心理効果 (対面)、配色イメージ (Classroom) 対面：色の連想と象徴、残像、対比、同化、面積効果 Classroom：色の3属性と配色イメージ</p> <p>10 色彩調和① (対面)、色彩調和② (Classroom) 対面：色相を手がかりにした配色、トーンを手がかりにした配色 Classroom：アクセントカラー、セパレーション、グラデーション</p> <p>11 色彩調和① (対面)、色彩調和② (Classroom) 対面：色相を手がかりにした配色、トーンを手がかりにした配色 Classroom：アクセントカラー、セパレーション、グラデーション</p> <p>12 ファッションと色彩 (対面)、インテリアと色彩 (Classroom) 対面：ファッションにおける配色 Classroom：インテリアの配色形式</p> <p>13 ファッションと色彩 (対面)、インテリアと色彩 (Classroom) 対面：ファッションにおける配色 Classroom：インテリアの配色形式</p> <p>14 色と文化 (対面)、色と世界 (Classroom) 対面：歴史と色、平安・江戸の色 Classroom：世界の国の象徴色</p> <p>15 色と文化 (対面)、色と世界 (Classroom) 対面：歴史と色、平安・江戸の色 Classroom：世界の国の象徴色</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>色相、明度、彩度という色の3属性の意味を理解すること。色名を覚え、色彩心理を活かした配色調和を自由に行える基礎知識を身につける。 ◎D：色相、明度、彩度について説明ができる。 ○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図の基本を描くことができる。</p>
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキストを読み、項目ごとにレポートとしてまとめる (90分)。

	事後学習：授業中に行った練習問題を見直し、相当するテキストと並行して理解を深める（90分）。
指導方法	色とはなにかという身近な疑問を明らかにするために、毎回配色カードを使用し視覚的な訓練を大切にする。順序立てて色のしくみが理解でき、色による心理作用を効果的に活用できる基盤を養うことをめざして指導する。 色彩検定受験者には検定対策に直結するように、問題集をテキストとして活用する。 パワーポイントを使用し、生活の中での実例を紹介するなどわかりやすい工夫を行う。 Webclassで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 E：小テストを評価する。 定期試験50%、小テスト20%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト3級」（色彩検定協会） 「文部科学省後援 色彩検定2・3級問題集」A・F・T最新テキスト対応（新星出版） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） 「新配色カード199用演習台紙」（日本色研事業株式会社）
参考書	
履修上の注意	毎回、テキスト、新配色カード199a、はさみとりのりを各自持参する。 新配色カードを常に持ち歩き、カラーサンプルと色名を対応させる習慣をつける。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心掛ける。 1年後期「カラーコーディネート演習」、2年前期「トータルコーディネート演習」は、本科目を履修済みであることが履修の条件となるため注意すること。 は、本科目が履修済みであることが履修登録の条件とする。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F22C07	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「カラーコーディネート論」で学んだ色彩の基礎知識を生かし、身近なものを通して実践的に配色調和の方法を身につける。アーティフィシャルフラワーによるフラワーコーディネート製作を行い、めざすイメージやTPOをふまえた配色技法を体験する。さらに、アロマセラピー精油を用い、色と香りの関係を学び五感と色彩について理解を深める。 (授業目標) 色彩調和の原則を理解し、目的や場面に合う魅力的な配色ができるようになる。 ◎E：目的や場面に応じ、主な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。
授業計画	<p>1 主な配色技法 (zoom) 色相差による配色 同系色、反対色 イメージによる配色</p> <p>2 同系色のブーケ花選び (対面)、同系色の配色ワーク (Classroom) 対面：バラを中心にした同系色の花を選ぶ Classroom：同系色について理解を深める</p> <p>3 同系色のブーケ花選び (対面)、同系色の配色ワーク (Classroom) 対面：バラを中心にした同系色の花を選ぶ Classroom：同系色について理解を深める</p> <p>4 同系色のブーケ制作 (対面)、同系色のブーケppt制作(Classroom) 対面：ワイヤリング、テーピング、成形 Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>5 同系色のブーケ制作 (対面)、同系色のブーケppt制作(Classroom) 対面：ワイヤリング、テーピング、成形 Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>6 同系色のブーケ仕上げ (対面)、同系色のブーケppt完成(Classroom) 対面：持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>7 同系色のブーケ仕上げ (対面)、同系色のブーケppt完成(Classroom) 対面：持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル Classroom：配色イメージ、配色説明、</p> <p>8 反対色のブーケ花選び (対面)、反対色の配色ワーク (Classroom) 対面：ワイヤリング、テーピング、成形 Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>9 反対色のブーケ花選び (対面)、反対色の配色ワーク (Classroom) 対面：ワイヤリング、テーピング、成形 Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>10 同系色のブーケ制作 (対面)、同系色のブーケppt制作(Classroom) ブーケB制作 配色説明パワーポイント作成</p> <p>11 同系色のブーケ制作 (対面)、同系色のブーケppt制作(Classroom) 色と関連するエッセンシャルオイルの選択 ブーケB提出</p> <p>12 同系色のブーケ仕上げ (対面)、同系色のブーケppt完成(Classroom) 対面：持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>13 同系色のブーケ仕上げ (対面)、同系色のブーケppt完成(Classroom) 対面：持ち手のステムの処理、リボン仕上げ、撮影、エッセンシャルオイル Classroom：配色イメージ、配色説明</p> <p>14 ブーケ発表 (対面)、発表ppt制作・提出 (Classroom) 対面：1人3分pptによるプレゼンテーション Classroom：配色説明パワーポイント制作</p> <p>15 ブーケ発表 (対面)、発表ppt制作・提出 (Classroom) 対面：1人3分pptによるプレゼンテーション Classroom：配色説明パワーポイント制作</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストによる配色技法のトレーニング、課題の準備に取り組む (20分)。 事後学習：テキストの理解不足の部分を復習し、課題の不足を補う (25分)。

指導方法	講義は、パワーポイント、テキスト、配布プリントを適宜使用する。 フラワーコーディネート制作は、パワーポイント資料を配布する。 フィードバックの方法：提出された課題に対して教員から項目ごとの評価を伝える。 Classroomで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：課題制作の完成度を評価する。 課題制作70%、授業態度・授業貢献度30%
テキスト	「新配色カード199a」（日本色研事業） *1年前期に購入したものを継続使用できる。
参考書	「はじめてのインテリアブーケ」渡辺俊治監修（株式会社KADOKAWA） 「アーティフィシャルフラワー基本テクニック2 イメージを伝える 花合わせ色合わせのコツ」渡辺俊治（六耀舎）
履修上の注意	前期「カラーコーディネート論」を履修済みであることが履修の条件である。 「新配色カード199a」「新配色カード199用演習台紙」を各自持参すること。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
ナンバリング：F12C08	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本の民族衣装である「きもの」について、基礎的な知識を学ぶ。現代のスタイルへと変化していった歴史や「きもの」に不可欠な伝統文様、伝統色、家紋、染織技術について解説していく。また、「節目のきもの」や目的に合わせた「きもの」の選び方について理解を深める。 (授業目標) ◎D：普段着から礼装まで、目的にあった「きもの」を選択する知識が修得できる。
授業計画	<p>1 日本のきものとは 授業概要 きものとは</p> <p>2 きもの歴史（1） 古代～中世：きもの原形が成立する流れ・宮廷文化と武家文化における特徴</p> <p>3 きもの歴史（2） 近世：江戸町人文化から生まれたアイテムや流行</p> <p>4 きもの歴史（3） 近代：服飾の西洋化ときもの</p> <p>5 きもの模様 伝統的な文様について</p> <p>6 紋／日本の色 きものと紋の関係／日本の伝統色について</p> <p>7 染織工芸（1） 糸染めからきものが作られる工程</p> <p>8 染織工芸（2） 主な「染めのきもの」の産地とその特徴</p> <p>9 染織工芸（3） 主な「織りのきもの」の産地とその特徴</p> <p>10 きものに関する基礎知識（1） きもの種類と格について</p> <p>11 きものに関する基礎知識（2） きものと小物の名称</p> <p>12 きものに関する基礎知識（3） 衣替え他</p> <p>13 節目のきもの（1） 成人式（振袖などについて）</p> <p>14 節目のきもの（2） 子どもの晴れ着、結婚式（参列者のきものについて）</p> <p>15 節目のきもの（3） 卒業式（袴などについて）等</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：普段着と礼装の違いが判断でき、主な「節目のきもの」について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日頃から、雑誌やインターネット等で、振袖姿・袴姿など「きもの」について、色・模様・小物に注目しながら数多くの画像や解説を視聴し情報を得る。(90分程度) 事後学習：講義内容について、その都度ノートや配布資料(Classroomに同じ資料をアップ)をまとめ理解を深める。(90分程度)
指導方法	パワーポイントや映像を用い講義形式で進める。 適宜小テスト(Classroomを利用)を行い理解度を深めていく。 フィードバックの仕方：①小テスト実施②採点後返却③授業後に解答についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	D:定期試験と小テストを評価する。 定期試験60%、小テスト20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし

	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	欠席した場合、配布プリント(Classroomに同じ資料をアップ)を確認すること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F13C09	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>繊維が糸になり、糸が布になり、さらに布を縫製することで服飾となる。服飾の素材としての観点から繊維、糸、布などの基礎知識やその性質について講義や体験を通して学ぶ。また、コレクション映像や実際に販売されているアイテムを参考に服飾造形において素材選びはデザインの一部であり、素材は服飾を構成する要素として重要な役割を果たしていることを知る。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：修得した知識を基に服飾造形の際には適した素材が選択できるようになる。また、実際の衣生活に役立てる応用力を身に付けて説明できる。</p> <p>◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質を理解できる。繊維製品の正しい管理方法を学び、快適で衛生的な衣生活の知識を修得できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス (ZOOM) 概要説明、衣服の役割と機能</p> <p>2 繊維の分類と特徴 (対面)、ファッションと素材 (Classroom) 対面：天然繊維1、Classroom：素材とデザインの関係</p> <p>3 繊維の分類と特徴 (対面、Classroom) 対面：天然繊維1、Classroom：天然繊維2</p> <p>4 繊維の分類と特徴 (対面、Classroom) 対面：化学繊維1、Classroom：天然繊維2</p> <p>5 繊維の分類と特徴 (対面、Classroom) 対面：化学繊維1、Classroom：化学繊維2</p> <p>6 繊維の分類と特徴 (対面、Classroom) 対面：化学繊維3、Classroom：化学繊維2</p> <p>7 繊維の分類と特徴 (対面、Classroom) 対面：化学繊維3、Classroom：化学繊維4</p> <p>8 糸、織物 (対面)、繊維の分類と特徴 (Classroom) 対面：糸・織物の分類と特徴1、Classroom：化学繊維4</p> <p>9 糸、織物 (対面、Classroom) 対面：糸・織物の分類と特徴1、Classroom：糸・織物の分類と特徴2</p> <p>10 染色、仕上げ加工 (対面)、糸、織物 (Classroom) 対面：ファッション素材の染色、仕上げ加工1、Classroom：糸・織物の分類と特徴2</p> <p>11 染色、仕上げ加工 (対面、Classroom) 対面：ファッション素材の染色、仕上げ加工1、Classroom：ファッション素材の染色、仕上げ加工2</p> <p>12 衣服管理 (対面)、染色、仕上げ加工 (Classroom) 対面：取り扱い絵表示、洗濯1、Classroom：ファッション素材の染色、仕上げ加工2</p> <p>13 衣服管理 (対面、Classroom) 対面：取り扱い絵表示、洗濯1、Classroom：取り扱い絵表示、洗濯2</p> <p>14 ファッション素材の今後の発展 (対面)、衣服管理 対面：ファッションと資源、環境問題、Classroom：取り扱い絵表示、洗濯2</p> <p>15 ファッション素材の今後の発展 (対面)、ファッションと素材 (Classroom) 対面：ファッションと資源、環境問題、Classroom：素材とデザインの関係</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：実際の衣生活に役立てる繊維製品の扱い方を判断できる。</p> <p>◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の違いを説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：授業時の指示に従い、翌週の授業で扱う素材について予め調べる (30分)。 日頃から身のまわりのファッション素材に関心を持ち、自らの手で触れ、比較観察し、着用するよう心がける (30分)。</p> <p>事後学習：講義内容を復習し、理解を確実なものにする。さらに各自の理解度を確認する為の小テストに備える (120分)。</p>
指導方法	<p>パワーポイントを中心に講義する。補足資料としてプリントを配布する。 フィードバックの仕方：①確認問題実施、②採点 (評価) 返却、③授業後に解答について質疑対応</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C：繊維製品の扱い方に関する判断力を小テストによって評価する。</p> <p>D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の知識を修得しているか定期試験によって評価する。 定期試験またはレポート50%、提出物30%、授業への貢献度20%</p>

テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	文化ファッション体系 服飾関連専門講座①「アパレル素材論」文化服装学院編 文化出版局（2014）
履修上の注意	毎回プリントを配布するため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング	なし
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
原田弘美			
ナンバリング：F13C10	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	西洋における服飾の変遷を時代背景とともに解説する。 衣服の起源と役割、及び古代から近代までの時代様式の特徴と服飾の関連性を解説する。20世紀以降は各年代の代表的なファッションデザイナーとその作品を紹介し、過去の装いと現代ファッションとの共通点・相違点を探る。毎回、講義のテーマに合わせた映画やコレクション映像、服飾のスライドを使用し視覚的にも理解を深める。 (授業目標) 各時代様式と服飾の特徴を関連づけ、服飾の観点から西洋の歴史を読み取る力を身に付ける。 ◎D：時代背景を考察し、服飾の特徴から各時代を読み取る力を修得する。
授業計画	<p>1 衣服の起源 衣服の起源と衣服の役割</p> <p>2 古代の服飾（1） 古代エジプトの装飾モチーフと衣服</p> <p>3 古代の服飾（2） 古代ギリシャの服飾 古代ローマの服飾</p> <p>4 中世の服飾（課題Ⅰ Classroom活用） キリスト教文化とビザンティンの服飾の関連性 ゴシック建築と服飾の関連性</p> <p>5 近世の服飾（1） ルネサンス芸術と服飾の関連性</p> <p>6 近世の服飾（2） 17世紀バロックのオランダモードとフランスモード</p> <p>7 近世の服飾（3） 18世紀ロココの華やかなフランス宮廷モード</p> <p>8 近代の服飾（1） 19世紀初頭新古典主義とナポレオン1世時代の服飾</p> <p>9 近代の服飾（2） 19世紀女性服のシルエットの変化 パリオートクチュールの誕生</p> <p>10 近代の服飾（3）（課題Ⅱ Classroom活用） 19世紀末アール・ヌーボー様式の特徴と服飾</p> <p>11 20世紀初頭のファッション 女性のコルセットからの解放</p> <p>12 1920年代のファッション アール・デコ様式の特徴と服飾 ガブリエル・シャネルの活躍</p> <p>13 1940年代～1950年代のファッション クリスチャン・ディオールの登場と第二次世界大戦後のパリモード</p> <p>14 1960年代のファッション（課題Ⅲ Classroom活用） ロンドンファッションとミニスカートの流行</p> <p>15 1970年代～2000年代のファッション オートクチュールからプレタポルテへ 多様化する現代ファッション</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：近代以前の服飾と現代の服飾の特徴が区別できる。
事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスを参考に次回の授業内容を確認し、教科書の該当する部分を読んでおくこと。（30分程度）</p> <p>授業を理解しやすくするために、世界史、美術史など各時代の知識を得ておくこと。（30分程度）</p> <p>事後学習：講義で学んだ内容をノートを見直しまとめておくこと。代表的な服飾はノートにイラストを描いて覚えるのもよい。特に課題演習の前には課題の範囲を自主学習しておくこと。（30分程度） 出題された課題に取り組む。（90分程度） 講義で紹介した画家やデザイナーについて調べ更に知識を増やす。（30分程度） 講義で使用した映画をDVDやビデオ配信などで全編鑑賞し理解を深める。 講義で紹介した展覧会に出向き実物を鑑賞し知識を増やす。</p>

指導方法	毎回パワーポイントを使用し、画像と映像（DVD）を多用しながら視覚的に理解しやすいよう講義を進める。 時代区分ごとにClassroomを活用し課題演習を実施する。 フィードバックの方法：課題提出後、解答を解説し返却。返却後、必要に応じて個別対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	各時代の時代背景と服飾との関連性が理解できているかを評価する。 D：定期試験と提出課題を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑩「改訂版・西洋服装史」文化出版局
参考書	
履修上の注意	課題やレポート提出が追加されることもある。 授業中の撮影は禁止。
アクティブ・ラー ニング	特になし
I C T・オープン エデュケーション の活用	Classroom（自主学習と課題に活用）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子、高橋佐智子、平光くり子			
ナンバリング：F13C11	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	衣服製作の経験が少ない学生を対象に、基礎的な製作技術の修得を目的としている。 課題は「基礎縫い」と「服飾雑貨」製作とし、学習内容に沿った製作工程と使用器具の扱いなどを学修する。 基礎縫いでは手縫い、ミシン縫い、副資材(ボタン付け等)に関する基礎的な縫製技術を修得し、日常生活における衣服トラブルを自ら解決する技能を身に付ける。 服飾雑貨製作では、デザインに適した素材を選択し機能性を考えた実用的なバッグ製作を行うことで立体的な組み立て方を学修する。 (授業目標) ◎E：基礎的な製作技能を身に付け、課題を製作することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (ZOOM) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 基礎縫い1 (対面)、素材について (Classroom) (実習) 対面：ミシン、ロックミシンの使用方法について、Classroom：購入した素材について</p> <p>3 基礎縫い1 (対面)、素材について (Classroom) (実習) 対面：ミシン、ロックミシンの使用方法について、Classroom：購入した素材について</p> <p>4 服飾雑貨製作基礎1 (対面)、基礎縫い2 (Classroom) (実習) 対面：作図、裁断、印をつける、Classroom：玉どめ、なみ縫の基礎技法</p> <p>5 服飾雑貨製作基礎1 (対面)、基礎縫い2 (Classroom) (実習) 対面：作図、裁断、印をつける、Classroom：玉どめ、なみ縫の基礎技法</p> <p>6 服飾雑貨製作基礎2 (対面)、基礎縫い3 (Classroom) (実習) 対面：胴、まち、底を縫う、Classroom：ぐし縫、置きじつけの基礎技法</p> <p>7 服飾雑貨製作基礎2 (対面)、基礎縫い3 (Classroom) (実習) 対面：胴、まち、底を縫う、Classroom：ぐし縫、置きじつけの基礎技法</p> <p>8 服飾雑貨製作基礎3 (対面)、基礎縫い4 (Classroom) (実習) 対面：持ち手を製作し胴に縫いつける、Classroom：半返し縫、本返し縫、星どめの基礎技法</p> <p>9 服飾雑貨製作基礎3 (対面)、基礎縫い4 (Classroom) (実習) 対面：持ち手を製作し胴に縫いつける、Classroom：半返し縫、本返し縫、星どめの基礎技法</p> <p>10 服飾雑貨製作応用1 (対面)、基礎縫い4 (Classroom) (実習) 対面：ファスナーをつける、Classroom：まつり縫の基礎技法</p> <p>11 服飾雑貨製作応用1 (対面)、基礎縫い4 (Classroom) (実習) 対面：ファスナーをつける、Classroom：まつり縫の基礎技法</p> <p>12 服飾雑貨製作応用2 (対面)、基礎縫い6 (Classroom) (実習) 対面：胴、まち、底を縫う、Classroom：千鳥がけの基礎技法</p> <p>13 服飾雑貨製作応用2 (対面)、基礎縫い6 (Classroom) (実習) 対面：胴、まち、底を縫う、Classroom：千鳥がけの基礎技法</p> <p>14 基礎縫い7 (対面)、基礎縫い8 (Classroom) (実習) 対面：スナップ等の使用方法を実習、Classroom：ボタン等の使用方法を実習</p> <p>15 基礎縫い7 (対面)、基礎縫い8 (Classroom) (実習) 対面：スナップ等の使用方法を実習、Classroom：ボタン等の使用方法を実習</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎的な製作技能を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：基本的な縫い方(手縫い、ミシン等)を練習する(20分)。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく(25分)。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点(評価)返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。(ルーブリック評価) 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。

参考書	なし
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子、高橋佐智子、平光くり子			
ナンバリング：F13C12	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。課題は「スカート」製作と「装飾技法」とする。 スカートを製作することで衣服の組み立て方と製作手順を学修し、装飾技法では生地と糸の関係性を理解し、装飾技術を学修する。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、基礎的な縫製技術を身に付けることを目的とする。 (授業目標) ◎E：服飾造形1で学修した技能も活かし、課題を製作することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (ZOOM) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 採寸、作図 (対面)、装飾技法1 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>3 採寸、作図 (対面)、装飾技法1 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>4 裁断、印つけ (対面)、装飾技法2 (Classroom) (実習) 対面：布地を裁断、印をつける、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>5 裁断、印つけ (対面)、装飾技法2 (Classroom) (実習) 対面：布地を裁断、印をつける、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>6 本縫い1 (対面)、装飾技法3 (Classroom) (実習) 対面：芯の裁断と接着、組み立て、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>7 本縫い1 (対面)、装飾技法3 (Classroom) (実習) 対面：芯の裁断と接着、組み立て、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>8 本縫い2 (対面)、装飾技法4 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、布端の始末、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>9 本縫い2 (対面)、装飾技法4 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、布端の始末、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>10 本縫い3 (対面)、装飾技法5 (Classroom) (実習) 対面：脇縫い、ベルト付け準備、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>11 本縫い3 (対面)、装飾技法5 (Classroom) (実習) 対面：脇縫い、ベルト付け準備、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>12 本縫い4 (対面)、装飾技法6 (Classroom) (実習) 対面：ベルト付け、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>13 本縫い4 (対面)、装飾技法6 (Classroom) (実習) 対面：ベルト付け、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>14 本縫い5 (対面)、装飾技法7 (Classroom) (実習) 対面：裾の始末、仕上げ、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p> <p>15 本縫い5 (対面)、装飾技法7 (Classroom) (実習) 対面：裾の始末、仕上げ、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ方法について説明</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題を製作するための正しい縫い方を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：服飾造形1で修得した縫い方の基礎や作業工程を、各回で使用できるように復習しておく (20分)。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく (25分)。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と基礎理論が理解できるように指導を行なう。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点 (評価) 返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形1」を履修した学生を対象としている。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
ナンバリング：F23C13	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>本授業は、服飾造形1・2を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象として課題の「パンツ」を製作する。パンツとは両脚を別々に包む形態の下半身の衣服ことであり、シルエットやデザイン、素材により様々な種類がある。製作を通じてウエストやヒップ、両脚、股上・股下との関連を考慮したパターンの作図、身体に適合する縫製技術を実習により学修する。また、パンツの縫製工程と共に、ポケット等の細かいディテールの縫製技術も身に付ける。</p> <p>G1クラス対象、技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。 (授業目標) ◎E：服飾造形1・2で学んだ技術を活かし、パンツと細部のディテールの縫製ができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス (Zoom) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 パターン作図、仮縫い組み立て (対面)、製作準備 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、シーチング裁断、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>3 パターン作図、仮縫い組み立て (対面)、製作準備 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、シーチング裁断、Classroom：仮縫い組み立て</p> <p>4 試着、補正 (対面)、仮縫い組立て (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、Classroom：仮縫い組立て</p> <p>5 試着、補正 (対面)、裁断準備 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、Classroom：裁断準備 (パターン仕上げ)</p> <p>6 裁断 (対面)、裁断準備 (Classroom) (実習) 対面：裁断、Classroom：裁断準備 (パターン仕上げ)</p> <p>7 裁断 (対面)、本縫い準備 (Classroom) (実習) 対面：裁断、Classroom：本縫い準備 (くせとり、芯貼り等)</p> <p>8 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：布端のロック始末、Classroom：本縫い準備 (くせとり、芯貼り等)</p> <p>9 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：布端のロック始末、Classroom：股上を縫う</p> <p>10 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：ポケット、脇線を縫う、Classroom：股上を縫う</p> <p>11 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：ポケット、脇線を縫う、Classroom：股下を縫う</p> <p>12 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：裾の始末、Classroom：股下を縫う</p> <p>13 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：裾の始末、Classroom：ベルト付け準備</p> <p>14 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、ベルト付け</p> <p>15 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、仕上げ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：両脚を包む下半身衣服の構造と縫製工程が理解できる。
事前・事後学習	事前学習：基礎縫い、ミシンの練習。(20分)。 事後学習：授業で行った課題の作業工程を復習し、次回までに授業で目標とした作業を完成させておくこと(25分)。
指導方法	パワーポイント、テキストを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点(評価)返却、④授業後に採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の完成度を評価する。(ルーブリック評価) 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。

参考書	なし
履修上の注意	この授業は上級者向け（G1クラス）のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術向上、修得をすることが望ましい。また、オンライン授業の際、マシンを使用するのでマシンが自宅で使える環境である事が望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、高橋佐智子、平光くり子			
ナンバリング：F23C13	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1、2を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。 課題は「ワンピース」製作と「ファブリックワーク」とする。 「ワンピース」製作では、衣服の組み立て方と製作手順を学修し、「ファブリックワーク」では生地と糸の関係性を理解し、装飾技術を学修する。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、基礎的な縫製技術を身に付けることを目的とする。 G2、G3、G4クラス対象。技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行なう。 (授業目標) ◎E：服飾造形1、2で学修した技能も活かし、課題を製作することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (ZOOM) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 採寸、作図 (対面)、ファブリックワーク 1 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>3 採寸、作図 (対面)、ファブリックワーク 1 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>4 裁断、印つけ (対面)、ファブリックワーク 2 (Classroom) (実習) 対面：裁断、印をつける、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>5 裁断、印つけ (対面)、ファブリックワーク 2 (Classroom) (実習) 対面：裁断、印をつける、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>6 本縫い1 (対面)、ファブリックワーク 3 (Classroom) (実習) 対面：芯の裁断と接着、組み立て、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ</p> <p>7 本縫い1 (対面)、ファブリックワーク 3 (Classroom) (実習) 対面：芯の裁断と接着、組み立て、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ</p> <p>8 本縫い2 (対面)、ファブリックワーク 4 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、布端の始末、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>9 本縫い2 (対面)、ファブリックワーク 4 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、布端の始末、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>10 本縫い3 (対面)、ファブリックワーク 5 (Classroom) (実習) 対面：肩縫い、見返し、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ</p> <p>11 本縫い3 (対面)、ファブリックワーク 5 (Classroom) (実習) 対面：肩縫い、見返し、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ</p> <p>12 本縫い4 (対面)、ファブリックワーク 6 (Classroom) (実習) 対面：脇縫い、袖口の始末、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>13 本縫い4 (対面)、ファブリックワーク 6 (Classroom) (実習) 対面：脇縫い、袖口の始末、Classroom：基礎ステッチの説明、実習</p> <p>14 本縫い5 (対面)、ファブリックワーク 7 (Classroom) (実習) 対面：裾の始末、仕上げ、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ</p> <p>15 本縫い5 (対面)、ファブリックワーク 7 (Classroom) (実習) 対面：裾の始末、仕上げ、Classroom：基礎ステッチの実習、仕上げ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題を製作するための正しい縫い方を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：服飾造形1、2で修得した縫い方や作業工程を各回で使用できるように復習しておく (20分)。 事後学習：授業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく (25分)。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点 (評価) 返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形1」「服飾造形2」を履修した学生を対象としている。本授業は習熟度別では初級者向け(G2、G3、G4)のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術を向上、修得することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
ナンバリング：F33C14	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1・2・3を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。課題は「ビスチェ型ドレス」とし、配布プリントにより製作工程を学び、実習によりパターンの作図、縫製技術を身につける。デザインの決定から素材の選定、衣服製作の技術と幅を広げ、応用方法を学修する。 G1クラス対象、技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。 (授業目標) ◎E：デザインに適した素材の選定、素材に適した縫製ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (Zoom) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 パターン作図、仮縫い組み立て(対面)、製作準備 (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、シーチング裁断、仮縫い組み立て、Classroom:製作準備</p> <p>3 パターン作図、仮縫い組み立て(対面)、仮縫い組立て (Classroom) (実習) 対面：採寸、パターン作図、シーチング裁断、仮縫い組み立て、Classroom：仮縫い組立て</p> <p>4 試着・補正 (対面)、仮縫い組立て (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、Classroom:仮縫い組立て</p> <p>5 試着・補正 (対面)、裁断準備 (Classroom) (実習) 対面：試着、補正、Classroom：裁断準備 (パターン仕上げ)</p> <p>6 裁断 (対面)、裁断準備 (Classroom) (実習) 対面：裁断、Classroom：裁断準備 (パターン仕上げ)</p> <p>7 裁断 (対面)、本縫い準備 (Classroom) (実習) 対面：Classroom、裁断、本縫い準備 (芯貼り等)</p> <p>8 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、身頃の切り替え線とスカートの脇線を縫う</p> <p>9 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、身頃の切り替え線とスカートの脇線を縫う</p> <p>10 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：身頃及びスカートの装飾をする、Classroom：身頃及びスカートの本縫い</p> <p>11 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：身頃及びスカートの装飾をする、Classroom：身頃及びスカートの本縫い</p> <p>12 本縫い (対面：Classroom) (実習) 対面：左脇にファスナー付け、Classroom：裾の始末準備</p> <p>13 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：左脇にファスナー付け、Classroom：裾の始末準備</p> <p>14 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、スカートの裾始末、仕上げ</p> <p>15 本縫い(対面：Classroom) (実習) 対面：Classroom、スカートの裾始末、仕上げ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：デザイン、素材に適した縫製工程が理解できる。
事前・事後学習	事前学習：基礎縫いと本縫い（薄くつれやすい布地をミシンで縫う）の練習（20分）。 事後学習：授業で行った課題の作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておくこと（25分）。
指導方法	パワーポイント、テキストを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の完成度を評価する。（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	プリントを配布 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	この授業は上級者向け（G1クラス）のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術向上、修得をすることが望ましい。また、オンライン授業の際、マシンを使用するのでマシンが自宅で使える環境である事が望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子、平光くり子			
ナンバリング：F33C14	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1、2、3を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。課題は「ノーカラーコート」とする。「ノーカラーコート」を製作することでデザインに適した素材の選択、衣服の立体化、より高度な縫製方法を学修する。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、完成度の高い縫製技術を身に付けることを目的としている。 G2、G3クラス対象。技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。 (授業目標) ◎E：服飾造形の総仕上げとして、これまでに学んだ技術を活かし、美しく完成度の高い課題を製作できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 課題製作に必要な生地や道具について説明、採寸、アイテム研究</p> <p>2 作図（対面）、基礎縫い1（Classroom）（実習） 対面：パターン作図、生地選択、Classroom：かがり縫い、半返し縫い、本返し縫い</p> <p>3 作図（対面）、基礎縫い1（Classroom）（実習） 対面：パターン作図、生地選択、Classroom：かがり縫い、半返し縫い、本返し縫い</p> <p>4 裁断（対面）、基礎縫い2（Classroom）（実習） 対面：生地の裁断、芯の裁断、Classroom：星どめ、千鳥掛け、奥まつり</p> <p>5 裁断（対面）、基礎縫い2（Classroom）（実習） 対面：生地の裁断、芯の裁断、Classroom：星どめ、千鳥掛け、奥まつり</p> <p>6 本縫い1（対面）、裁断（Classroom）（実習） 対面：端の始末、Classroom：見返しの裁断</p> <p>7 本縫い1（対面）、裁断（Classroom）（実習） 対面：端の始末、Classroom：見返しの裁断</p> <p>8 本縫い2（対面）、裁断（Classroom）（実習） 対面：見返し付け、肩縫い、Classroom：ポケット生地裁断</p> <p>9 本縫い2（対面）、裁断（Classroom）（実習） 対面：見返し付け、肩縫い、Classroom：ポケット生地裁断</p> <p>10 本縫い3（対面）、ポケット製作（Classroom）（実習） 対面：袖付け、Classroom：ポケットの縫製</p> <p>11 本縫い3（対面）、ポケット製作（Classroom）（実習） 対面：袖付け、Classroom：ポケットの縫製</p> <p>12 本縫い4（対面）、ポケット付け（Classroom）（実習） 対面：脇縫い、前端の始末、Classroom：身頃にポケットを付ける</p> <p>13 本縫い4（対面）、ポケット付け（Classroom）（実習） 対面：脇縫い、前端の始末、Classroom：身頃にポケットを付ける</p> <p>14 本縫い5（実習） 袖口、裾を手縫いで始末</p> <p>15 仕上げ、作品発表（実習） 仕上げアイロンをかける、着装発表を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：シルエットと縫製が美しい課題を製作できる。
事前・事後学習	事前学習：服飾造形1、2、3で修得した縫い方や作業工程を、各回で使用できるように復習しておく（20分）。 事後学習：作業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	本授業は服飾造形1、2、3を履修し、G2、G3クラスの学生を対象とする。自身の技術を見極めて履修すること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F23C15	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本の風土の中で育った伝統工芸や伝統装飾の製作方法を学ぶ。製作工程に関する資料に沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。日本の各地方で大切に受け継がれてきた技法を学ぶことで伝統的な文化を知ることができる。製作したものを身に着けることで立体作品の構造を学修する。 (授業目標) ◎E：基本的技法を的確に活用し、課題を正確に製作できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (ZOOM) 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 伝統工芸1 (対面)、伝統装飾1 (Classroom) (実習) 対面：デザイン、裁断、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>3 伝統工芸1 (対面)、伝統装飾1 (Classroom) (実習) 対面：デザイン、裁断、Classroom：デザイン、製作準備</p> <p>4 伝統工芸2 (対面)、伝統装飾2 (Classroom) (実習) 対面：剣つまみ作品製作、Classroom：基礎模様の説明、実習</p> <p>5 伝統工芸2 (対面)、伝統装飾2 (Classroom) (実習) 対面：剣つまみ作品製作、Classroom：基礎模様の説明、実習</p> <p>6 伝統工芸3 (対面)、伝統装飾3 (Classroom) (実習) 対面：丸つまみ作品製作、Classroom：基礎模様の実習、仕上げ</p> <p>7 伝統工芸3 (対面)、伝統装飾3 (Classroom) (実習) 対面：丸つまみ作品製作、Classroom：基礎模様の実習、仕上げ</p> <p>8 伝統工芸4 (対面)、伝統装飾4 (Classroom) (実習) 対面：立体作品のデザイン、製作準備、Classroom：基礎模様の説明、実習</p> <p>9 伝統工芸4 (対面)、伝統装飾4 (Classroom) (実習) 対面：立体作品のデザイン、製作準備、Classroom：基礎模様の説明、実習</p> <p>10 伝統工芸5 (対面)、伝統装飾5 (Classroom) (実習) 対面：立体作品製作、Classroom：基礎模様の実習、仕上げ</p> <p>11 伝統工芸5 (対面)、伝統装飾5 (Classroom) (実習) 対面：立体作品製作、Classroom：基礎模様の実習、仕上げ</p> <p>12 伝統工芸6 (対面)、伝統装飾6 (Classroom) (実習) 対面：立体作品製作、Classroom：基礎模様の説明、実習</p> <p>13 伝統工芸6 (対面)、伝統装飾6 (Classroom) (実習) 対面：立体作品製作、Classroom：基礎模様の説明、実習</p> <p>14 伝統工芸7 (対面)、伝統装飾7 (Classroom) (実習) 対面：立体作品仕上げ、Classroom：基礎模様の実習、仕上げ</p> <p>15 伝統工芸7 (対面)、伝統装飾7 (Classroom) (実習) 対面：立体作品仕上げ、Classroom：基礎模様の実習、仕上げ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的技法を活用し、課題を製作できる。
事前・事後学習	事前学習：基本的な技法を練習する (30分)。 事後学習：授業終了後には学修した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく (90分)。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②課題提出、③採点 (評価) 返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	作業に遅れないよう積極的に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13C17	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッションデザインの中でも、主にアパレルデザインに重きを置き、ファッションブランドの商品企画の手法を修得する。 アパレルデザイナーや商品企画職を目指すためのコンセプトワーク、テーマに基づくファブリケーション、そして商品企画の流れを理解及び体験することにより、ポートフォリオ作成も並行して修得する。 (授業目標) ◎D：アパレル商品企画の手法を修得する。</p>		
授業計画	1	ファッションデザインとは 本講義の概要説明、デザインの分類と、アパレルデザインについて	
	2	ブランドコンセプト及びターゲット (対面)、コレクションブランドの分析 (Classroom) 対面：ファッションブランドのコンセプト設定とそれに基づくターゲット設定について Classroom：コレクションブランドのスタイリング・素材イメージ・カラー柄展開・アイテム分析	
	3	ブランドコンセプト及びターゲット (対面)、ブランドコンセプト・ターゲットイメージマップ (Classroom) 対面：ファッションブランドのコンセプト設定とそれに基づくターゲット設定について Classroom：コンセプトイメージマップ、ターゲットイメージマップの作成	
	4	シーズンテーマ及びシーン設定 (対面)、ブランドコンセプト・ターゲットイメージマップ (Classroom) 対面：シーズンテーマに基づくシーン設定について Classroom：コンセプトイメージマップ、ターゲットイメージマップの作成	
	5	シーズンテーマ及びシーン設定 (対面)、シーズンテーマ・シーンイメージマップ (Classroom) 対面：シーズンテーマに基づくシーン設定について Classroom：シーズンテーマに基づくシーンのイメージマップ作成	
	6	シーンに基づくファブリケーション及びカラー展開 (対面)、シーズンテーマ・シーンイメージマップ (Classroom) 対面：シーンの中のスタイリングを構成する素材ストーリーとそのカラー展開について Classroom：シーズンテーマに基づくシーンのイメージマップ作成	
	7	シーンに基づくファブリケーション及びカラー展開 (対面)、ファブリケーションとカラー展開 (Classroom) 対面：シーンの中のスタイリングを構成する素材ストーリーとそのカラー展開について Classroom：ファブリケーションとそのカラー展開イメージマップ作成	
	8	スタイリング画とアイテム画 (対面)、ファブリケーションとカラー展開 (Classroom) 対面：スタイル画とアイテム画 (平絵) の役割と表現手法の解説 Classroom：ファブリケーションとそのカラー展開イメージマップ作成	
	9	スタイリング画とアイテム画 (対面)、スタイル画・アイテム画 (Classroom) 対面：スタイル画とアイテム画 (平絵) の役割と表現手法の解説 Classroom：スタイル画と平絵の作成	
	10	同素材デザイン展開 (対面)、スタイル画・アイテム画 (Classroom) 対面：同一素材を使用したアパレルデザインの展開 Classroom：スタイル画と平絵の作成	
	11	同素材デザイン展開 (対面)、同素材デザイン展開アイテム画 (Classroom) 対面：同一素材を使用したアパレルデザインの展開 Classroom：同素材デザイン展開平絵作成	
	12	デザイナーのマーチャンダイジング (対面)、同素材デザイン展開アイテム画 (Classroom) 対面：商品企画構成上のマーチャンダイジングの知識 Classroom：同素材デザイン展開平絵作成	
	13	デザイナーのマーチャンダイジング (対面)、企画構成確認修正 (Classroom) 対面：商品企画構成上のマーチャンダイジングの知識 Classroom：同素材デザイン展開企画の確認及び修正	
	14	既存ブランドでの検証 (対面)、企画構成確認修正 (Classroom) 対面：実際の既存ブランドでの検証 Classroom：同素材デザイン展開企画の確認及び修正	
	15	既存ブランドでの検証 (対面)、コレクションブランドの分析 (Classroom) 対面：実際の既存ブランドでの検証 Classroom：コレクションブランドのスタイリング・素材イメージ・カラー柄展開・アイテム分析	
学習成果・到達目標・基準	◎D：アパレル商品企画の手法概要を説明できる。		

事前・事後学習	事前学習：本学図書館に於いて指定されている書籍でファッションデザインの知識を得ておくこと。(90分) 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを基に分析し要約しておくこと。(90分)
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。毎回テーマごとに進めていき、ポートフォリオを作成していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「スタイリングブック」高村是州著、株式会社グラフィック社
参考書	なし
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典、PEN、マリークレールビジュアール、VOGUE、BAZAAR、View、Wearを必ず一読すること。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F13C18	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインに必要なデザイン画、スタイル画の基礎となる基本プロポーションやポーズから人体ディテールの研究、アイテム図の表現法や着装表現、基本シルエットと着彩表現、各種画材の特性について学ぶ。 市場調査を交え、常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性とその表現力を養うことを目標とする。 (授業目標) ○C：描く対象物やディテールに適した技法を判断し表現できる。 ◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス、基本プロポーション (ZOOM) ファッションイラストにおける人体の基本プロポーションについて (正面、横) イラスト制作に便利なツールの紹介</p> <p>2 アイテム図の表現 (対面)、クロッキーについて (Classroom) 対面：スカート、パンツ、ジャケットの描き方、画材の使用法について Classroom：プロポーションを意識した描写</p> <p>3 アイテム図の表現 (対面)、クロッキーについて (Classroom) 対面：スカート、パンツ、ジャケットの描き方、画材の使用法について Classroom：プロポーションを意識した描写</p> <p>4 スカートのスタイル画 (1) (対面)、イラスト模写 (Classroom) 対面：スカートのスタイル画、コーディネート考案 Classroom：イラスト模写</p> <p>5 スカートのスタイル画 (1) (対面)、スカートのスタイル画 (2) (Classroom) 対面：スカートのスタイル画コーディネート考案 Classroom：スカートのスタイル画、線画の完成</p> <p>6 スカートのスタイル画 (3) (対面)、スカートのスタイル画 (2) (Classroom) 対面：スカートのスタイル画の着彩、仕上げ Classroom：スカートのスタイル画、線画の完成</p> <p>7 スカートのスタイル画 (3) (対面)、メンズのスタイル画 (1) (Classroom) 対面：スカートのスタイル画、着彩、仕上げ Classroom：メンズのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>8 メンズのスタイル画 (2) (対面)、メンズのスタイル画 (1) (Classroom) 対面：メンズのスタイル画、着彩、仕上げ Classroom：メンズのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>9 メンズのスタイル画 (2) (対面)、パンツスタイルのスタイル画 (1) (Classroom) 対面：メンズのスタイル画、着彩、仕上げ Classroom：パンツスタイルのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>10 パンツスタイルのスタイル画 (2) (対面)、パンツスタイルのスタイル画 (1) (Classroom) 対面：パンツスタイルのスタイル画、線画の完成 Classroom：パンツスタイルのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>11 パンツスタイルのスタイル画 (2) (対面)、パンツスタイルのスタイル画 (3) (Classroom) 対面：パンツスタイルのスタイル画、線画の完成 Classroom：パンツスタイルのスタイル画、着彩、仕上げ</p> <p>12 オリジナルテーマのスタイル画 (1) (対面)、パンツスタイルのスタイル画 (3) (Classroom) 対面：オリジナルテーマのスタイル画、コーディネート考案 Classroom：パンツスタイルのスタイル画、着彩、仕上げ</p> <p>13 オリジナルテーマのスタイル画 (1) (対面)、オリジナルテーマのスタイル画 (2) (Classroom) 対面：オリジナルテーマのスタイル画、コーディネート考案 Classroom：オリジナルテーマのスタイル画、線画の完成</p> <p>14 オリジナルテーマのスタイル画 (3) (対面)、オリジナルテーマのスタイル画 (2) (Classroom) 対面：オリジナルテーマのスタイル画、着彩、仕上げ Classroom：オリジナルテーマのスタイル画、線画の完成</p> <p>15 オリジナルテーマのスタイル画 (3) (対面)、イラスト模写 (Classroom) 対面：オリジナルテーマのスタイル画、着彩、仕上げ Classroom：イラスト模写</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：指定された課題を仕上げるにより、アイテムのディテールを理解する。 ◎E：人体にフィットする服をディテールを理解しながら描くことができる。

事前・事後学習	事前学習：流行している服や色について市場調査する習慣を身につける（30分）。 事後学習：授業で学んだ技術の復習を行い、分野を問わず、アートやデザインに触れて感性を磨く努力をする（30分）。
指導方法	動画や配布プリント、デモンストレーションによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品に加筆したデータ等を使用し、上達のためのアドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：授業で説明したプロポーションなどの注意点が提出課題にて意識できているかを、採点の際の基準とする。 E：授業で説明した描く対象物に応じた適切な画材の使用ができているかを、採点の際の基準とする。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリント配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げること。 ・課題提出物の期限は厳守すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F23C19	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション方面での表現を、様々な技法や構成を通じて身に着けることを意識し、絵画的な画面の構成方法や、ドレスのデザインやディテールの表現法、ポーズの応用等を学ぶ。常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるように、豊かな感性と表現力を養い、魅力的な独自のデザイン画、スタイル画が描けることを目標に指導していく。 (授業目標) ○C：描く対象物やディテールによって異なる表現技法を修得する。 ○E：デザイン力や色彩感覚を磨き、多様なディテールやデザインを表現する技術を身につける。
授業計画	<p>1 ガイダンス、デザイン画、スタイル画制作に便利なツールの紹介 (ZOOM) デザイン画、スタイル画に適したプロポーションについての解説や、在宅でも利用可能なアプリや素材の紹介</p> <p>2 画材研究 (対面)、衣服の模様について (Classroom) 対面：水彩絵の具、パステル、コピック等の表現法とプロポーションを意識した短時間での描写 (クロッキー) について Classroom：衣服の模様の種類と構成についての解説と制作</p> <p>3 画材研究 (対面)、衣服の模様について (Classroom) 対面：水彩絵の具、パステル、コピック等の表現法とプロポーションを意識した短時間での描写 (クロッキー) について Classroom：衣服の模様の種類と構成についての解説と制作</p> <p>4 秋のコーディネート (1) (対面)、カラードレス (1) (Classroom) 対面：秋のコーディネート考案 Classroom：装飾性を意識したドレスのスタイル画、デザイン考案</p> <p>5 秋のコーディネート (1) (対面)、秋のコーディネート (2)、装飾表現について (Classroom) 対面：コーディネート考案 Classroom：秋のコーディネート線画の制作とギャザー、ドレープ、バラ、小花などの表現法について</p> <p>6 秋のコーディネート (3) (対面)、秋のコーディネート (2)、装飾表現について (Classroom) 対面：秋のコーディネート着彩、仕上げ Classroom：秋のコーディネート線画の制作とギャザー、ドレープ、バラ、小花などの表現法について</p> <p>7 秋のコーディネート (3) (対面)、カラードレス (1) (Classroom) 対面：秋のコーディネート着彩、仕上げ Classroom：装飾性を意識したドレスのスタイル画、デザイン考案</p> <p>8 カラードレス (2) (対面)、カラードレス (2) (Classroom) 対面：装飾性を意識したドレスのスタイル画、着彩 Classroom：装飾性を意識したドレスのスタイル画、着彩</p> <p>9 カラードレス (3) (対面)、カラードレス (3) (Classroom) 対面：装飾性を意識したドレスのスタイル画、着彩、仕上げ Classroom：装飾性を意識したドレスのスタイル画、着彩、仕上げ</p> <p>10 2人以上の画面構成 (1) (対面)、2人以上の画面構成 (1) (Classroom) 対面：2人以上の画面構成、コーディネート考案 Classroom：2人以上の画面構成、コーディネート考案</p> <p>11 2人以上の画面構成 (2) (対面)、2人以上の画面構成 (2) (Classroom) 対面：2人以上の画面構成、着彩、仕上げ Classroom：2人以上の画面構成、着彩、仕上げ</p> <p>12 自由課題による制作 (1) (対面、Classroom) 対面：A3ボードにてオリジナルデザイン表現、構図、下絵制作 Classroom：A3ボードに描くことを前提としたオリジナルデザイン表現、構図、下絵制作</p> <p>13 自由課題による制作 (2) (対面、Classroom) 対面：A3ボードにてオリジナルデザイン表現、線画制作 Classroom：A3ボードに描くことを前提とし、オリジナルデザイン表現、線画制作</p> <p>14 自由課題による制作 (3) (対面、Classroom) 対面：着彩表現、仕上げ Classroom：着彩表現、仕上げ</p> <p>15 自由課題による制作 (4) 学修成果発表 (プレゼンテーション：個人) (対面、Classroom) 各自自分の作品について発表</p>

学習成果・到達目標・基準	○C：指定された課題を仕上げるにより、技法による違いを判断できる。 ◎E：描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。
事前・事後学習	事前学習：服飾資材店や美術館、ファッション、アート関連のWEBサイト等で、レースやチュール等の素材やアート、デザインに触れる機会を多く持ち、自らの作品制作に使用できる素材を収集する（30分）。 事後学習：常に市場調査する意識を持ち、分野を問わずアートやデザインに触れて感性を磨く（30分）。
指導方法	動画や配布プリント、デモンストレーションによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品に加筆したデータ等を使用し、上達のためのアドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：描く対象物やディテールによって、描き方を工夫できているかを評価する。 E：提出課題により技術力を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	必要に応じプリント配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げること。 ・課題提出物の期限は厳守すること。 ・前期のファッションイラストレーションAを履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F13C22	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>手を使いモノを作るハンドクラフトの基礎技術の修得を目的に、コサージュ、アートフラワーの製作を行う。布による造花の製作工程では、花の種類によって布や糸、コテなどを扱い様々な手作業を学修する。コサージュ製作を行うことで、加工、装飾する基本技術を修得し、アートフラワーの製作を通して、自身の理想のイメージを形にするための技術を磨く。</p> <p>(授業目標) ◎E：加工、装飾技術を身に付け、オリジナリティある作品を製作できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 アートフラワー製作基礎（1）（実習）（対面）花とファッションの関係（Classroom） 対面：ビロード生地について、コテの使用方を説明 Classroom：アートフラワーとファッションの関係について</p> <p>3 アートフラワー製作基礎（1）（実習）（対面）花とファッションの関係（Classroom） 対面：ビロード生地について、コテの使用方を説明 Classroom：アートフラワーとファッションの関係について</p> <p>4 アートフラワー製作基礎（2）（対面）コサージュ製作基礎（1）（Classroom）（実習） 対面：ビロード生地を使用したアートフラワー製作、仕上げ Classroom：服飾資材を使用したコサージュの手順説明、製作</p> <p>5 アートフラワー製作基礎（2）（対面）コサージュ製作基礎（1）（Classroom）（実習） 対面：ビロード生地を使用したアートフラワー製作、仕上げ Classroom：服飾資材を使用したコサージュの手順説明、製作</p> <p>6 アートフラワー製作基礎（3）（対面）コサージュ製作基礎（2）（Classroom）（実習） 対面：サテン生地について、コテの使用方を説明 Classroom：服飾資材を使用したコサージュの製作、仕上げ</p> <p>7 アートフラワー製作基礎（3）（対面）コサージュ製作基礎（2）（Classroom）（実習） 対面：サテン生地について、コテの使用方を説明 Classroom：服飾資材を使用したコサージュの製作、仕上げ</p> <p>8 アートフラワー製作基礎（4）（対面）コサージュ製作応用（1）（Classroom）（実習） 対面：サテン生地を使用したアートフラワー製作、仕上げ Classroom：加工生地を使用したコサージュの手順説明、製作</p> <p>9 アートフラワー製作基礎（4）（対面）コサージュ製作応用（1）（Classroom）（実習） 対面：サテン生地を使用したアートフラワー製作、仕上げ Classroom：加工生地を使用したコサージュの手順説明、製作</p> <p>10 アートフラワー製作応用（1）（対面）コサージュ製作応用（2）（Classroom）（実習） 対面：染色方法の説明、製作 Classroom：加工生地を使用したコサージュ製作</p> <p>11 アートフラワー製作応用（1）（対面）コサージュ製作応用（2）（Classroom）（実習） 対面：染色方法の説明、製作 Classroom：加工生地を使用したコサージュ製作</p> <p>12 アートフラワー製作応用（2）（対面）コサージュ製作応用（3）（Classroom）（実習） 対面：染色用生地を使用したアートフラワーの製作、仕上げ Classroom：加工生地を使用したコサージュ製作、仕上げ</p> <p>13 アートフラワー製作応用（2）（対面）コサージュ製作応用（3）（Classroom）（実習） 対面：染色用生地を使用したアートフラワーの製作、仕上げ Classroom：加工生地を使用したコサージュ製作、仕上げ</p> <p>14 自由製作（1）（対面）自由製作（2）（Classroom）（実習） 対面：自由製作について説明、製作、仕上げ Classroom：自由製作のデザイン画を描く</p> <p>15 自由製作（1）（対面）自由製作（2）（Classroom）（実習） 対面：自由製作について説明、製作、仕上げ Classroom：自由製作のデザイン画を描く</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：加工、装飾するための製作技術の手順を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：様々なハンドクラフト作品を店舗やインターネット等で常に市場調査し、デザインの引き出しを作っておく（30分）。 事後学習：学んだ技術を普段の生活にとりいれられるよう、身近なハンドクラフト作品がどのような構造によ

	りできているのかを考える (30分)。
指導方法	毎回、「ビジュアル」と「技術」のポイントを伝え、講義も交えて指導していく。製作工程の各段階では、実習内容と使用器具の扱い方などの説明を行う。 フィードバックの仕方：①実習②作品提出③採点（評価）返却④授業後、採点についての質疑応答。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の技術面、完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布
参考書	なし
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ			
ナンバリング：F23C24	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ニット(編物)は、一本の糸から輪を作ることにより、様々な形状に加工され編地が形成されていく。ニット(編物)に用いる「針」(棒状の道具)を編針と呼び、素材は、竹、金属、プラスチックなどがあり、針の太さは号数で表し、日本の規格では数字が大きいほど太くなる。また針と糸の適合性も考えながら製作に臨み、基礎を理解したうえで技能を学修する。</p> <p>対面授業では「棒針」を使用した基礎技法を学び、classroomでは「かぎ針編」の課題を製作する。(授業目標)</p> <p>◎E：基礎編技法と編み図記号を理解することができる。</p>
授業計画	<p>1 ハンドメイドニットBガイダンス zoom シラバス説明、授業内容について、課題準備について</p> <p>2 棒針編の基礎技法(実習：作り目)対面、課題1(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(編図、棒針、糸、作り目)、classroom：かぎ針編技法(デザイン、編地製作)</p> <p>3 棒針編の基礎技法(実習：作り目)対面、課題1(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(編図、棒針、糸、作り目)、classroom：かぎ針編技法(デザイン、編地製作)</p> <p>4 基礎編(実習：表編)対面、課題1(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(表編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(編地製作)</p> <p>5 基礎編(実習：表編)対面、課題1(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(表編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(編地製作)</p> <p>6 基礎編(実習：裏編)対面、課題1(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(裏編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(編地製作、仕上げ)</p> <p>7 基礎編(実習：裏編)対面、課題1(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(裏編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(編地製作、仕上げ)</p> <p>8 基礎編(実習：透かし模様編1)対面、課題2(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(模様編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(デザイン、編地製作)</p> <p>9 基礎編(実習：透かし模様編1)対面、課題2(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(模様編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(デザイン、編地製作)</p> <p>10 基礎編(実習：透かし模様編2)対面、課題2(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(模様編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(編地製作)</p> <p>11 基礎編(実習：透かし模様編2)対面、課題2(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(模様編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(編地製作)</p> <p>12 基礎編(実習：縄編)対面、課題2(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(縄編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(編地製作)</p> <p>13 基礎編(実習：縄編)対面、課題2(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(縄編技法、編図)、classroom：かぎ針編技法(編地製作)</p> <p>14 基礎編(実習：仕上げ)対面、課題2(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(仕上げ技法)、classroom：かぎ針編技法(編地製作仕上げ)</p> <p>15 基礎編(実習：仕上げ)対面、課題2(実習：雑貨小物製作) classroom 対面：基礎編(仕上げ技法)、classroom：かぎ針編技法(編地製作仕上げ)</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎編の技法を理解することができる。
事前・事後学習	<p>基礎技術の理解と、技能の上達を図れるように事前事後学習をすること。</p> <p>事前：必ず配布プリントに目を通し、予習をしておくこと(20分)。</p> <p>事後：各回のテーマで学修した編み図を理解し、編地を仕上げしておくこと(25分)。</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・製作工程に関するプリントを配布し、説明を加えながら指導をする。 ・講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と基礎技術を理解できるように指導をする。 <p>フィードバックの仕方：課題の評価を行い返却する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：説明に対する理解力と課題の完成度 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし プリント配布

参考書	
履修上の注意	授業進度に遅れている場合は、空き時間などを利用して遅れないように進めておくこと。 数点の課題提出日を厳守し、すべて提出すること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
森幸子			
ナンバリング：F23C22	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>日本の人形史や国内外のドールデザインを手がかりに、手作りの人形作品を制作する。</p> <p>課題1は、「手のひらサイズ」のオリジナル作品を制作する。</p> <p>課題2は、2019年12月に発売された、新しいカスタムドール用素体を使用する。カスタムドールはMボックス（15cm）を使用し、「きもの」を手縫いで制作する。カスタムドールのストーリーを創り出し、オリジナルドールをかたちにする。</p> <p>*状況により、内容は一部変更になります。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：現代社会における、地域のマスコット、広報戦略などを紹介しながら、その現場を見極めた問題解決方法を学ぶことができる。</p> <p>◎E：ドールメイクや、裁縫（手縫い・接着剤）の技術や素材の研究を通して、繊細な技術と新しい表現力を身につける。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 日本人形史に触れながら、授業の概要について説明する。 課題1「手のひらサイズ」のテーマを発表する。</p> <p>2 手のひらサイズの作品（実習） 課題1「手のひらサイズ」の作品制作。 チーム、個別指導を行う。</p> <p>3 手のひらサイズの作品（実習）（Classroom） 課題1「手のひらサイズ」作品制作。 チーム、個別指導を行う。</p> <p>4 手のひらサイズの作品（実習） 課題1「手のひらサイズ」作品制作。 チーム、個別指導を行う。</p> <p>5 手のひらサイズの作品（実習、プレゼンテーション） 課題1「手のひらサイズ」作品を完成させてClassroomに提出する。 作品発表と講評を行う。</p> <p>6 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」研究と制作。 資料収集の説明。</p> <p>7 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」デザインを決定する。 オリジナル作品「きもの」の説明を行う。 素材収集の説明。</p> <p>8 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。 制作の指導を行う。</p> <p>9 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。 制作の指導を行う。</p> <p>10 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。 作品を完成させてClassroomに提出する。</p> <p>11 カスタムドール（実習） 「カスタムドール」作品制作。 オリジナル作品の説明を行う。</p> <p>12 カスタムドール（実習） 「カスタムドール」作品制作。 オリジナル作品を完成させるための指導を行う。</p> <p>13 カスタムドール（実習） 「カスタムドール」作品制作。 作品（カスタムドール）の撮影に必要な背景の説明を行う。</p> <p>14 カスタムドール（実習） 「カスタムドール」作品制作。 作品を完成させ写真撮影または動画撮影を行う。 Classroomに提出する。 作成の指導を行う。</p> <p>15 カスタムドール（プレゼンテーション） 「カスタムドール」作品発表と講評。 カスタムドールの完成品を使用して 作品発表と講評を行う。</p>

学習成果・到達目標・基準	○C:課題1では、自由な発想の中から、オリジナルな考え方や自律性を高めることに応用できる。またグループによるディスカッションにより比較、気づきなどを学びながら思考力を身につけることができる。 課題2では、課題を完成させることを通して、判断力や協調性、計画性を体験できる。 ◎E:もの作りを通して、素材の特徴や技術の知識を学ぶことにより、オリジナルな作品を表現・提案出来るようになる。また、インスタグラムなど、社会に向けて、感性を生かしたデザインの発信ができる。
事前・事後学習	事前学習：デザインの生きた勉強は、実際に体験や観察をすることである。普段から好きなデザイン、気になるデザイン、美しいモノや色を見つけたら、ノートやスマートフォンなどの画像に採集して、たくさんのアイデアの引き出しを持つと良い。(45分) 事後学習：技法や技術の工程は復習やメモ、記録媒体などに残し、今後デザインを考えるプロセスの一助にすること。(45分)
指導方法	自由な発想を活かしながら演習が進められるようにグループディスカッションを行い、創造的視点の獲得を促す。 個人のオリジナルな考え方の中から作品が完成するまで、各チームの疑問点に積極的な指導を行う。 制作・研究遂行能力を高め、それらの伝達と共有能力を育成する。 作品制作に必要な技術や手法をわかりやすく、画像や動画などを授業課題のイメージ伝達を行う予定である。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C:課題1は、オリジナリティーのある作品の完成度を評価する。課題2では、個人の表現力・技術力を尊重しながら、制作過程の貢献度及び授業態度、作品及び提出物の完成度を評価する。 ◎E:自らの技能や表現力を生かした作品の完成度を評価する。また、アート・ファッションのデザインを考えるプロセスも評価の対象となる。 課題1 作品30%、課題2 作品30%、提出物20%、授業態度・貢献度20%
テキスト	授業はZOOMを使用し、対面授業の際、プリント配布を予定している。 また、Classroomに作品を完成させるまでに必要な資料や動画を配信(保存)する。
参考書	
履修上の注意	デザインや構成などの指導は積極的に行うが、グループで協力しながら作品を完成させる。 宿題や提出物の自己管理をしっかり行うこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	Zoom、Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
ナンバリング：F23C23	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>刺繍とは専用の糸を使用し、布地あるいはその他の素材に装飾を施すハンドクラフト（手芸）である。実習では様々な刺し方で図案を表現するフランス刺繍から始め、数種類の刺繍ステッチで作品を製作する。刺繍の図案を考え、ステッチで作品の表現をするが、製作過程で糸の色遣いを考えながら作品を進め、表現していくことも刺繍の学びの一つである。</p> <p>（授業目標） ◎E：基礎ステッチを正しく刺す事ができ、作品の表現ができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス（Zoom） 授業内容、授業の進め方、様々な刺繍の種類を学び、課題製作に必要な糸や道具について説明</p> <p>2 基礎ステッチ（1） 図案のトレース4種のステッチ（対面）、製作準備（Classroom）（実習） 対面：フランス刺繍の技法でエコバッグに刺繍をする。図案のトレース、ランニング、バック、ストレート、アウトライン、4種類のステッチで課題製作 Classroom：ステッチのデザイン、製作準備</p> <p>3 基礎ステッチ（1）（実習） 図案のトレース4種のステッチ（対面）、4種のステッチ仕上げ（Classroom）（実習） 対面：フランス刺繍の技法でエコバッグに刺繍をする。図案のトレース、ランニング、バック、ストレート、アウトライン、4種類のステッチで課題製作 Classroom：ステッチのデザイン、製作準備</p> <p>4 基礎ステッチ（2）（実習） 3種のステッチ（対面）、4種のステッチ仕上げ（Classroom） 対面：チェーン、フレンチノット、レイジーデージーの3種類のステッチを実習 Classroom：4種類のステッチを仕上げる</p> <p>5 基礎ステッチ（2）（実習） 対面：チェーン、フレンチノット、レイジーデージーの3種類のステッチを実習 Classroom：3種類のステッチを仕上げる</p> <p>6 基礎ステッチ（3）（実習） 対面：サテン、バリオンローズ、2種類のステッチを実習 Classroom：3種のステッチを仕上げる</p> <p>7 基礎ステッチ（3）（実習） 対面：サテン、バリオンローズ、2種類のステッチを実習 Classroom：2種類のステッチを仕上げる</p> <p>8 クロスステッチ（実習） 対面：クロスステッチの刺し方を学び、飾りフレームを製作する Classroom：2種類のステッチを仕上げる</p> <p>9 クロスステッチ（実習） 対面：クロスステッチの刺し方を学び、飾りフレームを製作する Classroom：クロスステッチを実習する</p> <p>10 クロスステッチ（実習） 対面：クロスステッチ実習 Classroom：クロスステッチを実習する</p> <p>11 クロスステッチ（実習） 対面：クロスステッチ実習 Classroom：ステッチのデザイン、製作準備</p> <p>12 ビーズワーク（実習） 対面：ビーズワークで課題のブローチを製作する、Classroom：クロスステッチ仕上げ</p> <p>13 ビーズワーク（実習） 対面：ビーズワークで課題のブローチを製作する、Classroom：ビーズワーク実習</p> <p>14 ビーズワーク（実習） 対面：ビーズワークで課題のブローチを製作する、Classroom：ビーズワーク実習</p> <p>15 ビーズワーク（実習） 対面：Classroom、ビーズワーク仕上げ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎ステッチの名称と刺し方を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：多くの作品に触れ、刺繍を理解すること。基礎ステッチの練習をしておく（20分）。 事後学習：授業終了後には実習したステッチの刺し方を復習し、作品の完成に努めること（25分）。

指導方法	パワーポイント、サンプルを使用し、基礎ステッチそれぞれの刺し方、図案のトレースの方法を指導する。ステッチの刺し方は小グループに分かれ、実習指導をする。基礎ステッチを修得した後、それぞれのステッチを使用して作品を製作する。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後に採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	
履修上の注意	作品は授業時間内での完成を目指す、提出期日までに間に合わなかった場合は、各自で時間外に実習を進めること。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小椋啓司			
ナンバリング：F23C24	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	リングやネックレス、ブレスレットなど、普段使いできるアクセサリーの課題制作を行うことで、金属材料からつくる彫金技法での基礎的な制作技術を体験・学修する。また制作の過程で素材や流通の知識を学ぶ。基礎的なアクセサリーの制作技術を理解した上で、様々なデザインや素材に触れ、自由な発想でオリジナルのアクセサリー制作を行う。講義全体の前半部分では基礎を学び、後半部分では応用としてオリジナリティある作品のデザイン、制作を行う。 (授業目標) ◎E：金属材料によるアクセサリー制作の基礎技法を理解し、応用してオリジナルデザインの制作ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業概要・各課題の説明、工具の知識、評価方法の説明 対面授業（実習）7回 自宅学習7回</p> <p>2 シンプルデザインのリング制作 基礎的な制作方法として、棒状の真鍮材料から指輪の制作</p> <p>3 ロストワックス技法による金属パーツのデザイン案制作 ロストワックス技法の説明、デザイン制作</p> <p>4 シンプルデザインのリング制作 基礎的な制作方法として、棒状の銀材料から指輪の制作</p> <p>5 ロストワックス技法による金属パーツのデザイン案制作 デザイン制作</p> <p>6 ロストワックス技法による金属パーツの原型制作 ロストワックス技法の説明、基礎的な制作方法でパーツの制作</p> <p>7 ブランド調査 既存のアクセサリーブランドの調査、情報収集</p> <p>8 ロストワックス技法による金属パーツの原型制作 オリジナルデザインの原型制作</p> <p>9 ブランド調査 既存のアクセサリーブランドの調査、情報収集</p> <p>10 刻印を用いたバングル制作 オリジナルのメッセージを刻印したバングルを制作</p> <p>11 オリジナルブランド イメージ設計 オリジナルブランドを立ち上げるとして、イメージ設計を制作</p> <p>12 オリジナルデザインのリング制作 デザイン制作、ワイヤーを用いたオリジナルデザインリング制作</p> <p>13 オリジナルブランド イメージ設計 オリジナルブランドを立ち上げるとして、イメージ設計を制作</p> <p>14 チャームアクセサリーの制作 ロストワックス技法により鑄造された金属パーツのアクセサリーへの組み立て</p> <p>15 オリジナルブランド イメージ設計 オリジナルブランドを立ち上げるとして、イメージ設計を制作</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題に沿った内容の基礎的なアクセサリー制作をすることができる。
事前・事後学習	事前学習：アクセサリー専門店や展示会などで実物に触れてみる。（30分） 雑誌やインターネットなどでアクセサリーの多様なデザインを知る（30分） 事後学習：各課題に対する制作方法の手順について参考資料を見直し復習する。（30分）
指導方法	各課題の実習の際に、プロジェクターでの動画紹介や配布資料による説明を行う。 各課題終了時に完成した課題作品を提出してもらい評価をする。 フィードバックの仕方：課題制作の詳細については担当講師が制作実演、またサポート、デザインなどのアドバイスを行う。 オリジナル作品課題について、講師より作品への評価、アドバイスをコメント記載し、返却する。
アセスメント・成績評価の方法・	E：それぞれの提出課題と、オリジナリティを求めて授業へ取り組む姿勢を評価する。 課題提出80%、授業姿勢20%、

基準	
テキスト	なし プリント資料を配布
参考書	各ファッション雑誌、SNSなど
履修上の注意	細やかで地味な作業もある集中力のいる実習であることを理解したうえで受講すること。 積極的な好奇心と自由な発想でもって制作に取り組むこと。 薬品や火器、その他怪我をする可能性のある工具による作業があるので、十分に注意して作業に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平林芳子			
ナンバリング：F13C25	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>染色の基礎技法であるロウケツ染め、型染め、絞り染めの表現方法、素材との関係、工程について学ぶ。基本の染め方による試作を行なった後、各技法に適したデザインを考え染色作品を完成させる。染色の基礎技法を実習することにより、ファッションやインテリアにおけるテキスタイルデザインの特徴についての理解を深める。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D:既存の染色作品に関心を持って知識を深め、技法や工程を理解した上で作品に活かすことができる。</p> <p>◎E:技法や素材、工程について理解した上で、その特徴を活かしたオリジナルのデザインによる染色作品を制作することができる。</p>		
授業計画	1	[自宅] ガイダンス [自宅] 制作課題・用意するもの・課題の提出方法について	
	2	[対面] ロウケツ染め(1) [自宅] 型染め(1) [対面] 素材、技法、表現についての説明・ロウケツ染めの試作を染める [自宅] 素材、技法、表現についての説明・デザインを考える・Classroomに課題提出	
	3	[自宅] ロウケツ染め(2) [対面] ロウケツ染め(1) [自宅] デザイン画作成、Classroomに課題提出 [対面] 素材、技法、表現についての説明・ロウケツ染めの試作を染める	
	4	[対面] ロウケツ染め(3) [自宅] ロウケツ染め(2) [対面] デザイン画の拡大、ロウ置き [自宅] デザイン画作成、Classroomに課題提出	
	5	[自宅] 型染め(1) [対面] ロウケツ染め(3) [自宅] 素材、技法、表現についての説明・デザインを考える・Classroomに課題提出 [対面] デザイン画の拡大、ロウ置き	
	6	[対面] ロウケツ染め(4) [自宅] 型染め(2) [対面] 反応性染料による彩色 [自宅] 型紙を彫る・Classroomに課題提出	
	7	[自宅] 型染め(2) [対面] ロウケツ染め(4) [自宅] 型紙を彫る・Classroomに課題提出 [対面] 反応性染料による彩色	
	8	[対面] ロウケツ染め(5) [自宅] 絞り染め(1) [対面] 脱ロウ処理・仕上げ・作品提出 [自宅] 素材、技法、表現についての説明・絞り染めの試作を縫う・デザインを考える・Classroomに課題提出	
	9	[自宅] 絞り染め(1) [対面] ロウケツ染め(5) [自宅] 素材、技法、表現についての説明・絞り染めの試作を縫う・デザインを考える・Classroomに課題提出 [対面] 脱ロウ処理・仕上げ・作品提出	
	10	[対面] 絞り染め(2) [自宅] 絞り染め(2) [対面] 絞り染めの試作を絞り染める [自宅] デザインを考える・デザイン画の拡大・布を縫う・Classroomに課題提出	
	11	[自宅] 絞り染め(3) [対面] 絞り染め(3) [自宅] デザインを考える・デザイン画の拡大・布を縫う・Classroomに課題提出 [対面] 絞り染めの試作を絞り染める	
	12	[対面] 型染め(3) [自宅] 絞り染め(4) [対面] 型染めの試作・顔料による捺染・仕上げ・作品提出 [自宅] 布を縫う・縫った糸を絞る・Classroomに課題提出	
	13	[自宅] 絞り染め(4) [対面] 絞り染め(5) [自宅] 布を縫う・縫った糸を絞る・Classroomに課題提出 [対面] 藍についての説明・藍による浸染	
	14	[対面] 絞り染め(5) [自宅] 絞り染め(6) [対面] 藍についての説明・藍による浸染 [自宅] 絞った糸を解く・仕上げ・Classroomに課題提出・作品講評	
	15	[自宅] 絞り染め(6) [対面] 型染め(3) [自宅] 絞った糸を解く・仕上げ・Classroomに課題提出・作品講評 [対面] 型染めの試作・顔料による捺染・仕上げ・作品提出	
学習成果・到達目標・基準	○D:既存の染色作品から興味あるデザインをセレクトして模倣することができる。 ◎E:基本的な技法による染色作品を制作することができる。		
事前・事後学習	事前学習：積極的に展覧会や美術館に行くなど、さまざまな商品、作品を見て見識を深めておくこと。(60分)		

	事後学習：授業で学んだ表現方法をもとにアイデアを進展させておくこと。また、技法や工程などを資料や動画で復習しておくこと。(30分)
指導方法	実習作品の全体像を把握できるよう、技法と表現について解説する。 課題毎にサンプルを試作し、理解度を高める。 参考作品を提示して具体的なデザインの考え方や作業工程、注意事項などを説明した上で実習を進める。 フィードバックの仕方：デザインアイデアのスケッチに対して技法に適したアドバイスをする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D:提出課題により、技法についての理解度を評価する。 E:提出課題の完成度を評価する。 提出課題90%、授業態度・貢献度10%
テキスト	なし 資料をプリントで配布、またはClassroomにアップする
参考書	なし
履修上の注意	探究心と興味を持って作品の制作に取り組むこと。 課題の作業工程を把握し、進行状況にも気を配りながら作品の完成度を高めること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F14B26	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションビジネスの変遷に伴うアパレル業界の仕組みの変化を理解し、ファッショントレンドと商品のライフサイクルの関係をマーケティング面・マーチャンダイジング面にて理解する。またアパレル会社の利益構造も理解しながら今後のファッション産業の展開を予測する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界の仕組みを知ることで、ファッション業界のブランドビジネスを理解する。
授業計画	<p>1 ファッション業界研究 本講義の概要説明、ファッション業界の歴史および仕組み、現状について</p> <p>2 アパレルマーチャンダイジングのフロー（対面）、オンラインショップ研究（Classroom） 対面：ファッショントレンドと商品のライフサイクル、商品企画から生産管理の流れについて Classroom：オンラインショップの分析</p> <p>3 アパレルマーチャンダイジングのフロー（対面）、トレンド商品のピックアップと検証（Classroom） 対面：ファッショントレンドと商品のライフサイクル、商品企画から生産管理の流れについて Classroom：今シーズンのトレンド商品をピックアップし売れを検証する</p> <p>4 ファッションマーケティング（対面）、トレンド商品のピックアップと検証（Classroom） 対面：ファッションビジネスで多用するマーケティングについて Classroom：今シーズンのトレンド商品をピックアップし売れを検証する</p> <p>5 ファッションマーケティング（対面）、マーケティングプラン作成（Classroom） 対面：ファッションビジネスで多用するマーケティングについて Classroom：時代のニーズに合ったマーケティングプランを作成する</p> <p>6 マーチャンダイジングの知識（対面）、マーケティングプラン作成（Classroom） 対面：SPAアパレルの年間52週のMD戦略について Classroom：時代のニーズに合ったマーケティングプランを作成する</p> <p>7 マーチャンダイジングの知識（対面）、52週MDプラン作成（Classroom） 対面：SPAアパレルの年間52週のMD戦略について Classroom：年間52週のMD構成プラン作成</p> <p>8 マーチャンダイジングの知識（対面）、52週MDプラン作成（Classroom） 対面：月度のアイテム計画とVMDについて Classroom：年間52週のMD構成プラン作成</p> <p>9 マーチャンダイジングの知識（対面）、月度MD表（Classroom） 対面：月度のアイテム計画とVMDについて Classroom：月度アイテム計画とVMDについて</p> <p>10 アパレル会社の収益構造（対面）、月度MD表（Classroom） 対面：SPAアパレルの収支計画について Classroom：月度アイテム計画とVMDについて</p> <p>11 アパレル会社の収益構造（対面）、収支計画（Classroom） 対面：SPAアパレルの収支計画について Classroom：月度収支計画プラン作成</p> <p>12 ファッショントレンドとマーケットについて（対面）、収支計画（Classroom） 対面：ファッショントレンドとマーケットの関係について Classroom：月度収支計画プラン作成</p> <p>13 ファッショントレンドとマーケットについて（対面）、次シーズンのトレンド予測（Classroom） 対面：ファッショントレンドとマーケットの関係について Classroom：2022年 S/S のトレンド予測プラン作成</p> <p>14 今後のファッション業界の展望（対面）、次シーズンのトレンド予測（Classroom） 対面：今後のSPAビジネス、EC、セカンドハンドウェアビジネス、個人ブランド等について Classroom：2022年 S/S のトレンド予測プラン作成</p> <p>15 今後のファッション業界の展望（対面）、オンラインショップ研究（Classroom） 対面：今後のSPAビジネス、EC、セカンドハンドウェアビジネス、個人ブランド等について Classroom：オンラインショップの分析</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：日本のファッション業界の仕組みを説明できる。
事前・事後学習	事前学習；ファッション誌やファッションサイト等で最新のファッショントレンドの知識を深めておくこと。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておく（60分）。 事後学習；実店舗やECサイトを企業と顧客、双方の視点から分析すること（120分）

指導方法	パワーポイントや画像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。 毎回テーマ毎に進めていき、今後のファッションビジネスプランを作成する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー・定期試験を評価する。 定期試験50%、課題35%、授業態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネット・SNSなどで最新のファッションやビジネスに関する情報を得ておくこと。 また、今後のファッションビジネスの可能性と変化に興味を持つこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F14C27	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション小売業において、良い商品、価値のある安さの提供は、どこの店でも当たり前であり、店の差別化の条件とはいえなくなっている。そのため、お客様に豊かな衣料サービスを提供できる販売スタッフが求められている。本講義では、ファッション販売に必要な接客技術や事務管理、商品知識、売場づくりの方法について解説する。また、ファッション小売業の現状と課題、進展についても取り上げて講義を行う。7月、12月に実施される「ファッション販売能力検定3級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ファッション業界で活躍できる人材として「ファッション販売能力検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：日々のニュース、店舗調査などからファッション小売業の現状と課題をあげ、解決方法を述べるができる。		
授業計画	1	ファッションビジネスの知識 (ZOOM) ファッション産業の分類、商品計画の流れについて	
	2	ファッション小売業の構造と特徴 (対面、Classroom) ファッション小売業の業態、リアルとネットの特徴について	
	3	ファッション小売業の構造と特徴 (対面、Classroom) ファッション小売業の業態、リアルとネットの特徴について	
	4	ファッション小売業のマーケティング戦略 (対面、Classroom) セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの設定について	
	5	ファッション小売業のマーケティング戦略 (対面、Classroom) セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの設定について	
	6	コンセプト、営業計画の策定 (対面、Classroom) トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、営業期と品ぞろえ計画、販売促進計画について	
	7	コンセプト、営業計画の策定 (対面、Classroom) トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、営業期と品ぞろえ計画、販売促進計画について	
	8	売場構成、商品陳列の基本知識 (対面、Classroom) VMDにおける3つの手法、空間構成の基本、商品陳列の基本技術について	
	9	売場構成、商品陳列の基本知識 (対面、Classroom) VMDにおける3つの手法、空間構成の基本、商品陳列の基本技術について	
	10	店舗調査の項目と方法 (対面、Classroom) 売場概略、商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて	
	11	店舗調査の項目と方法 (対面、Classroom) 売場概略、商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて	
	12	購買心理の7段階 (対面、Classroom) 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて	
	13	購買心理の7段階 (対面、Classroom) 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて	
	14	売場における計数管理 (対面、Classroom) 予算比と前年比、客単価と買上率、値入高と粗利益について	
	15	売場における計数管理 (対面、Classroom) 予算比と前年比、客単価と買上率、値入高と粗利益について	
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション販売員に必要な基礎知識である業務内容、商品知識、売場づくりの方法について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日々の新聞やニュース、店舗調査などからアパレル小売業の現状に触れる。分からない専門用語を調べてまとめておくこと (90分)。 事後学習：興味のある記事・ニュース、店舗調査内容をまとめる (90分)。		
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		

参考書	「ファッション販売3 ファッション販売能力検定試験3級公式テキスト」著者:大沼 淳 出版社:一般財団法人日本ファッション教育振興協会 「ファッション販売能力検定3級試験問題集」著者:財団法人日本ファッション教育振興協会 出版社:日本ファッション教育振興協会
履修上の注意	「ファッション販売能力検定試験3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「服飾造形論」「ファッション素材論」を併せて受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F14C28	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	マーケティングの基本理念は、消費者の利益を第一に考えた経営活動を行うことにある。その消費者のニーズに対応した商品を仕入れたり、つくらせたりする計画と管理の機能をマーチャンダイジング（商品計画）とよぶ。本講義は、商品計画の業務内容である商品企画から在庫管理に至る一連の流れについて明らかにしながら、価格設定の考え方、利益の構造などについて解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：小売業における商品企画のしくみを理解し、現状と課題を述べるができる。
授業計画	<p>1 マーケティングとマーチャンダイジングの違い（ZOOM） メーカーと小売業における4Pの違いについて</p> <p>2 マーチャンダイジングの構成要素（対面、Classroom） 商品計画の具体的な内容と策定方法、品ぞろえの幅と奥行について</p> <p>3 マーチャンダイジングの構成要素（対面、Classroom） 商品計画の具体的な内容と策定方法、品ぞろえの幅と奥行について</p> <p>4 戦略的な価格政策と心理的価格政策（対面、Classroom） 端数価格、段階価格、慣習価格、名声価格、均一価格について</p> <p>5 戦略的な価格政策と心理的価格政策（対面、Classroom） 端数価格、段階価格、慣習価格、名声価格、均一価格について</p> <p>6 マーケティング・ミックスの構築（対面、Classroom） 小売業における販売促進（プロモーション）の種類について</p> <p>7 マーケティング・ミックスの構築（対面、Classroom） 小売業における販売促進（プロモーション）の種類について</p> <p>8 小売業における売場陳列（対面、Classroom） スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストアにおける陳列方法について</p> <p>9 小売業における売場陳列（対面、Classroom） スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストアにおける陳列方法について</p> <p>10 VMDによる売場演出（対面、Classroom） ファッション小売業における売場演出の方法について</p> <p>11 VMDによる売場演出（対面、Classroom） ファッション小売業における売場演出の方法について</p> <p>12 売価決定と利益の構造（対面、Classroom） 売価と原価と利益の関係、値入高と粗利益高について</p> <p>13 売価決定と利益の構造（対面、Classroom） 売価と原価と利益の関係、値入高と粗利益高について</p> <p>14 在庫管理の意義（対面、Classroom） 過剰在庫と過少在庫の発生原因、商品回転率の算出方法について</p> <p>15 在庫管理の意義（対面、Classroom） 過剰在庫と過少在庫の発生原因、商品回転率の算出方法について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業における商品計画の流れを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新製品やヒット商品、ロングセラー商品に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅠ」日本商工会議所・全国商工会連合会編

参考書	「商品戦略と診断」 著者:大江 宏・村松 幸広・首藤 禎史 出版社:同友館
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F14C29	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	小売業における販売管理とは、事務管理から店舗管理、顧客管理まで多岐にわたる。本講義は、販売管理の基礎知識を学修し、販売に関わる事務管理や店舗管理、小売業に関する法規について解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界における販売員や店長として活躍できる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：小売業経営に必要な販売管理の留意点、法規の理解を深め、現状と課題を述べることができる。
授業計画	<p>1 販売員の目的と役割 (ZOOM) 販売員と顧客の関係、販売員に必要な販売管理の知識とは何か</p> <p>2 販売員のマナー (対面、Classroom) 販売員に必要なマナー、敬語について</p> <p>3 販売員のマナー (対面、Classroom) 販売員に必要なマナー、敬語について</p> <p>4 経営・事業全般・販売活動に関する法規 (対面、Classroom) 事業の許認可、売買契約、金券類の扱いと代金支払い方法の種類について</p> <p>5 経営・事業全般・販売活動に関する法規 (対面、Classroom) 事業の許認可、売買契約、金券類の扱いと代金支払い方法の種類について</p> <p>6 販売促進に関する法規 (対面、Classroom) 景品表示法、特定商取引法について</p> <p>7 販売促進に関する法規 (対面、Classroom) 景品表示法、特定商取引法について</p> <p>8 顧客の購買心理過程 (対面、Classroom) 顧客心理段階と接客技術について</p> <p>9 顧客の購買心理過程 (対面、Classroom) 顧客心理段階と接客技術について</p> <p>10 顧客管理の基本的役割 (対面、Classroom) 顧客満足経営の基本知識、CRM (カスタマーリレーションシップマネジメント) について</p> <p>11 顧客管理の基本的役割 (対面、Classroom) 顧客満足経営の基本知識、CRM (カスタマーリレーションシップマネジメント) について</p> <p>12 POSシステムと物流システム (対面、Classroom) POSシステムとバーコードのしくみ、販売データの活用方法、物流システムについて</p> <p>13 POSシステムと物流システム (対面、Classroom) POSシステムとバーコードのしくみ、販売データの活用方法、物流システムについて</p> <p>14 慶弔進物と売場演出の知識 (対面、Classroom) 包装の種類、和式進物包装、店内照明の種類と役割、色彩の効果について</p> <p>15 慶弔進物と売場演出の知識 (対面、Classroom) 包装の種類、和式進物包装、店内照明の種類と役割、色彩の効果について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：販売員に必要な店舗管理、小売業に関する法規について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で小売経営や販売に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく (90分)。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する (90分)。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト課題、受講態度および授業への貢献度によって評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅡ」日本商工会議所・全国商工会連合会編

参考書	「営業管理実務」 著者:営業管理研究会監修 出版社:産業能率大学出版部
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「商品企画」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F24C30	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の企業経営では、“マーケティングなくして経営なし”と言われるように、マーケティングは不可欠な位置づけにある。企業のマネジメントを遂行するためには、マーケティング機能をいかに統合的に組み合わせて展開するかが課題である。本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割やポイントについて理解を深める。 (授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解し、自分の見解や主張をまとめることができる。 ◎D：理論にもとづいて、企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例について考察し、現状と課題を述べることができる。
授業計画	<p>1 マーケティングとは (ZOOM) マーケティングの歴史的変遷、現代企業におけるマーケティングの役割について</p> <p>2 顧客価値と顧客満足 (対面、Classroom) 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係、コストパフォーマンスについて</p> <p>3 顧客価値と顧客満足 (対面、Classroom) 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係、コストパフォーマンスについて</p> <p>4 マーケティング環境の分析 (対面、Classroom) SWOT分析とポーターの5つの競争要因について</p> <p>5 マーケティング環境の分析 (対面、Classroom) SWOT分析とポーターの5つの競争要因について</p> <p>6 ブランド戦略 (対面、Classroom) ブランドの構成要素、ブランド・エクイティ (資産価値) について</p> <p>7 ブランド戦略 (対面、Classroom) ブランドの構成要素、ブランド・エクイティ (資産価値) について</p> <p>8 価格戦略 (対面、Classroom) 内的参照価格、場所・顧客・時期に基づく価格差別について</p> <p>9 価格戦略 (対面、Classroom) 内的参照価格、場所・顧客・時期に基づく価格差別について</p> <p>10 販売促進戦略 (対面、Classroom) プッシュ戦略とプル戦略の違い、販売促進の逆効果について</p> <p>11 販売促進戦略 (対面、Classroom) プッシュ戦略とプル戦略の違い、販売促進の逆効果について</p> <p>12 サービス・マーケティング (対面、Classroom) サービスの特性、優れたサービスの定義 (SERVQUAL) について</p> <p>13 サービス・マーケティング (対面、Classroom) サービスの特性、優れたサービスの定義 (SERVQUAL) について</p> <p>14 ソーシャル・マーケティング (対面、Classroom) 企業の社会的責任 (CSR)、コズ・リレーテッド・マーケティングについて</p> <p>15 ソーシャル・マーケティング (対面、Classroom) 企業の社会的責任 (CSR)、コズ・リレーテッド・マーケティングについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：マーケティングの基礎理論および用語を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと (90分)。 事後学習：興味ある新聞記事やニュース内容をまとめておくこと (90分)。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認のため実施する授業内小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「基礎コース マーケティング」 著者：小原 博 出版社：新世社

履修上の注意	日頃からニュースなどで企業が取り組むマーケティング戦略を確認しておくことで、マーケティングの基本的な発想法を単なる知識としてではなく、感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F24C31	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッションの「表現」や「買い方」は、この10年間で大きく変容し多様化した。「服」は脇役となり、日本のファッションビジネスはいま大きな壁にぶつかっている。本講義は、ファッションビジネスで多面的視点からより豊かな衣生活を提案できるようになることを目的に、時代別・年代別のファッションコミュニケーション表現について、あらゆる視点から考察する。さらに、トレンド把握や今後のファッションコミュニケーション手法の変化を考察していくとともにそれを自己表現する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界で必要となる様々なファッション表現を解説できる。</p>
授業計画	<p>1 ファッションコミュニケーションとは 本講義の概要、ファッションとコミュニケーションの関係、流行のファッションとその主張と表現の関係について</p> <p>2 古代・中世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴（対面）、好きなブランドのファッション表現リサーチ（Classroom） 対面：古代・中世ヨーロッパの階級・宗教とファッション表現の関係 Classroom：好きなハイブランドのファッション表現リサーチ</p> <p>3 古代・中世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴（対面）、古代・中世ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：古代・中世ヨーロッパの階級・宗教とファッション表現の関係 Classroom：古代・中世ヨーロッパファッションのキーワードとイメージマップ作成</p> <p>4 50・60年代のファッションコミュニケーションの特徴（対面）、古代・中世ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：戦後の消費価値観の変化と10人1色の時代のファッション表現 Classroom：古代・中世ヨーロッパファッションのキーワードとイメージマップ作成</p> <p>5 50・60年代のファッションコミュニケーションの特徴（対面）、50・60年代ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：戦後の消費価値観の変化と10人1色の時代のファッション表現 Classroom：50・60年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成</p> <p>6 70・80・90年代のファッションコミュニケーションの特徴（対面）、50・60年代ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：ライフスタイル啓蒙による10人10色から1人10色への変化とファッション表現 Classroom：50・60年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成</p> <p>7 70・80・90年代のファッションコミュニケーションの特徴（対面）、70・80・90年代ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：ライフスタイル啓蒙による10人10色から1人10色への変化とファッション表現 Classroom：70・80・90年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成</p> <p>8 マーケティングコミュニケーション（対面）、70・80・90年代ファッションのイメージマップ（Classroom） 対面：マーケティングコミュニケーションの手法、世代別コミュニケーション・ミレニアルとZ世代の比較 Classroom：70・80・90年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成</p> <p>9 マーケティングコミュニケーション（対面）、ミレニアル・Z世代の比較（Classroom） 対面：マーケティングコミュニケーションの手法、世代別コミュニケーション・ミレニアルとZ世代の比較 Classroom：ミレニアル・Z世代の比較</p> <p>10 ファッションコミュニケーションにて自己表現（対面）、ミレニアル・Z世代の比較（Classroom） 対面：ライフスタイル的表現 衣食住遊休知美 Classroom：ミレニアル・Z世代の比較</p> <p>11 ファッションコミュニケーションにて自己表現（対面）、ライフスタイルイメージマップ（Classroom） 対面：ライフスタイル的表現 衣食住遊休知美 Classroom：自己表現・ライフスタイルイメージマップ作成</p> <p>12 トrendから来るファッションコミュニケーション（対面）、ライフスタイルイメージマップ（Classroom） 対面：トレンド予測（WGSN）の元である社会現象のファッションコミュニケーション Classroom：自己表現・ライフスタイルイメージマップ作成</p> <p>13 トrendから来るファッションコミュニケーション（対面）、WGSNトレンド予測の検証（Classroom） 対面：トレンド予測（WGSN）の元である社会現象のファッションコミュニケーション Classroom：英国WGSN社のファッショントレンド予測シナリオの検証</p>

	14 D to C の今後のビジネス展開（対面）、WGSNトレンド予測の検証（Classroom） 対面：B to B, B to C そしてD to C のビジネス形態・コミュニケーション手法および今後の展開と変貌 Classroom：英国WGSN社のファッショントレンド予測シナリオの検証
	15 D to C の今後のビジネス展開（対面）、好きなブランドのファッション表現リサーチ（Classroom） 対面：B to B, B to C そしてD to C のビジネス形態・コミュニケーション手法および今後の展開と変貌 Classroom：好きなハイブランドのファッション表現リサーチ
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション業界に影響を及ぼした様々なファッション表現を理解する。
事前・事後学習	事前学習：日本経済新聞、日経MJ、WWD、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（90分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（90分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：毎回のリアクションペーパー・定期試験を評価する。 定期試験60%、課題25%、授業態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどでファッションビジネスに関する記事をチェックすること。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F14C32	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザインやデジタル制作の技術は専門家の限られた仕事だけでなく、教育や日々の暮らしの中でも使われるようになってきた。本講座ではそれらを基礎から段階的に修得し、学業や仕事で継続的に活用および実践することを目指す。 「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」他グラフィック系のソフトやアプリを用いてイラストや写真の基礎的な加工方法を修得する。 (授業目標) ◎E：デジタルの制作技術を活用し、オリジナルのグラフィック作品が作成できる。		
授業計画	1	デジタルツールを活用した制作方法 PC基本操作 (ZOOM) 制作用のツール・パソコンの使い方、インターネットでの資料収集の方法/著作権について	
	2	画像の加工方法 (1) Adobe Photoshop (対面)、Adobeのソフトについて (Classroom) 対面：Adobe Photoshopを用いた写真などの画像のトリミングについて Classroom：Adobe Photoshop、Adobe Illustratorの基本的な機能と違いについて	
	3	画像の加工方法 (1) Adobe Photoshop (対面)、Adobeのソフトについて (Classroom) 対面：Adobe Photoshopの色調補正などを使用した色彩表現の応用について Classroom：Adobe Photoshop、Adobe Illustratorの基本的な機能と違いについて	
	4	画像の加工方法 (2) Adobe Photoshop (対面)、Adobe Illustratorの使用方法 (Classroom) 対面：アナログで描いた線画のイラストをもとにした、Photoshopを用いた加工方法について Classroom：Adobe Illustratorの使用方法について動画を聴講し、確認問題に取り組む	
	5	画像の加工方法 (2) Adobe Photoshop (対面)、Adobe Illustratorの使用方法 (Classroom) 対面：Adobe Illustratorの図形ツールを使用したロゴ制作について Classroom：Adobe Illustratorの使用方法について動画を聴講し、確認問題に取り組む	
	6	ロゴ、フォント制作 (1) Adobe Illustrator (対面)、Adobe Photoshop応用技法 (Classroom) 対面：Adobe Illustratorのペンツールを使用した線画の制作とロゴの制作について Classroom：Adobe Photoshopの応用技法について動画を聴講後、確認問題に取り組む	
	7	ロゴ、フォント制作 (1) Adobe Illustrator (対面)、Adobe Photoshop応用技法 (Classroom) 対面：Adobe Illustratorのペンツールを使用した線画の制作とロゴの制作について Classroom：Adobe Photoshopの応用技法について動画を聴講後、確認問題に取り組む	
	8	ロゴ、フォント制作 (2) Adobe Illustrator (対面)、グラフィック系のソフト、アプリについて (Classroom) 対面：Illustratorを使用したロゴ、フォント制作の応用技法について Classroom：Adobe Photoshop、Adobe Illustrator以外のグラフィック系のソフト、アプリについての紹介と使用方法について	
	9	ロゴ、フォント制作 (2) Adobe Illustrator (対面)、グラフィック系のソフト、アプリについて (Classroom) 対面：Illustratorを使用したロゴ、フォント制作の応用技法について Classroom：Adobe Photoshop、Adobe Illustrator以外のグラフィック系のソフト、アプリについての紹介と使用方法について	
	10	Adobe Photoshop、Adobe Illustratorの併用 (対面)、習作について (Classroom) 対面：Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを併用した制作とこれまでの技術の確認 Classroom：参考作品 (グラフィックデザイナー等の作品) の解説	
	11	Adobe Photoshop、Adobe Illustratorの併用 (対面)、習作について (Classroom) 対面：Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを併用した制作とこれまでの技術の確認 Classroom：参考作品 (グラフィックデザイナー等の作品) の解説	
	12	オリジナルポスター制作 (1) Adobe Photoshop、Adobe Illustrator等併用 (対面、Classroom) テーマ、構成決め 使用可能なソフト、アプリ等を使用し、進められる作業を行う	
	13	オリジナルポスター制作 (2) Adobe Photoshop、Adobe Illustrator等併用 (対面、Classroom) 写真の加工、フォント、ロゴ等の素材作成 使用可能なソフト、アプリ等を使用し、進められる作業を行う	
	14	オリジナルポスター制作 (3) Adobe Photoshop、Adobe Illustrator等併用 (対面、Classroom) 写真の加工、フォント、ロゴ等の素材作成 使用可能なソフト、アプリ等を使用し、進められる作業を行う	
	15	オリジナルポスター制作 (4) Adobe Photoshop、Adobe Illustrator等併用、講評 (対面、Classroom) 作品の完成と講評	
学習成果・到達目標・基準	◎E：「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」他グラフィック系のソフトやアプリの基本的な技術を用いて画像の加工ができる。		

事前・事後学習	事前学習:雑誌やWebサイトにて、身の回りの広告物をよく観察する(30分) 事後学習:授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う(30分)
指導方法	対面授業ではプロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 操作に遅れの出る学生の出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 Classroomにて課題の解説動画などを投稿する。 フィードバックの仕方:各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E:課題提出物、受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物70%、授業態度・貢献度30%
テキスト	オンライン教材及びプリントを提供する。
参考書	Webサイト:伝わるデザイン http://tsutawarudesign.com/ 書籍:伝わるデザインの基本 増補改訂版 (2016/8/5) 著者:高橋 佑磨, 片山 なつ 出版社:技術評論社 書籍:Webポートフォリオ・デザインブック SNS時代のクリエイティブの見せ方・伝え方 (2018/2/27) 著者:小島 幸代, 草野 恵子, 北川 貴清 出版社:エムディエヌコーポレーション
履修上の注意	デジタル技術はあくまでも表現の手段として活用するので、専門的なPCの知識は必要ない。 技術の習得のため、Classroom等でソフトやアプリの使用方法を予習、復習すること。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F24C36	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICTの進化とスマートフォンの普及により、表現の進化が促され、ビジネスパーソンにとってデジタルリテラシーは必須のものとなっている。本授業は、ファッション業界の仕事に必要なデジタル関連の情報や知識を概説し、仕事に役立つテクニックを磨くために「Imovie」「Keynote」「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」の基本操作を身につける。さらに、デジタルでの課題制作をとおして表現力や独創性を高める。 (授業目標) ◎E：Macintoshの操作方法を理解し、「Imovie」「Keynote」「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」の基本操作を身につける。
授業計画	<p>1 デジタルツールを活用した制作方法 PC基本操作 (ZOOM) Macintosh (MacBook Pro) の基本操作とスマートフォンの設定等について</p> <p>2 Keynoteの基本操作 (対面) Adobe Photoshop使用法 (Classroom) 対面：Keynoteを使用した個人ワークと写真撮影について Classroom：Adobe Photoshop使用方法についての動画等を聴講し、確認問題に取り組む</p> <p>3 Keynoteの基本操作 (対面) Adobe illustrator使用法 (Classroom) 対面：Keynoteを使用した個人ワークと写真撮影について Classroom：Adobe Photoshop使用方法についての動画等を聴講し、確認問題に取り組む</p> <p>4 画像の加工方法 (1) Adobe Photoshop (対面)、優れたレイアウトについて (Classroom) 対面：参考作品のトレースをもとにした、Photoshopを用いた加工方法について Classroom：Adobe Illustratorの使用方法について動画を聴講し、確認問題に取り組む</p> <p>5 画像の加工方法 (1) Adobe Photoshop (対面)、優れたレイアウトについて (Classroom) 対面：参考作品のトレースをもとにした、Photoshopを用いた加工方法について Classroom：Adobe Illustratorの使用方法について動画を聴講し、確認問題に取り組む</p> <p>6 画像の加工方法 (2) Adobe Photoshop (対面)、優れたデザインについて (Classroom) 対面：Adobe Photoshopを使用したポスター制作 Classroom：ロゴ等のデザインのアイデアについてのテキストに取り組む</p> <p>7 画像の加工方法 (2) Adobe Photoshop (対面)、優れたデザインについて (Classroom) 対面：Adobe Photoshopを使用したポスター制作 Classroom：ロゴ等のデザインのアイデアについてのテキストに取り組む</p> <p>8 画像の加工方法 (3) Adobe Illustrator (対面) 動画の作成について (Classroom) 対面：Adobe Illustratorを使用した個人ワーク Classroom：動画作成に使用するソフト、アプリの動画を視聴し、確認問題に取り組む</p> <p>9 画像の加工方法 (4) Adobe Illustrator (対面) 動画の作成について (Classroom) 対面：Adobe Illustratorを使用した個人ワーク Classroom：動画作成に使用するソフト、アプリの動画を視聴し、確認問題に取り組む</p> <p>10 動画の作成について (1) (対面) 動画プラン、素材作成 (Classroom) 対面：Adobe のソフト、Macのアプリを使用した動画作成 Classroom：動画のプラン、素材作成</p> <p>11 動画の作成について (1) (対面) 動画プラン、素材作成 (Classroom) 対面：Adobe のソフト、Macのアプリを使用した動画作成 Classroom：動画のプラン、素材作成</p> <p>12 動画の作成について (2) (対面) 動画の素材作成 (Classroom) 対面：Adobe のソフト、Macのアプリを使用した動画作成 Classroom：動画のプラン、素材作成</p> <p>13 動画の作成について (2) (対面) 動画の素材作成 (Classroom) 対面：Adobe のソフト、Macのアプリを使用した動画作成 Classroom：動画のプラン、素材作成</p> <p>14 動画の作成について (3) (対面) 動画の素材作成 (Classroom) 対面：Adobe のソフト、Macのアプリを使用した動画作成 Classroom：動画のプラン、素材作成</p> <p>15 動画の作成について (3) (対面) 動画の素材作成 (Classroom) プレゼンテーション (ZOOM) 対面：優秀作品発表 Classroom：動画のプラン、素材作成 ZOOM：作業後、動画作品のプレゼンテーション</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：Macintoshの基本的な操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：VOGUE、Harper's BAZAAR、ELLE DECOなどのファッション誌およびインテリア誌のレイアウトを中心にデザインについての知識を深めておく (20分)。 事後学習：あらゆるメディアをビジュアルの視点から比較検討する (25分)。

指導方法	Macintosh (MacBook Pro) を操作する演習が中心で、Imovie、Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator のソフトを使いながら、使用法や活用法を指導する。パワーポイント、映像を使つての講義や、課題制作を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題作品制作のオリジナリティを評価する。 課題作品 40%、チーム課題作品 40%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	授業では、自身のスマートフォンを活用する。 また毎日、あらゆるメディアでデジタル関連の記事をチェックすること。
アクティブ・ラーニング	・実習 ・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング：F34C37	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デジタルテクノロジーの急速な進化により、今や動画は、個人が気軽に発信し視聴できるものとなった。本授業は、インターネットを通じたコミュニケーション関連の情報や知識を概説し、仕事に役立つ動画制作スキルを磨くために「iMovie」「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」「You tube」などの基本操作を身につける。さらに、デジタルでの課題制作をとおして表現力や独創性を高める。 (授業目標) ◎E：Macintoshの操作方法を理解し、「iMovie」「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」「You Tube」などを使用した動画作成ができる。
授業計画	<p>1 Macintoshの使い方 本講座の概要、Macintosh (MacBook Pro) の基本的な操作の説明、最後に提出してもらった制作課題の説明をする。制作したい課題の内容について、アイデアを出し合う。</p> <p>2 iMovieやYou Tubeの基本操作と課題作成の準備 iMovieやYou tubeの基本操作を習得しながら、これらを使用した課題制作をどんな内容にするのか考える。</p> <p>3 iMovieやYou Tubeの基本操作と課題作成の準備 iMovieやYou Tubeなどの基本的操作を習得しながら、これらを使用した課題制作をどんな内容にするか考える。</p> <p>4 iMovieの基本操作と課題制作 (実習) iMovieにより課題作品を実践的に習得する。自分で決めた内容に沿って、作成してみる。</p> <p>5 iMovieの基本操作と課題制作 (実習) iMovieにより課題作品を実践的に習得する。自分で決めた内容に沿って、作成してみる。</p> <p>6 プレゼンテーション 制作した内容を発表する。また、公開方法とアクセス件数、更新方法、コメントなどのルール、マナーについても学ぶ。</p> <p>7 プレゼンテーション 制作した内容を発表する。また、公開方法とアクセス件数、更新方法、コメントなどのルール、マナーについても学ぶ。</p> <p>8 ホームページの作成 アパレル業界やライフスタイル業界における興味のある企業を検索し、ホームページの見せ方を学ぶ。最終的には、興味のある商品を選び、そのPR戦略としてホームページを作成する。</p> <p>9 ホームページの作成 アパレル業界やライフスタイル業界における興味のある企業を検索し、ホームページの見せ方を学ぶ。最終的には、興味のある商品を選び、そのPR戦略としてホームページを作成する。</p> <p>10 作成したホームページを発表する 作成したホームページを発表する。また、ホームページの公開方法、更新方法を学ぶ。また、コメント書き方やアクセス件数など公開における注意点なども確認する。</p> <p>11 作成したホームページを発表する 作成したホームページを発表する。また、ホームページの公開方法、更新方法を学ぶ。また、コメント書き方やアクセス件数など公開における注意点なども確認する。</p> <p>12 Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proの基本的な操作 Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proを使用した動画編集をする。既存のイラストや動画を使用する場合の著作権のルールについて知る。</p> <p>13 Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proの基本的な操作 Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proを使用した動画編集をする。既存のイラストや動画を使用する場合の著作権のルールについて知る。</p> <p>14 プレゼンテーション Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proによって作成した動画を発表する。本講義の総まとめとしてSNS公開や情報に関する注意点を学ぶ。</p> <p>15 プレゼンテーション Adobe After EffectsやAdobe Premiere Proによって作成した動画を発表する。本講義の総まとめとしてSNS公開や情報に関する注意点を学ぶ。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：「iMovie」「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」「You Tube」などの基本的な操作ができ、HP作成ができるようになる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション、インテリア誌やSNSに紹介されている商品のレイアウト方法や動画での紹介方法などの知識を深めておく (20分)。 事後学習：You Tubeやファッションやライフスタイル関連のHPやtwitter、instagramなどあらゆるメディアをビジュアルの視点から比較し購買力につながる効果などを調べておく (25分)。

指導方法	Macintosh (MacBook Pro) を操作する演習が中心で、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、iMovieなどのソフトを使いながら、使用法や活用法を指導する。パワーポイント、映像を使って講義しながら、課題制作を行う。最終的には個人で作品を制作し、プレゼンテーションを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題作品制作のオリジナリティとこだわりを評価する 課題作品 40%、作品の発表 40%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してもその都度指示。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	授業では、自身のPC、スマートフォンを活用する。 毎日、あらゆるメディアでデジタル関連の記事をチェックすること。
アクティブ・ラーニング	・実習 ・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	PC, スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択必修
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F15B38	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	卒業後、現場スタッフとしてだけでなくマネージャーや店長など管理職に就いた際にも役立つ、ウエディングビジネスに必要な知識や考え方を学ぶ。ウエディングの現場で求められる『6つのコミュニケーション』をベースに、専門的かつ実践的なスキルを身につける事ができる。ウエディングホスピタリティの集大成として、共感力あふれるコミュニケーションを磨いていく。 (授業目標) ○C：ウエディングを経営的視点で理解し、より効果的な運営について考える事ができる ◎D：ウエディングをビジネス的視点で理解するために必要な知識を得る事ができる
授業計画	<p>1 ウエディングビジネスのキャリアプラン 結婚、出産というプライベートの人生を視野に入れながら、ウエディング業界の働き方にはどのような選択肢があるのかを探り、長期的なヴィジョンでウエディングビジネスを考える。</p> <p>2 ウエディング業界のニューノーマルビジネス 2020年のパンデミックで大きく変化したウエディングビジネスの世界とこれからの方向性を探る。フルデジタル化という視点で、カップルとの打ち合わせやオンラインウエディングについて詳しく知る。</p> <p>3 ビジネスの現場コミュニケーション B-to-All ビジネス現場のコミュニケーションを6つに分類したB-to-Allという視点で、現実の仕事の世界観を知る。またAIとの共存時代に求められる共感力とホスピタリティの視点も取り入れてビジネスコミュニケーションを理解する。</p> <p>4 B-to-Allコミュニケーション① to Boss インサイド(社内)における上司とのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>5 B-to-Allコミュニケーション② to Staff インサイド(社内)における同僚や部下とのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>6 B-to-Allコミュニケーション③ to Partner バックエンド(社外)におけるベンダーやパートナー企業とのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>7 B-to-Allコミュニケーション④ to Supporter バックエンド(社外)における、コラボレーション企業やコンサルテーション企業などのサポーターとのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>8 B-to-Allコミュニケーション⑤ to Business Client フロントエンド(顧客)における法人顧客とのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>9 B-to-Allコミュニケーション⑥ to Customer フロントエンド(顧客)におけるパーソナルユーザーとのコミュニケーションの在り方と、具体的な話し方をスクリプトを参考にしながらケーススタディを通じて学ぶ。</p> <p>10 ウエディングの集客ビジネス ウエディングビジネスで最も難しく、かつ経営に直結する集客ビジネスを特にSNSを中心に学ぶ。かつての紙面やHPの役割の変化や、新たなWEB集客の手法など、ニューノーマル時代の知識を学ぶ。</p> <p>11 ウエディングのセールスコミュニケーション ウエディングプランナーの中心的業務である『新規接客』の価値や手法を学び、プランニングが商品であることを理解する。</p> <p>12 アフター(プレ)ウエディングのコミュニケーション アニヴァーサリーをはじめとした、ウエディング以降の顧客との繋がりについて学ぶ。一方で、婚活ビジネスについても触れ、ウエディングビジネスのターゲットであるカップルを創出する考え方も理解する。</p> <p>13 ブライダルフェアと試食のプラン 会場への集客手法のひとつであるブライダルフェアの役割について学ぶ。告知から資料請求、さらに来館誘導などビジネス的視点でブライダルフェアの設計手法を知る。決定要因のひとつとされる試食会の運営事例を通じて、魅力あるブライダルフェアの作り方を理解する。</p> <p>14 ブライダルフェアと試着のプラン 料理に並ぶ決定要因のひとつとされる婚礼衣装を紹介するための試着会の運営の方法を学ぶ。ブライダルフェアならではの、衣装の選定、ヘアメイクの提供、コーディネートの事例、などの事例を通じて、魅力ある試着会の作り方を理解する。</p> <p>15 ウエディングのプロフェッショナルになるために</p>

	第一回から十四回までの総まとめ。ウエディングのプロフェッショナルとはどんな人物像なのか？就職後、さらに自己研鑽すべきことはどんな事なのか？ウエディングを主軸にしたキャリアデザインを描きながら、長期的に働く自分像を明確にする。
学習成果・到達目標・基準	○C：ウエディングの広告の特徴や役割、またその種類についての知識がある ◎D：ウエディングの1年間のビジネスの特徴についての知識がある
事前・事後学習	事前学習：受講した授業の最後に示される次回の授業で使う専門用語の意味を調べておく（30分） 事後学習：授業の最後に出る課題(秋のブライダルフェアのタイトルを考える、など)をまとめる（150分）
指導方法	毎回、ウエディングの現場から収集した具体的な事例から、その回のテーマにつなげる。学生は、ウエディング企業の社員の視点で授業に参加するように構成しているため、未体験の現場について身近な感覚で触れる事ができる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題や発言が『社会人』の視点にたっているか？ D：課題や発言の中に授業で学んだウエディングの専門用語が正しく使われているか？ 定期試験50%、授業内のワークで作成した制作物30%、授業への貢献度20%
テキスト	テキスト：共感力の鍛え方
参考書	
履修上の注意	特になし
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F15C33	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>漠然としたウエディング業界について、深く理解することができるようになる、ウエディング業界のナビゲーター、案内役としての位置づけの授業。ウエディングの仕事に携わるために必要な仕事の哲学や、ウエディング独特のホスピタリティなどの基本的姿勢、仕事に欠かせない共感力コミュニケーション、および業界のしくみ、業種や職種など、最新の情報を学ぶことができる。リアルな現場で働くプロフェッショナルも講師として迎え、ウエディング業界を将来の就職の選択肢の一つとして捉えるための、客観的な判断ができるようになる。</p> <p>(授業目標) ○C：ウエディングの仕事と役割から適性を判断し、自己のキャリアデザインに結びつけられる。 ◎D：ウエディングビジネス業界についての幅広い知識を身に付け、共感力コミュニケーション、ウエディングホスピタリティの考え方を理解する。</p>
授業計画	<p>1 ウエディング業界に求められるホスピタリティ ウエディングビジネスに必要なホスピタリティの理論と姿勢をウエディングの視点から学ぶ</p> <p>2 ウエディングビジネスに必要な共感力コミュニケーション 人にしかできない仕事であるウエディングの仕事に欠かせない共感力コミュニケーションについて学ぶ</p> <p>3 ウエディング・マーケットの現状と未来 ウエディングビジネスが対象とする『結婚適齢層』について学ぶ また、今後のウエディングビジネスについてデータを元に予測する</p> <p>4 ウエディングビジネスの歴史 第二次世界大戦後からを中心にその歴史を学ぶ</p> <p>5 ウエディングビジネスの種別 会場編 ハードを中心とした会場ビジネスについて深く知る</p> <p>6 現場から見るウエディング会場の現状(ゲスト講師・衣川雅代氏) ゲストハウスを事例にした、会場ビジネスの現状を学ぶ 同時にウエディングビジネスの中心的な職業であるウエディングプランナーという仕事についてリアルな現状を知る</p> <p>7 ウエディングビジネスの種別 衣裳編 ウエディング業界で大きな役割を担う婚礼衣装業について詳しい知識を得る 同時にドレススタイリストという職業の魅力や特徴を知る</p> <p>8 現場から見る婚礼衣装業(ゲスト講師・榎丸三屋 頼金氏) 前回の講義で勉強した衣裳会社のビジネスを現場の視点でさらに深く理解する</p> <p>9 花嫁のためのホスピタリティを学ぶ(ゲスト講師・宝田ひろみ氏) 花嫁の美しさに責任を持って仕事をするとはどのような事かを、ドレスのアンダーウェアのコーディネーターの視点から学ぶ</p> <p>10 ウエディングビジネスの種別 集客業 ウエディングビジネスの要ともいえる集客ビジネスについて深く知る</p> <p>11 ウエディングビジネスの種類 宴会サービス編 ウエディングの現場オペレーションの花形職業であるの中心である宴会キャプテンの仕事について学ぶ</p> <p>12 ウエディングビジネスの種類 写真、映像編 女性に人気のフォトグラファー、ビデオグラファーについて仕事について深く知る</p> <p>13 ウエディングビジネスの種類 ヘアメイク編 花嫁ビューティの要、ヘアメイクやサロンワークについて深く知る</p> <p>14 ウエディングビジネスの種別 その他の業種 ジュエリー、フロリスト、S&Lプランナー、司会者など、周辺業務について深い知識を得る</p> <p>15 ウエディングビジネスのキャリアデザイン 自分がウエディング業界に進む場合のキャリアデザインを行う</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：ウエディングの仕事と役割を理解し、自己のキャリアデザインの参考にすることができる ◎D：ウエディングビジネスの種別を説明することができる
事前・事後学習	事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。(90分) 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。(90分)
指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。

アセスメント・成績評価の方法・基準	C:レポートや発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 D:授業内の質問シート、お礼状、テキストのリーディングシート、3種別の提出物等の出来映えで評価する。 定期試験50%、授業への貢献度20%、質問シート10%、お礼状10%、リーディングシート10%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21 プリント配布:テキスト『共感力の鍛え方』を精読するためのリーディングワークシート ウエディング業界基本用語クエスチョンシート 業種特性比較一覧表 3名のゲスト講師へのお礼状
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングセレモニー」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 単位確定の学生は、(一般社団法人)日本ホスピタリエ協会のホスピタリエ認定の受験資格が得られる。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F25C34	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 (授業目標) ◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って最後までチームでやり遂げることができる。 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。		
授業計画	1	ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢	
	2	結婚式の意味と意義 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ	
	3	結婚式の歴史とハード 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ	
	4	キリスト教式の結婚式 ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	5	神前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	6	人前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	7	人前式の企画手法 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える	
	8	コンセプト立案 グループワーク 1 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る	
	9	進行の決定 グループワーク 2 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPより拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る (音楽演出手法を学ぶ)	
	10	進行の決定 グループワーク 3 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る	
	11	進行の決定/ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク 4 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する	
	12	進行の確認とリハーサル グループワーク 5 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 進行を再確認し、『場当たり』をする	
	13	進行の確認とリハーサル グループワーク 6 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	14	進行の確認とリハーサル グループワーク 7 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	15	模擬結婚式 (夏期休暇中) ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習、プレゼンテーション) (スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証) 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げまでを実施	
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ○E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイデアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。(30分) 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。(60分)		
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った講義形式。		

	<p>また、毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、ノートがもう一つの教材になるような仕組みとする。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、また具体的な事例も挙げ、興味を持って授業に臨める環境をつくる。</p> <p>第8回目から第12回目までは、グループワークとなるため、毎回の授業のテーマや着地点などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。</p> <p>フィードバックの方法：ワークシートにより担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。なお、これにより、授業の最後に目標とした作業が完了しているかどうかを確認可能となり、次回授業までの課題が明確になる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って実施しているかの観点 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点 A：第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式準備貢献度</p> <p>模擬結婚式の完成度20% 模擬結婚式準備貢献度20% 模擬結婚式実施貢献度20% 振り返りシート20% ミニテスト20%</p>
テキスト	<p>究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会</p>
参考書	
履修上の注意	<p>夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディング ナビゲーション」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 ブライダルコーディネーター技能検定要件科目</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
ナンバリング：F15C35	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。特に花嫁のインナービューティに関わる視点から学習し、挙式までのさまざまなビューティのプログラムを習得し、花嫁のトータルコーディネイトが企画立案できるように身につける。 （授業目標）花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身に付ける。 ○D：ウエディングドレス、ヘアメイク、エステティック、ジュエリーなど企業研究を通じてウエディングビューティビジネスに関わる基本的知識を身に付ける。 ◎E：マーケットに合致したコンセプトづくりから具体的な花嫁のウエディングをビューティの視点で企画提案ができる。
授業計画	1 ウエディングビューティについての考え方を学ぶ（クリッカー・意識調査） ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢および共感力コミュニケーションを駆使した花嫁心理の理解とカウンセリング手法を得る。 2 婚装衣装の基礎知識（クリッカー：意識調査） 国内外の婚装衣装の歴史と衣装の基礎知識を学ぶ。また、コーディネート手法についても触れる。 3 招待客の装い（クリッカー：意識調査） ウエディングゲストの衣装の正しいマナー、知識を得る。また、新郎の衣装についても触れる。 4 ブライダルスタイリストという仕事（クリッカー：意識調査） ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法を得る。 5 ブライズビューティプログラム①インナービューティ（クリッカー：意識調査） インナービューティの考え方を習得し、花嫁の挙式までのビューティプログラムについて基礎知識を得る。 6 ブライズビューティプログラム②ブライダルエステのメニュー（クリッカー：意識調査） ブライダルエステのメニューについて基礎知識を得る。また、挙式までのプログラムの考案ができるようになる。 7 ブライズビューティプログラム③ビューティスケジュール（クリッカー：意識調査） 花嫁のビューティスケジュールについてエステティック、ヘアメイク、ネイルの組み込み方について知識を得る。また、ヘアメイク、ネイルのコーディネートにも触れる。 8 ブライズビューティプログラム④ビューティエクササイズ（クリッカー：意識調査） ビューティエクササイズとして運動方法の手法を得る。また、花嫁の悩みに応じたアドバイスが出来るようになる。 9 ブライズビューティプログラム⑤ボディメイク(補正下着)（クリッカー：意識調査） 花嫁のインナーウェアについての基礎知識を得る。ドレス別に応じた使用事例にも触れる。 10 ブライズビューティプログラム⑥ニュートリション(栄養)（クリッカー：意識調査） ビューティに関わる食生活についての基礎知識を得る。美容や健康に必要な食品や摂取方法についても触れる。 11 ブライズビューティプログラム⑦モチベーション（クリッカー：意識調査） ブライズビューティを継続するための花嫁心理について基礎知識を得る。環境変化に応じた心理変化や挙式前の花嫁心理に触れ、カウンセリングのための心構えの手法を知る。 12 ブライズビューティプログラム⑧まとめ（クリッカー：意識調査） ブライズビューティプログラム①回から⑦回までのまとめとして自身のインナービューティプログラムを作成し、実際に自身で体感できる目標を設定する。また、コンセプト事例に沿った花嫁のビューティプログラムを考案する。 13 体型別ドレス選び（クリッカー：意識調査） 花嫁の体型別ドレス選びについて基礎知識を得る。また、ドレス小物合わせについても触れ、ヘアメイクやネイルについてもトータルでコーディネートする手法を知る。 14 ブライズビューティカンパニー①（グループワーク、プレゼンテーション）（クリッカー・意識調査） ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する。 15 ブライズビューティカンパニー②（グループワーク、プレゼンテーション）（クリッカー・意識調査）

	ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する
学習成果・到達目標・基準	○D：洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティについて説明できる。 ウエディング企業をリサーチする視点を持てる。 ◎E：花嫁の希望に沿ったウエディングビューティのトータルコーディネイトを企画提案できる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。(30分) 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。(60分)
指導方法	第1回から第13回まではパワーポイントを使った講義形式。クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第14回から第15回は実習形式。トータルビューティの提案のためのプライズカルテを使用する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：新郎新婦の衣裳、およびウエディングコスチューム企業についての知識を持っているか。 E：コンセプトに沿ったウエディングビューティをトータルコーディネイトし提案することができるかを評価する。 授業への貢献度30%、プレゼンテーション30%、課題提出30%、ミニテスト10%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 ・ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会（前期に購入した方は不要） ・プリント配布 プライズカルテ ・パワーポイントフォーマット配布 プレゼンテーションのプロセス
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングナビゲーション」「ウエディングセレモニー」を履修することが望ましい。なお、ウエディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
鈴木はるみ			
ナンバリング：F25C36	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランニングに必要な①傾聴、②企画、③提案を基本にした23段階の理論（23-Step）を学び、あらゆるカップルに対し、コンセプトメイクの手法を修得する。後半のケーススタディを通じて、ウエディングをはじめとするイベントプランニングの具体像を理解する。 ◎C：①傾聴、②立案、③提案の順序に沿ってコンセプトを導き出し、ウエディングのプランニングができる。 ○D：ウエディングのプランニングの23段階の理論（23-Step）を正しく説明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プランニングとは？（クリッカー：理解の確認） 演出の基本的概念と演出に使われる用語の意味を理解する。 2. プランニングの23-stepメソッド（クリッカー：理解の確認） 演出のための23段階の理論（23-Step）にわたるメソッドのしくみを理解する。 3. コンセプトメイク1（クリッカー・理解の確認） コンセプトの概念とコンセプトメイクの手法を学ぶ。 4. コンセプトメイク2（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） 事例に沿ってコンセプトメイクについての理解を深める。 5. ログラインとテーマ（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ログラインとテーマの概念学び、事例分析をする。 6. コンセプトストーリーメイク（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） コンセプトストーリーの概念を理解し、コンセプトメイクの全体像を把握する。 7. アイテムへの落とし込み（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） コンセプトを各アイテムに落とし込む手法を学ぶ。 8. プランニングに必要なアウトプットフォーマット（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） 演出の現場で使われるフォーマットの種類と使い方を学ぶ。 9. レイアウト手法（クリッカー：理解の確認）（実習） レイアウトの基本とフォーマットへの落とし込み手法を学ぶ。 10. スクリプトの書き方（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） アイテムの選定、レイアウトの確定に沿ったスクリプトの書き方を学ぶ。 11. 音楽・照明・映像の演出手法（クリッカー：理解の確認） 音楽、照明、映像という時間軸演出の手法を演出機器の知識とともに学ぶ。 12. ケーススタディ①（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。 13. ケーススタディ①（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。 14. ケーススタディ②（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。 15. ケーススタディ②（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習、プレゼンテーション） ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。
学習成果・到達目標・基準	◎C：提示されたコンセプトに沿ってプランニングをすることができる。 ○D：ウエディングのプランニングシート23段階の理論（23-Step）の概要が言える。
事前・事後学習	事前学習：用語帳の復習のうえ、ヒアリングデータを読みこんでおく。（90分程度） 事後学習：演出の専門用語を用語帳にまとめる。（90分程度）
指導方法	プランニングの基礎となる23段階の理論（23-Step）についての講義。 その理解を深めるために後半ではケーススタディを導入。授業の進行とともに学生自身が作成する専門用語の用語帳を活用。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：示されたケーススタディに対して、ふさわしいコンセプトを選ぶことができるか評価する。 D：示されたケーススタディからプランニングシートに記入することができるか評価する。 定期試験50%、授業への貢献度50%
テキスト	ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会 究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』著者 安東徳子（1年次に購入した方は不要）

参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングレセプション」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	クリッカー

講義科目名称： ウエディング ビジュアルプレゼンテーション 授業コード： 1141
論

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
越智亮二			
ナンバリング：F25C37	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングにおいて営業や集客のためのプレゼンテーションや広報する技術は、大変重要である。企業のホームページ、SNS、ロコミ等のメディアや情報ツールの比較検討やSWOT分析を通じてプレゼンテーションや広報の重要性とテクニックを学ぶ。実務の専門家によるペーパーアイテム2回、写真2回、コラージュ2回、Webメディア2回、映像2回、グラフィックデザイン2回、プレゼンテーション1回の授業構成からウエディングに係るプレゼンテーションの理論と技術を修得する。 (授業目標) ○B：対象に合わせたプレゼンテーションを複数のビジュアル表現ツールを活用し、作成することができる。 ◎E：ビジュアル表現ツールを活用し、伝えるためのメディアデザインをすることができる。
授業計画	<p>1 ウエディングとビジュアル・プレゼンテーション<ガイダンス> ビジュアル・プレゼンテーションの必要性を理解し、活用事例で理解を深める</p> <p>2 webメディアデザイン① <講師：越智>(クリッカー：理解の確認) 集客業務に必要なwebメディアの種類とクロスメディア手法</p> <p>3 写真① <ゲスト講師：奥野講師> 撮影の基本を学ぶ</p> <p>4 写真② <ゲスト講師：奥野講師>(実習) データの活用手法を学ぶ(web、アルバム、ペーパーアイテム、パンフレット等)</p> <p>5 webメディアデザイン② <講師：越智>(クリッカー：理解の確認) 最新のHPメディアと今後の流れとSNSメディアの具体的な活用法と今後の流れ(色・フォント・デザイン)を学ぶ</p> <p>6 映像① <ゲスト講師：田口講師>(グループワーク) 撮影の基本を学ぶ</p> <p>7 映像② <ゲスト講師：田口講師>(グループワーク) データの活用手法を学ぶ(web、披露宴映像演出、PV等)</p> <p>8 コラージュの手法 <ゲスト講師：高本講師> コラージュで表現する世界観を学ぶ</p> <p>9 コラージュの活用 <ゲスト講師：高本講師>(グループワーク) 目的別コラージュの活用方法を学ぶ</p> <p>10 イメージデジタルデッサン① <ゲスト講師：越智講師> 創り上げたヴィジュアルイメージを伝えるためのデジタルデッサンの手法を学ぶ ロゴ、エンブレムなどの活用手法を学ぶ</p> <p>11 イメージデジタルデッサン② <ゲスト講師：越智講師>(実習) デジタルデッサンのワークショップ</p> <p>12 ペーパーアイテム① <ゲスト講師：久保田講師> ウエディングのペーパーアイテムの種類とトータリティを学ぶ</p> <p>13 ペーパーアイテム② <ゲスト講師：久保田講師>(実習) ウエディングのペーパーアイテムの種類とトータリティ</p> <p>14 効果的なプレゼンテーション① <講師：越智>(クリッカー：理解の確認) パワーポイントを活用し効果的なウエディングプレゼンテーションを学ぶ。</p> <p>15 まとめとデモンストレーション (クリッカー：理解の確認) 各メディアを活かしたトータルプレゼンテーションのデモを通じてヴィジュアルプレゼンテーションの全容を理解する。</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：得意とする1種類のビジュアル表現ツールを使い、プレゼンテーション資料を作成することができる。 ◎E：各ビジュアル表現ツールの活用方法がわかり、使用方法も理解している
事前・事後学習	事前学習：Classroom実習ノート(事前学習)に沿って課題に取り組む(90分) 事後学習：Classroom実習ノート(事後学習)のワークページを必ず完成させておく。(90分)
指導方法	毎回、高い専門性をもつゲスト講師を招き、時代にマッチした知識と技術を合わせて学ぶ。 Classroom実習ノートを活用し、ビジュアルプレゼンテーションをトータルに理解できるようにする。 毎授業ごとに課題を定時しClassroom実習ノートに提出 ① 事前課題を提示 ② レポート提出(学生) ③ 指摘事項を記入し返却 ④ 再提出
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：授業内のワークで課題に相応しい表現ができること。 E：ウエディングに相応しいビジュアル表現ツールを活用した資料の作成方法を理解しているか。 定期試験50%、授業内のワークで作成した制作物30%、Classroom実習ノート提出状況と授業への貢献度20%

テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	ウェディングモデル希望者は、pptの基本操作修得を履修条件とする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F35C38	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	これまで修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬挙式、模擬披露宴を計画し、実施する。チームで行うことを通じて授業目標を達成する。 (授業目標) ◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのプロフェッショナルの視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し実施することができる。 ○E：プランニングの23-stepに基づき、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。
授業計画	<p>1 セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。</p> <p>2 パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。</p> <p>3 ウエディングメニュー ウエディングメニューの概念、条件、および種類について学ぶ。</p> <p>4 ウエディングビバレッジ ウエディングビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。</p> <p>5 レセプションの進行 レセプションの進行とスクリプト作成の復習</p> <p>6 サービスコンセプトとオペレーション サービスコンセプトの考え方とオペレーションの種類について学ぶ。</p> <p>7 ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレイングを通じて体得する。</p> <p>8 23段階の理論（23-Step）に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論（23-Step）に基づきコンセプトメイクの実習をする。</p> <p>9 レセプション実習①（グループワーク、実習）（スマートフォン） カップルデータに基づき、コンセプトメイク</p> <p>10 レセプション実習②（グループワーク、実習）（スマートフォン） テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み</p> <p>11 レセプション実習③（グループワーク、実習）（スマートフォン） ウエディングビューティプラン</p> <p>12 レセプション実習④（グループワーク、実習）（スマートフォン） 会場レイアウトとテーブルコーディネート、ウエディングメニューの確定</p> <p>13 レセプション実習⑤（グループワーク、実習）（スマートフォン） 進行表とスクリプトの作成およびオペレーションプラン</p> <p>14 レセプション実習⑥（グループワーク、実習）（スマートフォン） オペレーションプランに基づいたシュミレーション</p> <p>15 模擬披露宴（グループワーク、プレゼンテーション）（スマートフォン） 模擬披露宴の準備、本番、片付け</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任をもってやり遂げることができる。 ○E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。
事前・事後学習	事前学習：B I A検定のテキストを読んでおくこと。（30分） 事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。（60分）
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回～第8回の座学で得た知識を総動員し、チーム内で模擬挙式にむけた計画を立案する。また、第9回～第14回までの講義にて、レセプションの準備をしつつ模擬披露宴を実際に運営することを通じて目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：主体性をもって参加できているか、また、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかの観点 E：コンセプトに基づいた表現や行動になっているかの観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%

テキスト	①ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会（1年次に購入した方は不要） ②究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21（1年次に購入した方は不要） ③ウエディング演出の23段階（23-Step） ④セレモニー実習ノート ⑤世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングプランニング」、「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングナビゲーション」を履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
ナンバリング：F15C39	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	着方の練習を重ね段階に合わせ帯結びを学ぶ。浴衣の着方、半幅帯の帯結びの技術を修得し、帯結びは基礎技術から創作まで行う。浴衣や小物についても理解を深め、修得した技術を活かし楽しむことを目指す。 (授業目標) ◎E：浴衣が正確に美しく着られ、オリジナルの帯結びができる。
授業計画	<p>1 きものの基礎知識① 授業概要 授業に必要な浴衣・帯・小物などについて説明</p> <p>2 きものの基礎知識② きもの名称などについて説明 各自の小物の確認、浴衣のたたみ方</p> <p>3 きものの基礎知識③ 浴衣・小物アイロン掛け 浴衣のたたみ方</p> <p>4 浴衣の着方① 着方練習、浴衣のたたみ方</p> <p>5 浴衣の着方② 着方の練習、浴衣のたたみ方</p> <p>6 浴衣の着方③ 着方の練習、浴衣のたたみ方</p> <p>7 浴衣の着方・半幅帯結び① 浴衣の着方、基本の帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>8 浴衣の着方・半幅帯結び② 浴衣の着方、基本の帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>9 浴衣の着方・半幅帯結び① 浴衣の着方、基本の帯結び『蝶々結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>10 浴衣の着方・半幅帯結び② 浴衣の着方、基本の帯結び『蝶々結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>11 浴衣の着方・半幅帯結び 浴衣の着方、『蝶々結び応用編』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>12 浴衣の着方・半幅帯結び 浴衣の着方、『つのだし風結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>13 レベルチェックと創作帯① 浴衣が正確に着られているか、基本の帯結びができているかを確認する。 これまで修得した技術を活かし、オリジナルの帯結びを考える。</p> <p>14 レベルチェックと創作帯② 浴衣が正確に着られているか、基本の帯結びができているかを確認する。 これまで修得した技術を活かし、オリジナルの帯結びを考える。</p> <p>15 半幅帯の創作発表 浴衣を着て自分の創作した帯結び発表する。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本の帯結びをしめ浴衣を着ることができる。
事前・事後学習	事前学習：日頃からきものや浴衣に関心を持ち、雑誌等で多くの情報を得る。(20分程度) 事後学習：Classroomの資料を活用し、授業で学んだ技術を復習する。(40分程度)
指導方法	マネキンやClassroomの動画などを使用して手順の説明をする。 一斉に演習に入るが、個々の技術レベルに合わせて指導していく。

アセスメント・成績評価の方法・基準	E:レベルチェックと作品発表で評価する。 レベルチェック70%、作品発表10%、授業への貢献度20%
テキスト	なし プリント配布
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	第1回目の授業で、浴衣から小物まで各自用意する物の説明をする。 注意事項①半幅帯は、作り帯は使用不可。②貸出はない。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択必修
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F16B46	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容業界全体の概要を理解し、職種、その職業に必要な知識や技術について知る。実例を通じ、職業に対する理解を深め、美容業界でのキャリア形成について学ぶ。 (授業目標) ◎D：美容業界全体の概要を理解し、キャリア形成の多様性を知る
授業計画	<p>1 ビューティビジネスとは 授業の概要、評価について 美容業界の構造</p> <p>2 女性の多様な働き方 女性の一生と美容、社会の変化と女性の社会進出 多様化する働くことへの意識や働き方について</p> <p>3 美容業界の構造と職種 美容業界の構造と職種について学ぶ (サービス・技術) (化粧品製造・販売) (情報)</p> <p>4 美容業界で働く人(1) サービス、技術系に携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (美容師、メイクアップアーティスト、まつ毛エクステ、エステ、ネイリスト) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>5 美容業界で働く人(2) サービス、技術系に携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (美容師、メイクアップアーティスト、まつ毛エクステ、エステ、ネイリスト) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>6 美容業界で働く人(3) サービス、技術系に携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (美容師、メイクアップアーティスト、まつ毛エクステ、エステ、ネイリスト) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>7 美容業界で働く人(4) サービス、技術系に携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (美容師、メイクアップアーティスト、まつ毛エクステ、エステ、ネイリスト) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>8 美容業界で働く人(1) 化粧品製造・販売に携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (化粧品販売、PR、化粧品開発、商品企画、マーケティング、メイクアップアーティスト) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>9 美容業界で働く人(2) 化粧品製造・販売に携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (化粧品販売、PR、化粧品開発、商品企画、マーケティング、メイクアップアーティスト) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>10 美容業界で働く人(3) 化粧品製造・販売に携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (化粧品販売、PR、化粧品開発、商品企画、マーケティング、メイクアップアーティスト) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>11 美容業界で働く人(4) 化粧品製造・販売に携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (化粧品販売、PR、化粧品開発、商品企画、マーケティング、メイクアップアーティスト) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>12 美容業界で働く人(1) 情報、メディアに携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (美容家、美容ライター、PR会社) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>13 美容業界で働く人(2) 情報、メディアに携わる人の経歴やキャリア形成について学ぶ (美容家、美容ライター、PR会社) 必要な知識や技術、資格について</p> <p>14 美を追求する仕事 衣・食・住の幅広い観点で、美を追求する仕事、働き方について学ぶ</p>

	15 (スタイリスト、料理家、ライフスタイルアドバイザー) 美に携わる仕事 働くこと、自己実現を叶える生き方について考える
学習成果・ 到達目標・基準	◎D：自分のキャリア形成について多彩な選択肢から考え、いまやるべきことを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：美容業界の職業や業種について、どんなものがあるのかどんな働き方があるのか調べる。(90分) 事後学習：授業で学んだことを実際の社会や街中で見つけて記録する。(90分)
指導方法	パワーポイント、板書などを用い講義形式で行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜、デジタル資料を共有
参考書	
履修上の注意	なし
アクティブ・ラー ニング	
I C T・オープン エデュケーション の活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
本田真理			
ナンバリング：F16C40	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>スキンケア、メイクアップ、顔分析、色彩、皮膚、化粧品の知識を修得し、日常に取り入れるようにする。メイクアップの各工程についての理解を深め、最終的にはメイクアップを総合的に捉えてメイクアップをデザインできるようにする。</p> <p>また、「日本メイクアップ知識検定試験ベーシック」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設ける。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：それぞれの人に合ったメイクアップの必要性を理解し、提案できる。</p>
授業計画	<p>1 スキンケア理論 授業内容ガイダンス スキンケアの目的とスキンケア化粧品の種類と特徴</p> <p>2 皮膚の基礎知識 顔の成り立ち スキントイプチェック方法</p> <p>3 ベースメイク理論 ベースメイクの目的とベースメイク化粧品の種類と特徴 肌色分析</p> <p>4 皮膚の専門知識 皮膚の構造と生理作用、紫外線の影響 肌トラブルのメイクアップ対応法</p> <p>5 チーク・ハイライト・ローライト理論 顔型分析とチーク・ハイライト・ローライト化粧品の種類と特徴</p> <p>6 メイクアップの効果 心理効果、視覚効果、錯覚効果</p> <p>7 アイブロウ・リップ理論 眉のバランス分析とアイブロウ化粧品の種類と特徴 唇のバランス分析と口紅の種類と特徴</p> <p>8 色彩とメイクアップ 色彩の基礎知識とカラーバランス・カラーデザイン</p> <p>9 アイメイク（アイシャドウ・アイライン・マスカラ）理論 目のバランス分析とアイメイク化粧品の種類と特徴</p> <p>10 顔分析と修整理論 顔型・顔バランスの修整 眉・目元・口元の修整</p> <p>11 オフィスメイク 好感が持たれるゴールデンバランスメイク</p> <p>12 イメージメイク 4つのイメージ分類とイメージポイント</p> <p>13 メイクアップの歴史とトレンド トレンドの作られ方と取り入れ方</p> <p>14 パーソナルカラーメイク パーソナルカラーの基礎知識とメイクアップへの応用方法</p> <p>15 メイクアップ分類 メイクアップデザイン分類と化粧品会社分類</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：メイクアップのそれぞれの工程を理解し、人に伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。（90分） 事後学習：授業内で学んだことを自分の顔で実践しておく。（90分）
指導方法	テキストやパワーポイントを使用して、講義形式で行う。 定期的に小テストを実施する。 メイクアップ理論の課題を提出する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%

テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 3級2級 公式テキスト (一般社団法人JMA)
参考書	
履修上の注意	メイクアップの理論を実践的に習得するために、自主的に自分の顔で実習する。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。 「メイクアップ演習B」は本講義の履修者に限り受講できる。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
久保田カオリ			
ナンバリング：F16C41	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。客観的な視点から顔を分析しメイクプランを立てられるようにする。</p> <p>前半はメイクアップのそれぞれの基本的な技術を修得し、自分の顔で表現できるようにする。</p> <p>後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、それぞれのイメージメイクが表現できるようにする。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：メイクアップに必要な基礎知識を理解できる。</p> <p>○E：イメージと現状との違いを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス（実習：1～15回） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、使用する道具について メイクアップの効果と目的を考える</p> <p>2 スキンケアと美しい肌とは 皮膚の基礎知識とスキントypes・肌トラブルの原因について理解する 正しいスキンケア方法を習得する（マッサージで健やかな肌を育てる）</p> <p>3 ベースメイクのテクニック 肌色知識とトラブルカバーで美しい肌を作る コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する</p> <p>4 アイメイクのテクニック 目元の観察と形・色の効果を理解する 基本のアイシャドウ・アイライン・マスカラを実習する</p> <p>5 アイブローのテクニック 基本のバランスと形・色を理解する ペンシルとパウダーで自然な眉を実習する</p> <p>6 チーク・ハイライト・シェーディングのテクニック 骨格の把握と立体を理解する チーク・ハイライト・シェーディングを実習する</p> <p>7 リップのテクニック リップバランスと形・色による印象を理解する 基本の塗り方を実習する</p> <p>8 トータルバランスメイク メイクの強弱、バランスを考えたトータルメイクを実習する トレンドを取り入れたベーシックな「フレンチ・シック」を表現する</p> <p>9 顔のプロポーションと「印象分析」 自分の顔の特徴を客観的に分析し、インプレッションマップに基づいた印象タイプを理解する</p> <p>10 印象表現メイク「キュート」の理論とテクニック キュートメイクの理論を学び実習する</p> <p>11 印象表現メイク「フレッシュ」の理論とテクニック フレッシュメイクの理論を学び実習する</p> <p>12 印象表現メイク「クール」の理論とテクニック クールメイクの理論を学び実習する</p> <p>13 印象表現メイク「エレガント」の理論とテクニック エレガントメイクの理論を学び実習する</p> <p>14 印象分析によるイメージチェンジ① 自分の顔の分析を行い、現状とは異なるイメージへのチェンジメイクを考え、デザイン画を制作する (デザイン画の提出)</p> <p>15 印象分析によるイメージチェンジ② デザイン画を元にセルフメイクでトータルに表現する</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：メイクアップに必要な基礎知識を説明できる。</p> <p>○E：メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。(30分)</p> <p>事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)</p>
指導方法	<p>技術解説とデモンストレーションを行い、実際にセルフでメイクアップ実習を行う。</p> <p>知識テストと技術テストを実施する。</p>

	メイクアップデザインの課題を実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D:メイクに必要な基礎知識に関する筆記テストを行い評価する。 ◎E:トータルメイクアップの実技試験を行い評価する。 実技50%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	特になし
参考書	
履修上の注意	実習は自分の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。 授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
本田真理			
ナンバリング：F16C42	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。前半はスキンケアテクニックとベースメイクテクニックの手順をマスターすることを重点的に行う。後半はタッチアップをするためのポイントメイクとポイントメイクを行う。</p> <p>また、「日本メイクアップ技術検定試験3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標)</p> <p>◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。</p>
授業計画	<p>1 メイクアップの事前準備（実習：2～15回） 授業内容ガイダンス 実習に必要なメイク道具についての説明、技術者としての心構え</p> <p>2 スキンケアテクニック ポイントクレンジング・ベースクレンジング・化粧水・乳液 対面：セッティング、相手の顔に触れるスタンスとテクニック Classroom：セッティング、自分の顔で肌タッチとテクニック</p> <p>3 スキンケアテクニック ポイントクレンジング・ベースクレンジング・化粧水・乳液 対面：セッティング、相手の顔に触れるスタンスとテクニック Classroom：セッティング、自分の顔で肌タッチとテクニック</p> <p>4 ベースメイクテクニック 下地・コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダー 対面：相手の肌を分析し修整理論に基づいたテクニック Classroom：自分の肌を分析し修整理論に基づいたテクニック</p> <p>5 ベースメイクテクニック 下地・コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダー 対面：相手の肌を分析し修整理論に基づいたテクニック Classroom：自分の肌を分析し修整理論に基づいたテクニック</p> <p>6 チーク・ハイライト・ローライトテクニック 対面：相手の顔型を分析し修整理論に基づいたテクニック Classroom：自分の顔型を分析し修整理論に基づいたテクニック</p> <p>7 チーク・ハイライト・ローライトテクニック 対面：相手の顔型を分析し修整理論に基づいたテクニック Classroom：自分の顔型を分析し修整理論に基づいたテクニック</p> <p>8 アイブロウ・リップテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいたテクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいたテクニック</p> <p>9 アイブロウ・リップテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいたテクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいたテクニック</p> <p>10 アイメイクテクニック（アイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラ） 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいたテクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいたテクニック</p> <p>11 アイメイクテクニック（アイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラ） 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいたテクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいたテクニック</p> <p>12 トータルメイクアップ（1） 対面：30分で相手の顔にスキンケア・ベース・チーク・ハイライト・ローライトテクニック チェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p> <p>13 トータルメイクアップ（1） 対面：30分で相手の顔にスキンケア・ベース・チーク・ハイライト・ローライトテクニック チェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p> <p>14 トータルメイクアップ（2） 対面：30分で相手の顔にアイブロウ・アイメイク・リップテクニックチェック Classroom：自分の顔とデザインシートでテクニックチェック</p> <p>15 トータルメイクアップ（2） 対面：30分で相手の顔にアイブロウ・アイメイク・リップテクニックチェック Classroom：自分の顔とデザインシートでテクニックチェック</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを提案できる。

事前・事後学習	事前学習：技術を自己研鑽する。(30分) 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3人に実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に相モデルでメイクアップ実習を行う。 定期的に技術小テストを実施する。 メイクアップ技術理論の課題を提出する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 3級2級 公式テキスト (一般社団法人JMA)
参考書	
履修上の注意	「メイクアップ論」を履修することが必須となる。 実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提となる。 相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
本田真理			
ナンバリング：F26C52	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。前半は基本テクニックをマスターすることを重点的に行う。後半は接客を意識したタッチアップをするためのテクニックを行う。</p> <p>また、「日本メイクアップ技術検定試験2級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。</p>
授業計画	<p>1 メイクアップの事前準備（実習：2～15回） 授業ガイダンス 技術者の身だしなみと心構え</p> <p>2 スキンケアテクニック 対面：セッティング、相手の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：セッティング、自分の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>3 スキンケアテクニック 対面：セッティング、相手の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：セッティング、自分の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>4 ベースメイクテクニック ブラシワーク 対面：相手の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>5 ベースメイクテクニック ブラシワーク 対面：相手の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分の肌を分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>6 アイブロウテクニック・リップテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>7 アイブロウテクニック・リップテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>8 アイメイクテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>9 アイメイクテクニック 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>10 ポイントメイクタッチアップ 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>11 ポイントメイクタッチアップ 対面：相手のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック Classroom：自分のパーツを分析し修整理論に基づいた接客テクニック</p> <p>12 トータルメイクアップ（1） 対面：25分で相手の顔にスキンケア・ベース・チーク・ハイライト・ローライトテクニック チェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p> <p>13 トータルメイクアップ（1） 対面：25分で相手の顔にスキンケア・ベース・チーク・ハイライト・ローライトテクニック チェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p> <p>14 トータルメイクアップ（2） 対面：25分で相手の顔にアイブロウ・アイメイク・リップテクニックチェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p> <p>15 トータルメイクアップ（2） 対面：25分で相手の顔にアイブロウ・アイメイク・リップテクニックチェック Classroom：自分の顔とレッスンシートでテクニックチェック</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを提案できる。
事前・事後学習	事前学習：技術を自己研鑽する。（30分）

	事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3人に実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に相モデルでメイクアップ実習を行う。 定期的に技術小テストを実施する。 メイクアップ技術理論の課題を提出する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E:トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 3級2級 公式テキスト (一般社団法人JMA)
参考書	
履修上の注意	「メイクアップ演習1」「メイクアップ論」を履修済であることが必須となる。 実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提となる。 相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F36C53	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップを施す対象である「顔」についての理解を深め、社会における「顔」の役割やメイクアップの必要性について見識を深める。多様性の時代において、それらを理解し、自らのフィールドで学んだことを実践できる力を修得する。メイクアップの持つ可能性について自身の見解を述べられるようにする。</p> <p>◎E：状況に合わせて必要なメイクアップを判断し、表現できる。 ○D：顔の持つ社会的な役割とメイクアップの多彩な方法を説明できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、これまで学んだ事と応用演習について。メイクアップの役割を幅広く捉え、可能性を考えていく。</p> <p>2 「顔」「化粧」とは（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 社会活動における顔の役割、なぜ化粧をするのか考える。課題シートに記入し、シェア、プレゼンテーションを行う。</p> <p>3 ファッション業界とメイクアップ（ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる） ファッション業界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。具体的にブランドを設定してメイクアップ実習を行う。</p> <p>4 表現とメイクアップ（ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる） 舞台、映像などの世界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。</p> <p>5 女性の顔、男性の顔（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 性別における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。</p> <p>6 子どもの顔、老人の顔 年代における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。</p> <p>7 世界の「顔」と「化粧」 多様な人種と文化の元、違った顔の特徴や文化としての化粧、風習としての化粧について考える。</p> <p>8 顔と心（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 顔と心のつながりについて考える。メイクアップセラピーについて。</p> <p>9 自分の顔、他者の顔（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 自分の顔の特徴を客観的に理解する。自分の理想とするイメージに近づけるためにはどんなメイクアップが必要か考える。 他者の顔を観察し、魅力を見つける。主観的な良し悪しとなる表現は避け、説明することに挑戦する。</p> <p>10 人の魅力と美しさ 人の魅力と美しさとは何か、多様な美しさについて考える。</p> <p>11 時代と顔 時代と共に移り変わる化粧と、その背景にある社会情勢や精神性について知る。</p> <p>12 似合うメイクアップ (1) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。</p> <p>13 似合うメイクアップ (2) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。</p> <p>14 メイクアップの可能性について (1)（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。</p> <p>15 メイクアップの可能性について (2)（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。</p>

学習成果・到達目標・基準	◎E：メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解している。 ○D：メイクアップの多彩な方法を理解している。
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った情報収集をする。(30分) 事後学習：課題となったテーマに該当する顔について、授業内容を振り返りながら観察する。電車の中、街中、身近な人、web上の画像など、題材となる顔を観て感じたことを課題シートに記入する。(30分)
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習(セルフメイク)を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：試験でシチュエーションに合ったイメージのメイクアップを提案できるかを評価する。 ○D：課題において、メイクアップの方法を具体的に記述できているかを評価する。 実技30%、プレゼンテーション30%、課題20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜データで資料を共有
参考書	なし
履修上の注意	一般的な「女性が美しくなるためのメイクアップ」に限らず実習(セルフメイク)を行う。授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション シンク・シェア・ペア(質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) ブレイン・ダンプ(与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる)
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
ナンバリング：F16C44	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ネイルとジェルに関する基礎理論を学ぶ。爪の名称や用具用材の特徴を知り、シンプルなデザインから繊細なアートまでを学ぶ。自分の爪を使って、ネイルケアやジェルネイルを施術する。ネイルデザインはネイルチップを使い、ジェルカラーの選び方、デザイン・色彩・パーツのバランスなどの演習を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を学び、理解する。</p> <p>◎E：課題に応じたネイルアートを作成し、いろいろな技法を修得する。</p> <p>個人制作では、ベーシックデザインを活かしてネイルチップの上にオリジナルのデザインを表現する。</p>
授業計画	<p>1 ネイルアート演習 1 について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 学科：ジェルネイルの基礎知識。ジェルネイルとは。</p> <p>2 学科：爪の構造・爪の病気 ネイル検定の筆記試験に出る内容を中心に、爪への理解度を深める。</p> <p>3 マニキュア(1) マニキュアに関する材料の使い方・ポリッシュの塗り方</p> <p>4 マニキュア(2) 学科：爪の形 実技：爪の整え方</p> <p>5 マニキュア(2) チップ、または自分の手を使用して前回のオンライン授業で学んだ事を練習する。</p> <p>6 教材の説明 ジェルネイル(1) 教材の使い方。次回から始めるジェルの授業に向けての説明。</p> <p>7 教材配布 ジェルネイル(1) ワンカラー チップ、または自分の手を使用して前回のオンライン授業で学んだ事を練習する。</p> <p>8 ジェルネイル(2) Basic グラデーション・フレンチなど、社会に出た時の身だしなみを整える上で必要な手元の美容を学ぶ。</p> <p>9 ジェルネイル(2) チップ、または自分の手を使用して前回のオンライン授業で学んだ事を練習する。</p> <p>10 ジェルネイル(3) トレンドアート その年の流行を取り入れて、トレンドのアートを学ぶ。</p> <p>11 ジェルネイル(3) チップ、または自分の手を使用して前回のオンライン授業で学んだ事を練習する。</p> <p>12 ジェルネイル(4) 柄の配置など、ネイルスクールでも学べないようなアートのコツを学ぶ。 ネイル以外の事にも活かせるバランスの取り方など、応用し可能性を広げる。</p> <p>13 ジェルネイル(4) チップ、または自分の手を使用して前回のオンライン授業で学んだ事を練習する。</p> <p>14 作品制作に向けて 作品制作にあたり、着物に合うデザインの作り方や和柄を中心としたアートの描き方。</p> <p>15 個人制作 作品提出 テーマ：「自分の為の成人式ネイル」5本セット ※授業後に、制作レポートと共に提出。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を身に付け、デザインの名前、用具の名前を説明できる。</p> <p>◎E：課題に応じたネイルアートを作成できる。個人制作では、自ら考えたデザインを表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：ファッションや雑貨のデザイン、インターネットなどからネイルアートとして表現できるデザインの知識を得ておくこと。また、次週のネイルデザインの色決めをしておくこと。(30分)</p> <p>事後学習：授業で伝えた内容に関してレポートにまとめ、デザインの名前、用具の名前を覚えること。制作物は期日までに提出すること。(30分)</p>
指導方法	<p>オンライン授業は、ネイル概論では爪の構造・名称を知り、小テストをもって理解度を確認する。講師によるデモンストレーションを見てレポートを作成し、次回の対面授業にて練習する。</p> <p>2・3回目に自身の爪を使ってネイルケア実習を行い、2・3回目以外はネイルチップを使い、デザインのバランスを考えながら指導する。</p> <p>基礎アート、応用アートを修得し、修得後は個人作品を提出する。制作物で授業への理解度を確認し、評価する。</p>

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：ネイルに関する用語、デザインの知識を理解し、表現できているのかを評価する。 E：課題に応じたネイルアートの完成度を評価する。 課題70%、授業貢献度30%
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	・NAIL MAX ・NAIL VENUS ・NAIL UP ・その他ファッション雑誌など
履修上の注意	2・3回目の授業では、自身の爪を使用するため、ジェルネイルやスカルプチュアネイルなど、実習の妨げになるので外しておくこと。 初心者の方でも安心して受講できるよう、ネイルの基礎デザインから応用デザインまで幅広く学ぶことができる。 授業で制作したアート作品は全て提出し、成績として評価する。 使用教材は個人教材・共通教材のため大切に使うこと。
アクティブ・ラー ニング	実習
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
ナンバリング：F26C45	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	JNEC ネイリスト技能検定試験 3 級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識・技能を修得する。 手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン、カラーリング、フラットアート「フラワー」の演習を行なう。 ※従来は、学生同士互いにモデルとなり行っていたが、コロナ禍のため自分の手またはプラクティスハンドを使用。 (授業目標) ○D：爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなど JNEC ネイリスト技能検定試験 3 級とジェルネイル検定初級取得レベルの知識を身につける。 ◎E：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートなど JNEC ネイリスト技能検定試験 3 級とジェルネイル検定初級取得レベルの技能を修得する。
授業計画	<p>1 ネイルアート演習 2 について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。 ネイル検定 3 級・ジェル検定のモデルについて。</p> <p>2 ジェルネイル検定初級(1) ジェル検定初級課題の「アート」ピーコック”を学ぶ。</p> <p>3 ジェルネイル検定初級(1) プラクティスハンド、または自分の手を使用して前回のオンライン授業で学んだ事を練習する。</p> <p>4 ジェルネイル検定初級(2) 学科：皮膚学 ※検定筆記試験対策 ネイル検定 3 級の手指消毒～ネイルケアまでを学ぶ。</p> <p>5 ジェルネイル検定初級(2) プラクティスハンド、または自分の手を使用して前回のオンライン授業で学んだ事を練習する。</p> <p>6 ネイル検定 3 級(1) 教材の説明・プッシャー・ニッパーの使用方法 教材の使い方・プッシャーとニッパーの正しい使い方を学ぶ。</p> <p>7 ネイル検定 3 級(1) 教材配布 自分の手を使用してプッシャーとニッパーの正しい使い方を練習。</p> <p>8 ネイル検定 3 級(2) テーブルセッティング 演習 1 で学んだ、ファイリングを再度確認。 ネイル検定 3 級の手指消毒～ネイルケアまでの通し。</p> <p>9 ネイル検定 3 級(2) プッシャー・ニッパーの使用法の復習。 手指消毒～ネイルケアまでをプラクティスハンドを使用して練習。</p> <p>10 ネイル検定 3 級(3) 学科：衛生と消毒 検定アートの説明</p> <p>11 ネイル検定 3 級(3) 検定アートも含めて、通し練習。</p> <p>12 ネイル検定 3 級(4) これまで学んできた事の復習と共に、受験時の採点ポイントを抑える。 実技検定に合格するために必要な事を復習。</p> <p>13 ネイル検定 3 級(4) 検定アートも含めて、通し練習。</p> <p>14 実技テストについて(60分)・検定学科のテスト(30分) 筆記検定に合格するために必要な事を復習。</p> <p>15 演習 2 検定試験の実技テスト 本番のようにモデルを使用する事はできませんが、検定を受験するのに必要な知識・理解度の実技テスト。</p>
学習成果・到達目標・基準	○D：JNEC ネイリスト技能検定試験 3 級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識を修得する。 ◎E：JNEC ネイリスト技能検定試験 3 級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの技能を修得する。
事前・事後学習	事前学習：3 級ネイルアート「フラワー」のデザインを考える。 ネイル検定に必要な物の確認・用意しておく。(20分) 事後学習：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートを行う。 過去問題を繰り返し行い覚える。(40分)
指導方法	JNEC ネイリスト技能検定試験 3 級、ジェルネイル検定初級の試験内容を把握する。 オンライン授業は説明と講師によるデモンストレーションをメインとし、授業終了後には内容の理解度を小テストで確認する。 対面授業では、前回のオンライン授業での疑問点などを指導し、実技の練習がメインとなる。

	最後の対面授業では、検定試験同様のタイム入れをプラクティスハンドを使用して行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：JNECネイリスト技能検定試験3級の知識を提出課題で評価する。 E：JNECネイリスト技能検定試験3級の技能を工程、仕上りで評価する。 技術行程・仕上り50%、授業態度・貢献度30%、小テスト20%
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	JNAテクニカルシステムベーシック
履修上の注意	実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュア・マニキュアは禁止。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラー ニング	実習
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
ナンバリング：F16C46	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。 (授業目標) 相モデル(ペア)演習、グループ演習を通し、コミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、コミュニケーション能力を高めることができる。 ◎E：ヘアメイク演習を通し、トータル(ヘア、メイク、洋服)バランス能力を高めることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス、道具の使い方(実習：1~5.7.9.11.15回) ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>2 ヘアアレンジ基礎 一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピニング ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>3 ヘアアレンジ基礎 シニヨン・すき毛の使い方 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>4 ヘアアレンジ基礎 逆毛 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>5 ヘアアレンジ基礎 三つ編み・編み込み ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>6 ヘアアレンジ基礎(ペアワーク、グループワーク) アイロン ・ヘアデモンストレーション</p> <p>7 流行ヘアアレンジ・メイク(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>8 流行ヘアアレンジ・メイク(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション</p> <p>9 カジュアルヘアとモードヘアの違い(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>10 カジュアルヘアとモードヘアの違い(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>11 ブライダルヘア(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>12 ブライダルヘア(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション</p> <p>13 トータルで考えるイメージヘア(1)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン</p> <p>14 トータルで考えるイメージヘア(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン</p> <p>15 スタイル作成 ・技術確認</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し相手に提案することができる。 ◎E：ヘアアレンジの基礎(編み込み、カジュアルアレンジスタイル)ができる。

事前・事後学習	事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分) 事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	実習、ペアワーク、グループワーク
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
ナンバリング：F26C47	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。 (授業目標) 相モデル(ペア)演習、グループ演習、ヘアカウンセリングディスカッション能力、ヘアメイクを通し、トータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身につける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、ヘアカウンセリングのコミュニケーション能力を身につける。 ◎E：ヘアメイク実習を通し、イメージしたことをバランスを考慮し解説しながら形にする技能を高める。
授業計画	1 ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認(実習：1~6.8.9.11.15回) ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 2 ヘアアレンジ確認と応用(1) ポイントスタイルアレンジ ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 3 ヘアアレンジ確認と応用(2) すき毛を使った応用テクニック ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 4 ヘアアレンジ応用(1) ボリュームスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 5 ヘアアレンジ応用(2) ルーズスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 6 ヘアアレンジ応用(3) 飾りの付け方バランス ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 7 ヘアアレンジ応用(4)(ペアワーク、グループワーク) 浴衣スタイル ・ヘアデモンストレーション 8 ヘアアレンジ応用(5) パーティースタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 9 カジュアルヘアとショーヘアの違い(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 10 カジュアルヘアとショーヘアの違い(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション 11 ブライダルヘア ・ヘアデモンストレーション 実習 ※ウィッグ、キーパー使用 12 トータルで提案するヘアメイク(1)(ペアワーク) ・トータルプランニング説明 ※スマートフォン 13 トータルで提案するヘアメイク(2)(ペアワーク) ※スマートフォン 14 トータルで提案するヘアメイク(3)(ペアワーク) ※スマートフォン 15 スタイル作成 ・技術確認

学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し、キレイさと身だしなみを意識したヘアアレンジを身につける。 ◎E：ヘアアレンジの応用（美容器具の扱い方、TPOアレンジスタイル）ができる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F26C48	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「トータルコーディネート論」で学んだ理論を実践に結びつける授業である。特に自分らしい装いに必要な似合う色の選び方について、より実践的な力を身につけることにより、自分自身のアイデンティティ形成に活用できると同時に、他人へのコーディネート提案に自信をもてるようになる。後半はパーソナルカラーを生かしたビーズプレスレットを制作し、自分らしい色による自己表現を体験する。 (授業目標) ファッションが自分らしさの自己表現として機能することを実習を通して学び、目的に合ったトータルコーディネート提案ができる。 ◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行う時、接客力にも繋げてグループワークで診断ができる。 ○E：パーソナルカラーを生かしたプレスレットを制作し、プレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 パーソナルカラー 序章、1章、2章 (zoom) 配色技法とパーソナルカラーへの活用 色相配色・トーン配色 ドミナントカラー・ドミナントトーン・トーンオントーン・グラデーション</p> <p>2 パーソナルカラー 3章テキスト (対面)、3章問題集 (Classroom) クライアントを中心にしたアドバイス 色素をもとにしたコミュニケーション</p> <p>3 パーソナルカラー 3章テキスト (対面)、3章問題集 (Classroom) クライアントを中心にしたアドバイス 色素をもとにしたコミュニケーション</p> <p>4 パーソナルカラー 4・5章テキスト (対面)、4・5章問題集 (Classroom) 色素 (肌・髪・眼) のアドバイス 3属性に基づくドレーピングの方法</p> <p>5 パーソナルカラー 4・5章テキスト (対面)、4・5章問題集 (Classroom) 色素 (肌・髪・眼) のアドバイス 3属性に基づくドレーピングの方法</p> <p>6 パーソナルカラー 6章テキスト (対面)、6章問題集 (Classroom) 似合う色・形・柄・質感の様々なアイテムへの取り入れ方 ファッション・ヘアメイク・ネイル・ブライダル・ブーケ</p> <p>7 パーソナルカラー 6章テキスト (対面)、6章問題集 (Classroom) 似合う色・形・柄・質感の様々なアイテムへの取り入れ方 ファッション・ヘアメイク・ネイル・ブライダル・ブーケ</p> <p>8 パーソナルカラー 7章テキスト (対面)、7章問題集 (Classroom) アドバイステクニック 似合う色を生かした配色の応用 小テスト</p> <p>9 パーソナルカラー 7章テキスト (対面)、7章問題集 (Classroom) アドバイステクニック 似合う色を生かした配色の応用 小テスト</p> <p>10 プレスレット パーソナルカラーを生かしたビーズ選び (対面)、色の心理効果 (Classroom) 色の心理効果 パーソナルカラーを生かしたビーズ選び</p> <p>11 プレスレット パーソナルカラーを生かしたビーズ選び (対面)、色の心理効果 (Classroom) 色の心理効果 パーソナルカラーを生かしたビーズ選び</p> <p>12 プレスレット 成形 (対面)、配色説明パワーポイント (Classroom) プレスレット制作 配色説明パワーポイント制作</p> <p>13 プレスレット 成形 (対面)、配色説明パワーポイント (Classroom) プレスレット制作 配色説明パワーポイント制作</p> <p>14 プレスレット 提出 (対面)、配色説明パワーポイント提出 (Classroom) プレスレット提出 配色説明パワーポイント提出</p> <p>15 プレスレット 提出 (対面)、配色説明パワーポイント提出 (Classroom) プレスレット提出 配色説明パワーポイント提出</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行うことができる。 ○E：色の特徴を生かしたビーズプレスレットを制作することができる。

事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの予習、課題の準備を行う（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。
指導方法	トータルコーディネートに必要な技術の一つとして、パーソナルカラー診断のより実践的な技術を使いこなせるように指導する。 パーソナルカラーの考え方を生かしたファッションコーディネート、ビジュアルコラージュ作成やビーズブレスレット制作の実習を通して指導する。資格取得希望者には「色彩活用パーソナルカラー検定2級」にも対応し、色の実践的活用方法を具体的に学べるよう指導する。 パワーポイントを使用する。 Classroomで課題を配信し提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループワークでの主体性・責任感を評価する。 E：作品制作の完成度を評価する。 作品30%、小テスト50%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト2級」改訂版（産経新聞出版） *「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」（一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会） *「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） *は、1年次購入したものがあれば継続使用できる。
参考書	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版）
履修上の注意	①「カラーコーディネート論」「トータルコーディネート論」を履修済であることがこの科目を履修する条件である。 ②グループワークの際には、フェイスシールドを使用する予定である。
アクティブ・ラーニング	実習 グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択必修
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング:F17B58	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	カフェや雑貨店などの身近な店の店員や経営者のビジネスのセンスや企業の戦略などを知る。 (授業目標) ◎C：思想力・判断力の向上とともに企業のビジネスモデルを事例研究として学び、商品、企画や収支の、アイデアなどを習得する。
授業計画	<p>1 雑貨業界の現状 本講義の概要を説明する。輸出入業界や雑貨業界などの現状について最近の話題になっている事例を紹介する。ライフスタイル関連の企業名を出し合い、各企業の顧客対象者や業界の動向について習得する。また、それぞれの企業の国内外の経営状況について習得する。</p> <p>2 輸入雑貨経営の仕組み ベトナムなどからの輸入雑貨店の現状を確認する。欧米ブランド力の魅力と比較、現状について学ぶ。アジアなど人件費の安い国において製造し、輸入するメリットなどを習得する。他方、為替、輸送費などのリスクも学ぶ。起業方法についても触れる。</p> <p>3 輸入雑貨経営の仕組み ベトナムなどからの輸入雑貨店の現状を確認する。海外欧米ブランド力の魅力と比較、現状について学ぶ。アジアなど人件費の安い国において製造し、輸入するメリットなどを習得する。他方、為替、輸送費などのリスクも学ぶ。起業方法についても触れる。</p> <p>4 輸入ワイン、小売店、アルコール飲料業界の現状 成城石井やワイン輸入店などの輸入品の選抜方法、店舗拡大などのマーケティング戦略などについて学ぶ。また、ライバル社との比較のため輸入企業にはどんな企業があるのかを出し合い、それらの企業についての現状を習得する。</p> <p>5 輸入ワイン、小売店、アルコール飲料業界の現状 成城石井やワイン輸入品などの輸入品の選抜方法、店舗拡大などのマーケティング戦略などについて学ぶ。また、ライバル社との比較のため輸入企業にはどんな企業があるのかを出し合い、それらの企業についての現状を習得する。</p> <p>6 カーテン業界の現状 東レ、サンゲツ、フジエキスタイルなどのカーテン業界の現状、種類別ランキングなどを知る。また、ホテル、戸建て、マンション別のカーテンの種類を学ぶ。主なカーテン企業のグローバルマーケティングなどについて習得する。</p> <p>7 カーテン業界の現状 東レ、サンゲツ、フジエキスタイルなどのカーテン業界の現状、種類別ランキングなどを知る。また、ホテル、戸建て、マンション別のカーテンの種類を学ぶ。主なカーテン企業の経営戦略やグローバルマーケティングなどについて習得する。</p> <p>8 トイレ（衛生陶器）業界の現状 ライフスタイルを充実させるバス、トイレのインテリア関連企業としてTOTO、LINAXなどの洗面台やトイレ（衛生陶器）業界の現状について学ぶ。欧米では、トイレは2部屋あり陶器のトイレ、洗面台などを使う習慣があるなど日本と比較した文化の違いによる人気商品の違いを学ぶ。</p> <p>9 トイレ（衛生陶器）業界の現状 ライフスタイルを充実させるバス、トイレのインテリア関連企業としてTOTO、LINAXなどの洗面台やトイレ（衛生陶器）業界の現状について学ぶ。欧米では、トイレは2部屋あり陶器のトイレ、洗面台などを使う習慣があるなど日本と比較した文化の違いによる人気商品の違いを学ぶ。</p> <p>10 日用品・雑貨・家具業界の現状 ニトリやロフト、無印良品などの価格の安い日用品、雑貨用品などの販売店の特徴、マーケティング戦略、経営戦略、販売戦略などを学ぶ。また西川リビング、大塚家具など価格が高めの家具や寝具メーカーと比較、現状と経営戦略も触れる。</p> <p>11 日用品・雑貨・家具業界の現状 ニトリやロフト、無印良品などの価格の安い日用品、雑貨用品などの販売店の特徴、マーケティング戦略、経営戦略、販売戦略などを学ぶ。また西川リビング、大塚家具など価格が高めの家具や寝具メーカーと比較、現状と経営戦略も触れる。</p> <p>12 雑貨・日用品通販カタログ業界 高齢者などを対象としたニッセンやバルーナ、千趣会など雑貨・日用品の通販カタログ業界について学ぶ。モバイルやPCを使う若者を対象にしたZOZOや楽天などのWEB販売戦略と比較する。</p> <p>13 雑貨・日用品のカタログ業界 高齢者などを対象としたニッセン、バルーナ、千趣会など雑貨・日用品の通販カタログ業界について学ぶ。モバイルやPCを使う若者を対象にしたZOZOや楽天などのWEB販売戦略と比較する。</p>

	14 個人セレクトショップの経営 自分が店をオープンすることを想定し、どこの場所にどんな人を対象に販売するのかなどセグメンテーションを考える。また、価格の決定、SWOT分析も学ぶ。また、自分の店をアピールするためのSNSマーケティング戦略などを習得し、店の名前やPR用のキャッチフレーズなどを考える。
	15 個人セレクトショップの経営 自分が店をオープンすることを想定し、どこの場所にどんな人を対象に販売するのかなどセグメンテーションを考える。また、価格の決定、SWOT分析も学ぶ。また、自分の店をアピールするためのSNSマーケティング戦略などを習得し、店の名前やPR用のキャッチフレーズを考える。
学習成果・到達目標・基準	◎C：もしも自分が店員だったら、経営者だったらどんな企画を出して、どんなものを販売するのか、いくらで販売するのかなどの思考力・判断力を習得する。
事前・事後学習	事前学習：テキストや新聞から自分の興味のある店や企業が、どんな新商品を販売しているのか、新店舗はどこに進出しているのか、などをインターネットで検索し調べておく（90分）。 事後学習：授業の復習として自分の興味のある店や企業の店舗運営の特徴や経営戦略、マーケティング戦略、SDGs戦略を調べておく（90分）。
指導方法	パワーポイントや資料配布、最近の新聞ニュースやテキストなどをベースに指導する。個人ワークなどにてプレゼンテーションなどを積極的に取り入れる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：プレゼンテーション、課題を評価する。 定期試験40%、プレゼンテーション30%、課題15%、授業態度・貢献度15%
テキスト	文真堂『国際企業の経営行動』 柏木理佳 ISBN978-4-8309-5080-3
参考書	都度、授業内で指導する。
履修上の注意	積極的にアイデアを出し合って欲しい。
アクティブ・ラーニング	顧客と経営者を想定した個人ワークなどでの積極的な意見交換を取り入れる。
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング：F17C49	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ライフスタイルとはなにか、ファッションとライフスタイルの関係は、ということ「衣・食・住」+「遊・知・健・美」+「働」というアプローチで分析し、自身のライフスタイルを含めて考察する力を身につける。また、特にそのライフスタイルに関連する企業の現状や戦略についてケーススタディで学ぶ。 (授業目標) ◎D：ライフスタイルとは何かについて理解するとともに、自身の価値を高めるために、ライフスタイルに関する情報に触れ、それを考察する習慣を身につける。
授業計画	1 ライフスタイルとは 本講の概要について説明する。ライフスタイルに関連する企業にはどんな企業があるのか確認する。雑貨、日用品などの企業にはどんな企業があるのかなどについて学び、それらの業界の動向を習得する。またライフスタイルに係る余暇の時間としてのコーヒーショップなどの現状について学ぶ。 2 無印良品の戦略など シンプルなライフスタイルとして文房具や日用品、雑貨を販売している無印良品の販売方法を学ぶ。また、マーケティング戦略などについて習得する。特に具体的なプロフィールを考えてSNSでPRするペルソナ方法を学ぶ。自分が販売員・経営者だったら、どんなプロフィールの人を対象に販売するのか、具体的な顧客のプロフィールを明確化する練習をする。 3 無印良品の戦略など シンプルなライフスタイルとして文房具や日用品、雑貨を販売している無印良品の販売方法を学ぶ。また、マーケティング戦略などについて習得する。特に具体的なプロフィールを考えてSNSでPRするペルソナ方法を学ぶ。自分が販売員・経営者だったら、どんなプロフィールの人を対象に販売するのか、具体的な顧客のプロフィールを明確化する練習をする。 4 珈琲館、スターバックスの比較 ライフスタイルにおける余暇の時間、またはビジネスの打ち合わせで利用する喫茶店の現状と課題について学ぶ。特に住宅街におけるコーヒーショップと駅近くにあるコーヒーショップの違いについて考える。また、企業の経営戦略、販売方法についてスターバックスと比較する。 5 珈琲館、スターバックスの比較 ライフスタイルにおける余暇の時間、またはビジネスの打ち合わせで利用する喫茶店の現状と課題について学ぶ。特に住宅街におけるコーヒーショップと駅近くにあるコーヒーショップの違いについて考える。また、企業の経営戦略、販売方法についてスターバックスと比較する。 6 アフタヌーンティーの販売戦略など コーヒーショップと雑貨店と併用して展開しているアフタヌーンティーの会社概要をHPから調べる方法を学ぶ。また、店舗の拡大、出店する店舗の場所などを調べ、どんな戦略でどんな顧客を対象にしているのかを考える。また、コーヒーショップの店員と雑貨の店員の接客方法の違いについて学ぶ。 7 アフタヌーンティーの販売戦略など コーヒーショップと雑貨店と併用して展開しているアフタヌーンティーの会社概要をHPから調べる方法を学ぶ。また、店舗の拡大、出店する店舗の場所などを調べ、どんな戦略でどんな顧客を対象にしているのかを考える。また、コーヒーショップの店員と雑貨の店員の接客方法の違いについて学ぶ。 8 ウエッジウッドなどブランド力の価値観など ライフスタイルにおいて優雅な気分させるブランド力の魅力と市場について学び、特にお皿、コーヒーカップなどのウエッジウッド（英国）企業やノリタケ食器メーカーなどのブランド価値観の向上などについて習得する。 9 ウエッジウッドなどブランド力の価値観など ライフスタイルにおいて優雅な気分させるブランド力の魅力と市場について学び、特にお皿、コーヒーカップなどのウエッジウッド（英国）企業やノリタケ食器メーカーなどのブランド価値観の向上などについて習得する。 10 ロフト（LOFT）の魅力とリスク管理 日用品、雑貨、インテリア、文房具、ホーム&キッチンなど豊富な種類を販売している企業の魅力とリスクについて学ぶ。体験イベントを実施するなどの販売戦略や進出店舗のエリアや対象者などマーケティング戦略などを学ぶ。またキャラクターグッズとの提携や海外流の行を参考にした売れる商品の選択方法などを学ぶ。 11 ロフト（LOFT）の魅力とリスク管理 日用品、雑貨、インテリア、文房具、ホーム&キッチンなど豊富な種類を販売している企業の魅力とリスクについて学ぶ。体験イベントを実施するなどの販売戦略や進出店舗のエリアや対象者などマーケティング戦略などを学ぶ。またキャラクターグッズとの提携や海外の流行を参考にした売れる商品の選択方法などを学ぶ。 12 スタジオアリス（写真館）の現状

	<p>ライフスタイルにおいて大事な記念を残すための写真は大事であるが、スマホカメラの発展とともに写真店数は減少している。記念撮影としての写真館のケーススタディをセグメンテーション（どこの場所で誰を対象に売るか）などを学ぶ。豊富なドレスの提供やメイクやヘアアレンジなどの顧客満足度の高いサービスの提供、DMなどのPR戦略を学ぶ。</p> <p>13 スタジオアリス（写真館）の現状</p> <p>ライフスタイルにおいて大事な記念を残すための写真は大事にであるが、スマホカメラの発展とともに写真店数は減少している。記念撮影としての写真館のケーススタディをセグメンテーション（どこの場所で誰を対象に売るか）などを学ぶ。豊富なドレスの提供やメイクやヘアアレンジの顧客満足度の高いサービスの提供、DMなどのPR戦略を学ぶ。</p> <p>14 ライフスタイルの変化による新商品</p> <p>少子化が進み高齢者が増える中、ライフスタイルも多様化している。在宅ワークが進む中、今後のライフスタイルを想像し、どんな生活になりどんなものが売れるか考えてみる。アイデアを出し合い、自分ならどんな商品があったら便利なのかを考え、発表する。</p> <p>15 ライフスタイルの変化による新商品</p> <p>少子化が進み高齢者が増える中、ライフスタイルが変化している。在宅ワークが進む中、今後のライフスタイルを想像し、どんな生活になりどんなものが売れるか考えてみる。アイデアを出し合い、自分ならどんな商品があったら便利なのかを考え、発表する。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：ライフスタイルとは何かについて説明ができる。
事前・事後学習	事前学習：ライフスタイル全般やライフスタイル企業に関する最新情報に触れておく。雑誌、新聞などから企業の情報収集、HPなどからも情報収集し、次回授業計画の内容を調べておく（90分）。 事後学習：最新情報を自らのライフスタイルにどう反映させ、それがどう消費につながっているか、PCで検索したり、友人たちから情報収集することで、体感につなげていく感覚を磨くためにショッピングやPC検索により新商品や広告について触れて発表できるようにまとめておく（90分）。
指導方法	パワーポイントや映像、雑誌、新聞などを用いて講義形式で行う。レポート提出がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー、定期試験を評価する。 定期試験50%、課題35%、授業態度・貢献度15%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどからライフスタイルに関する情報・記事をチェックし、それについてどう考えるかの意見を持つこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング：F27C50	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	経済の流れと流行に敏感なファッションや雑貨・日用品の雑誌、また通販カタログのビジネスモデルを学び、企画、立案、選択、付録、編集、構成、校了などの流れを理解し、雑誌の企画や付録に関する企画提案をする。 (授業目標) ◎D：自分自身の価値を高めるために、企画、提案、文化などを考察する習慣を身につけることを目標とし、知識・理解を習得する。
授業計画	1 ライフスタイル関連の雑誌業界について 本講座の概要、Canconなどのファッション雑誌やクロワッサンなどの雑貨の雑誌などの種類や読者対象者、広告戦略などを紹介する 2 ライフスタイルやファッション雑誌やWEB雑誌の現状について 企画提案をすることを前提として、商品別ターゲットとなる読者対象者による雑誌の種類を学ぶ。年齢別の効果的なアプローチ方法や商品などを理解する 3 ライフスタイルやファッション雑誌やWEB雑誌の現状について 企画提案をすることを前提として、商品別ターゲットとなる読者対象者による雑誌の種類を学ぶ。年齢別の効果的なアプローチ方法や商品などを理解する。 4 ゲスト講師 Canconなどの雑誌ができるまでを学び、需要と供給を知る。その上で企画提案方法を習得する。雑誌に携わる人の仕事の種類、内容を知る。企画提案の仕事、ライターの仕事、取材方法、広告営業などの仕事内容を知り、広告につなげる企画提案方法を学ぶ。 5 ゲスト講師 Canconなどの雑誌ができるまでを学び、需要と供給を知る。その上で企画提案方法を習得する。雑誌に携わる人の仕事の種類、内容を知る。企画提案の仕事、ライターの仕事、取材方法、広告営業などの仕事内容を知り、広告につなげる企画提案方法を学ぶ 6 企画の提案 アイデアを出し合いながら、企画の提案や書き方を学ぶ。クロワッサン雑貨などの商品のセレクト方法、広告などの流れを知る 7 企画の提案 アイデアを出し合いながら、企画の提案や書き方を学ぶ。クロワッサン雑貨などの商品のセレクト方法、広告などの流れを知る 8 ゲスト講師 流行に敏感な雑誌のふろくの現状について知る。企画から製造、製品化までの流れを知る。ふろくが決定するまでの企画、提案方法を学ぶ。自分ならどんなふろくが欲しいか、いくらなら買うか。季節ごとのシーンで考えてみる。最終的には企画書を提出できるようにする。 9 ゲスト講師 流行に敏感な雑誌のふろくの現状について知る。企画から製造、製品化までの流れを知る。ふろくが決定するまでの企画、提案方法を学ぶ。自分ならどんなふろくが欲しいか、いくらなら買うか、季節ごとのシーンで考えてみる。最終的には企画書を提出できるようにする。 10 WEB雑誌の企画、プレゼント商品などの提案 WEB雑誌の企画、広告などの現状と流れを学ぶ。オンラインショッピングやユーチューブなどのアクセス件数による広告戦略について紙媒体と比較する。WEB雑誌における企画アイデア提案をPPTにまとめ、発表する。他の学生を顧客と想定して購入まで至るかなど意見交換をする。 11 WEB雑誌の企画、プレゼント商品などの提案 WEB雑誌の企画、広告などの現状と流れを学び、オンラインショッピングやユーチューブなどのアクセス件数による広告戦略について紙媒体と比較する。WEB雑誌における企画アイデア提案をPPTにまとめ、発表する。他の学生を顧客と想定して購入まで至るかなど意見交換をする。 12 雑誌・企業によるSDGs商品 SDGsとは何かを知る。大学生や企業が取り組むSDGsや雑誌、企業のSDGs商品やアイデア事業をPCなどで検索し探してみる。ライフスタイル、アパレル市場におけるSDGsの現状を学び、自分ならどんな取り組みができるか考えてみる。 13 雑誌・企業によるSDGs企画の提案 SDGsとは何かを知る。大学生や企業が取り組むSDGsや雑誌、企業のSDGs商品やアイデア事業をPCなどで検索し探してみる。ライフスタイル、アパレル市場におけるSDGsの現状を学び、自分ならどんな取り組みができるか考えてみる。 14 ファッション・雑貨雑誌、WEB雑誌のコンテンツの企画の提出 これまで学んだ企画の書き方に沿って、20代女子の読者としてコンテンツを充実させる。これまでの企画をブラッシュアップしたものをPPTや動画などを使って、企画のプレゼンテーション

	15 をする。雑誌媒体社などに提出する。 ファッション・雑貨雑誌、WEB雑誌のコンテンツの企画の提出 これまで学んだ企画の書き方に沿って、20代女子の読者としてのコンテンツを充実させる。これまでの企画をブラッシュアップしたものをPPTや動画などを使って、企画のプレゼンテーションをする。雑誌媒体社などに提出する。
学習成果・到達目標・基準	◎D スタイルある商品や創造力を発揮し、企画の提案ができるようになる。
事前・事後学習	事前学習：過去から現在までの経済の状況とともに、ファッション雑誌・インテリア雑誌などライフスタイル雑誌全般について企画採用の流れと特徴を調べておく。提案したい興味のある雑誌（企画）の切り抜き（WEBの場合印刷可）をしておく（90分）。 事後学習：自身の価値観や創造性を高めるため、各授業の復習とともにファッション・インテリア雑誌の商品提案、企画、提案を考えておく（90分）。WEB雑誌からや雑誌から類似企画の切り抜きアイデアをまとめておく。
指導方法	パワーポイントや映像などによる企画、提案、流れなどの説明、アイデア・企画提案を出しあう。企画などをレポートで提出する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験40%、リアクションペーパー10%、課題25%、授業態度・貢献度25%
テキスト	特になし。
参考書	参考文献は、その都度、指示する。
履修上の注意	自分のアイデアを積極的に出すこと。
アクティブ・ラーニング	企画提案から結論をまとめる方法を学ぶ。
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F17C51	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ビジュアルアートとは視覚を介して鑑賞される芸術のことで、一般的には絵画、彫刻、工芸、建築、写真などが含まれる。現在、ファッションとエンタテインメントの世界は一段と、ビジュアルアーツが持つ力を必要としている。本講義は、世界の文化史から始まり、意味深いアートやファッションの事例や現象を取り上げる。これからのビジュアルアーツを考えられることを目的に、ポイントを絞って視覚芸術を解説する。さらに、大変革期にあるファッションの現象や最新情報との比較対象も行う。 (授業目標) ファッションとエンタテインメントの二つの世界を様々なビジュアルアートを題材に想像し創出できる。 ◎D：独自の表現力を身に付けるため、視覚芸術を理解する。
授業計画	<p>1 ビジュアルアートとは (ZOOM) 授業に関するガイダンス</p> <p>2 世界の文化史 (対面、ZOOM) ビジュアルアートと文化史</p> <p>3 ビジュアルアートのカテゴリー (対面、ZOOM) ビジュアルバリエーションの説明</p> <p>4 スクリーンから観たビジュアル (対面、ZOOM) 名作映画からのアイデア</p> <p>5 スクリーンから観たアート (対面、ZOOM) 名作映画からヒントを得る</p> <p>6 ビジュアルアートとシンボルマーク 彫刻、工芸を含む (対面、ZOOM) オリジナルマーク、ロゴの解説、作り方</p> <p>7 表現のグローバリゼーション 絵画について (対面、ZOOM) 西洋絵画と社会のつながり</p> <p>8 インテリアから観たビジュアルアート 工芸と建築 (対面、ZOOM) 中世から現代までの建築とインテリア</p> <p>9 建築とファッションとエンタテインメント (対面、ZOOM) 住宅から観たビジュアルアート、有名住宅からのヒント</p> <p>10 娯楽表現と芸術表現の関係性 (1) (対面、ZOOM) 西洋から日本まで、漫画、アニメを含むエンタテインメント作品の視覚表現について (戦前戦後～80年代)</p> <p>11 娯楽表現と芸術表現の関係性 (2) (対面、ZOOM) 西洋から日本まで、漫画、アニメを含むエンタテインメント作品の視覚表現について (90年代～現代)</p> <p>12 ビジュアルアートとライフスタイル (1) (対面、ZOOM) スタイル誌「View」「VOUGE」「BAZAAR」とデザイナーのつながり</p> <p>13 ビジュアルアートとライフスタイル (2) (対面、ZOOM) スタイル誌「View」「VOUGE」「BAZAAR」とフォトグラファーのつながり</p> <p>14 ビジュアルアートとグローバリゼーション (対面、ZOOM) 個々のスタイルとビジュアルアートのMIXの構築</p> <p>15 ビジュアルアートの役割 (対面、ZOOM) 今後のファッションとビジュアルアートによるイメージ伝達について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：自分独自のスタイルを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：文化・芸術における知識や最新のニュースを得ておくこと (60分)。 事後学習：講義の中で生じた「疑問」や「問い」をまとめ、それを調べ、理解を深めること (120分)。
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。文化を含めたポートフォリオが作成できるように指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：ポートフォリオ、定期試験を評価する。 定期試験 50%、ポートフォリオ 30%、授業態度・貢献度 20%
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する

参考書	本学図書館にあるストーリー性の高い書籍として、「Fornasetti」「Emilio Pucci fashion story」「Tim Walker pictures」等。情報力が強い雑誌として「View」「Wear」。文化情報としては、「ビジュアル教養大辞典」「世界服飾大図鑑」。
履修上の注意	参考書に指定した書籍は、本学図書館にて定期購読しており、社会の第一線で活躍する人材が参考にし、就職活動や就業の際にも役立つものであるため、必ず一読してアイデア、レイアウトに至る中で自身の情報力をためておくこと。なお、レポートの題材は本学図書館所蔵の上記雑誌より考案する。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F27C52	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	エンタテインメント業界やアパレル業界での雑誌やポスターなどの印刷物等をデザイン的に美しく、かつ読みやすく作成、編集するために必要な構成手法や造詣を身につけることを目的とする。デザインの構成の基礎から始まり、世界のアート作品やファッションフォトグラファーの作品およびラグジュアリー誌のビジュアルを分析することで、美しいビジュアルを作り上げる方法について学ぶ。 (授業目標) ◎E：色や形の特性を理解し、表現の目的に応じ使い分け、オリジナリティある作品を作ることができる。
授業計画	<p>1 ビジュアルアート演習について (ZOOM) 見やすく、自分の理想のイメージを表すために必要な技術、考え方</p> <p>2 レイアウトについて (1) (対面、Classroom) 授業前半は広告物やWEBサイトを見やすくするためのレイアウトについてZOOM中継の講義を行う 授業後半は対面の学生、在宅の学生、それぞれの課題に取り組む 対面：ファッション関連雑誌の研究 Classroom：WEBサイトの研究</p> <p>3 レイアウトについて (2) (対面、Classroom) 授業前半は色彩の配置やマチエールの変化による表現の違いについてZOOM中継の講義を行う 授業後半は対面の学生、在宅の学生、それぞれの課題に取り組む 対面：ファッション関連雑誌の研究 Classroom：WEBサイトの研究</p> <p>4 アナログの技法の紹介 (対面、Classroom) 授業前半は絵の具などの表現の、アート、グラフィックデザインへの応用についてZOOM中継の講義を行う 授業後半は対面の学生、在宅の学生、それぞれの課題に取り組む 対面：ファッション関連雑誌の研究 Classroom：WEBサイトの研究</p> <p>5 コラージュについて (対面、Classroom) 授業前半はコラージュ等の画像加工についてZOOM中継の講義を行う 授業後半は対面、在宅、それぞれの課題に取り組む 対面：ファッション関連雑誌の研究 Classroom：WEBサイトの研究</p> <p>6 アナログの技法による制作 (対面)、アナログの手法による秀作の鑑賞 (Classroom) 対面：絵の具などを用いたアナログの技法の研究 Classroom：アナログの技法を用いたビジュアルアート作品の鑑賞、研究</p> <p>7 アナログの技法による制作 (対面)、アナログの手法による秀作の鑑賞 (Classroom) 対面：絵の具などを用いたアナログの技法の研究 Classroom：アナログの技法を用いたビジュアルアート作品の鑑賞、研究</p> <p>8 フォント・ロゴについて (1) (対面、Classroom) 授業前半はフォント、ロゴのレイアウト、デザインについてZOOM中継の講義を行う 授業後半は対面、在宅、それぞれの課題に取り組む 対面：デジタルツールなどを用いたロゴ、フォントのデザイン Classroom：WEBサイト等を使用しフォント、ロゴの研究、分析</p> <p>9 フォント・ロゴについて (2) (対面、Classroom) 授業前半はフォント、ロゴを写真等のイメージと組み合わせた場合のレイアウト、デザインについてZOOM中継の講義を行う 授業後半は対面、在宅、それぞれの課題に取り組む 対面：デジタルツールなどを用いたロゴ、フォントのデザイン Classroom：WEBサイト等を使用しフォント、ロゴの研究、分析</p> <p>10 フォント、ロゴについて (3) (対面)、オリジナルテーマによる作品制作 (1) (Classroom) 対面：デジタルツールなどを用いたロゴ、フォントのデザイン Classroom：オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、雑誌、WEBサイト等の形式を想定し作品制作、テーマ決め</p> <p>11 フォント、ロゴについて (3) (対面)、オリジナルテーマによる作品制作 (1) (Classroom) 対面：デジタルツールなどを用いたロゴ、フォントのデザイン Classroom：オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、雑誌、WEBサイト等の形式を想定し作品制作、テーマ決め</p> <p>12 オリジナルテーマによる作品制作 (2) (対面、Classroom) オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、雑誌、WEBサイト等の形式を想定し作品制作</p>

	<p>13 作、制作作業 オリジナルテーマによる作品制作（3）（対面、Classroom） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、雑誌、WEBサイト等の形式を想定し作品制作、制作作業</p> <p>14 オリジナルテーマによる作品制作（4）（対面、Classroom） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、雑誌、WEBサイト等の形式を想定し作品制作、仕上げ</p> <p>15 作品講評、優秀作品紹介（対面、Classroom） 全体の講評と優秀作品の講評を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：色や形でイメージを表すことができる。
事前・事後学習	事前学習：図書館や美術館にて多くの作品を鑑賞する(30分)。 事後学習：自分の作品に応用することができる資料や情報を収集する(30分)。
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントを使用し、画像も用い講義を進める。 講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：作品にコメントを添付し、表現の幅を広げ、技術向上のためのアドバイスを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：提出作品を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	本学図書館の中のファッション、アート、エンタテインメントに関する図書
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
ニールマーツ			
ナンバリング：F37C53	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>概論として演劇・映画のメーキャップや衣裳デザインの歴史や理論としての色彩を学ぶ。その後、実際にプロフェッショナルが使用する材料、ツールを用いて特殊メイクに必要なとされるデザイン、彫塑、型どり等のベーシックな手法での実技を行う。後半部では、特殊メイクの実演を通して技術の修得を図る。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：色彩理論を学ぶことで得た知識を、日々の生活に応用できる</p> <p>◎E：特殊メイクの基礎知識を学修することで、多様な表現力を身に付ける</p>
授業計画	<p>1 特殊メイクアップ概論 1 服飾デザインの歴史</p> <p>2 特殊メイクアップ概論 2 (対面)、特殊メイクアップ概論 3 (Classroom) 対面：色彩について (1) Classroom：演劇映画等の特殊メイクについて</p> <p>3 特殊メイクアップ概論 2 (対面)、特殊メイクアップ概論 3 (Classroom) 対面：色彩について (1) Classroom：演劇映画等の特殊メイクについて</p> <p>4 ライフキャスト (実習) (対面)、特殊メイクアップ概論 4 (Classroom) 対面：人体の型どり 自身の顔型取りを行う Classroom：色彩について (2)</p> <p>5 ライフキャスト (実習) (対面)、特殊メイクアップ概論 4 (Classroom) 対面：人体の型どり 自身の顔型取りを行う Classroom：色彩について (2)</p> <p>6 SCULPTURE 塑造 1 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 1 (実習) (Classroom) 対面：粘土で自身の制作したい鼻のデザイン、造作を行う Classroom：肌の色について</p> <p>7 SCULPTURE 塑造 1 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 1 (実習) (Classroom) 対面：粘土で自身の制作したい鼻のデザイン、造作を行う Classroom：肌の色について</p> <p>8 SCULPTURE 塑造 2 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 2 (実習) (Classroom) 対面：鼻の造形物を原型とし石膏で型をおこす Classroom：PAX PAINT作成 (タトゥー カバー)</p> <p>9 SCULPTURE 塑造 2 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 2 (実習) (Classroom) 対面：鼻の造形物を原型とし石膏で型をおこす Classroom：PAX PAINT作成 (タトゥー カバー)</p> <p>10 型と形 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 3 (実習) (Classroom) 対面：型どりの手法を理解し作成する Classroom：特殊メイクデモンストレーション及び実習 (1)</p> <p>11 型と形 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 3 (実習) (Classroom) 対面：型どりの手法を理解し作成する Classroom：特殊メイクデモンストレーション及び実習 (1)</p> <p>12 ラテックスの取扱使用方法 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 4 (実習) (Classroom) 対面：液体ラテックスを型にコーティングする Classroom：特殊メイクデモンストレーション及び実習 (2)</p> <p>13 ラテックスの取扱使用方法 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 4 (実習) (Classroom) 対面：液体ラテックスを型にコーティングする Classroom：特殊メイクデモンストレーション及び実習 (2)</p> <p>14 実演 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 5 (Classroom) 対面：これまでに学んだ技術を基にペアにて特殊メイクを行う Classroom：ウィッグについて</p> <p>15 実演 (実習) (対面)、特殊メイク基礎スキル 5 (Classroom) 対面：これまでに学んだ技術を基にペアにて特殊メイクを行う Classroom：ウィッグについて</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：色彩理論を学ぶことで、自身が思い描く色に関してを説明できる</p> <p>◎E：特殊メイクの基本実技を説明できる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：映画や映像等、常に特殊メイクを意識することで、記憶し表現の引き出しを作っておくこと (90分)。</p> <p>事後学習：色彩理論に関しては、その種の参考文献をよみ理解を深めること (90分)。</p>

指導方法	メイクアップ概論については、講義を中心に理論を学び、特殊メイク基礎スキルについては、実習が中心となる。本科目は、90分授業を2コマ連続で行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：色彩環の完成度を評価する D：ペアで行う特殊メイクの実技のデザインを評価する E：ペアで行う特殊メイクの実技の完成度を評価する 授業時の態度・実技評価50%、技術査定50%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	作業工程に遅れないよう、積極性を持って課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F27C64	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	アート作品、エンタテインメント作品を参考に、自分が決めたテーマに即した製作を行い、美的センスを養う。平面構成、動画製作の基礎を習得し、商品やパッケージ、絵コンテや空間構成と関連付けて、作品を製作することを目的とする。 (授業目標) ◎E：エンタテインメントの世界性を踏まえたアート製作の知識を理解し、オリジナリティある作品を作ることができる。
授業計画	<p>1 エンタテインメントアートとは (ZOOM) 平面構成、絵コンテ、空間構成の重要性</p> <p>2 平面構成基礎 (対面、Classroom) 点、線、面などのシンプルな形を扱った平面構成の基礎を学ぶ 平面作品における装飾と空間表現について</p> <p>3 アイデアの発想方法について (対面、Classroom) 自らのアイデアを生むための情報収集方法 アイデアの元となるドローイングの作成を行う</p> <p>4 イメージの構成 (対面、Classroom) 異なる2つ以上のイメージを構成し表現する手法について</p> <p>5 テーマに合わせた画面の構成 (対面、Classroom) 映画や舞台などで、場面のテーマに合わせたような演出がなされているかについて</p> <p>6 エンタテインメント性と作家性 (対面、Classroom) エンタテインメント作品、アート作品における大衆性、娯楽性と作家個人のこだわり、それぞれの重要性について</p> <p>7 映像編集について (1) (対面)、メインビジュアル、パッケージデザイン (1) (Classroom) 対面：参考素材等を扱った動画の製作、編集 オンライン：自分のアピールしたい商品や作品のパッケージ、またはメインビジュアルを製作する</p> <p>8 映像編集について (1) (対面)、メインビジュアル、パッケージデザイン (1) (Classroom) 対面：参考素材等を扱った動画の製作、編集 Classroom：自分のアピールしたい商品や作品のパッケージ、またはメインビジュアルを製作する</p> <p>9 映像編集について (2) (対面)、メインビジュアル、パッケージデザイン (2) (Classroom) 対面：参考素材等を扱った動画の製作、編集 オンライン：自分のアピールしたい商品や作品のパッケージ、またはメインビジュアルを製作する</p> <p>10 映像編集について (2) (対面)、メインビジュアル、パッケージデザイン (2) (Classroom) 対面：参考素材等を扱った動画の製作、編集 オンライン：自分のアピールしたい商品や作品のパッケージ、またはメインビジュアルを製作する</p> <p>11 エンタテインメントアート製作 (1) (対面、Classroom) 自分の好きな作品、商品等のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットまたは動画作品を製作する</p> <p>12 エンタテインメントアート製作 (2) (対面、Classroom) 自分の好きな作品、商品等のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットまたは動画作品を製作する</p> <p>13 エンタテインメントアート製作 (3) (対面、Classroom) 自分の好きな作品、商品等のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットまたは動画作品を製作する</p> <p>14 エンタテインメントアート製作 (4) (対面、Classroom) 自分の好きな作品、商品等のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットまたは動画作品を製作する</p> <p>15 学修成果発表、講評 (対面、Classroom) 最終課題を中心としたプレゼンテーションと講評</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：アート制作の知識を理解し、作品に活かすことができる。
事前・事後学習	事前学習：作品製作に活かせる資料の収集を行う(30分)。 事後学習：作品を良く見せるために適した素材を調べる(30分)。

指導方法	実習が中心となるが、テーマに関する映像や画像などをパワーポイントを使用して説明を加えながら授業を進める。エンタテインメント性のある作品作りを出来るよう指導を行う。 フィードバックの仕方：作品は改善のポイントを添付し、表現の幅や技能の上達のためのアドバイスを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題を評価する。 作品70%、授業への貢献度30%
テキスト	なし
参考書	本学図書館の中のファッション、アート、エンタテインメントに関する図書
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子、平光くり子			
ナンバリング：1年生F38C54		ナンバリング：2年生F38C6	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ1は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標) インターンシップ1は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ◎B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合があります。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後研修（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を理解できる。 ◎B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。

	<p>また、以下項目を基準に評価する。</p> <p>A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。</p> <p>B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要なことがあることを経験している。</p>
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ1は授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2の違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前研修を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前研修の補講は原則行わないものとする。</p> <p>*新型コロナウイルス感染拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し
ICT・オープンエデュケーションの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子、平光くり子			
ナンバリング：1年生F38C55		ナンバリング：2年生F38C67	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ2は、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標) インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければならないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ◎B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修修了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修后面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ◎B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習を原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する</p>

	A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。</p> <p>*新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し
ICT・オープンエデュケーションの活用	特に無し

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッションプランニングゼミ 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F39A68	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「ファッション プランニングモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、演習、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 本ゼミナールは、ファッション業界の本部（本社）での職種の役割と仕事内容を理解する。（授業目標） ◎C：自分の考えを論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界のしくみについて</p> <p>2 キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職活動のスケジュールと現状、活動内容について</p> <p>3 本部の就職研究（個人ワーク） アパレル本部の商品・営業・販売促進系統の職種・役割について</p> <p>4 本部の職種研究（プレゼンテーション） 「本部の職種研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p> <p>5 2年生内定者による就職活動体験談話 2年生内定者の紹介、就職活動の注意点とアドバイス</p> <p>6 ファッション業界の現状（外部講師） ファッション業界における職種や現状と課題について</p> <p>7 キャリア講座（2）（対面）、グループディスカッション（ZOOM）（キャリアセンター） 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う</p> <p>8 キャリア講座（3）（対面）、グループディスカッション（ZOOM）（キャリアセンター） 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う</p> <p>9 本部プレス職の研究（1）（ワーク） プレスなどのマーケティング系職種の役割と具体的な実務内容について</p> <p>10 本部プレス職の研究（2）（プレゼンテーション） 「本部プレス職の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p> <p>11 キャリア講座（4）（キャリアセンター） 2年生内定者による就職活動体験講話</p> <p>12 企画・MD・生産管理職の研究（1）（ワーク） 商品に係るマーチャンダイジング系職種の役割と具体的な実務内容について</p> <p>13 企画・MD・生産管理職の研究（2）（プレゼンテーション） 「企画・MD・生産管理職の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p> <p>14 SV・ディストリビューター・EC・店舗開発等営業系職種の研究（1）（ワーク） 売上を作る営業系職種の役割と具体的な実務内容について</p> <p>15 SV・ディストリビューター・EC・店舗開発等営業系職種の研究（2）（プレゼンテーション） 「SV・ディストリビューター・EC・店舗開発等営業系職種の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：自分の考えを論理的に説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッションブランドの店舗調査を行い、店舗での特性や店頭表現を学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし

	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	ファッション業界及びファッション関連業界において就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、プレゼンテーション形式等で行う。 映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養うこと。 図書館にある「日経MJ」、「WWD」「アエラ」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション セールスゼミ 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F39A68	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「ファッション セールスモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、個人ワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。ファッション業界の企業と職種を知り、店舗調査を通して販売に必要な知識を理解する。 (授業目標) ファッション業界における販売職に必要なスキルを理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ◎C：ファッション小売業における現状と課題をあげ、解決方法について論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	1 ファッション業界の基礎 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について 2 キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職活動のスケジュールと現状、活動内容について 3 職種研究（1）（個人ワーク） ファッション業界における店舗と本部の役割、職種について 4 職種研究（2）（プレゼンテーション） 「職種研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り 5 2年生内定者による就職活動体験談 2年生内定者の紹介、就職活動の注意点とアドバイス 6 ファッション販売員の研究（1）（個人ワーク） 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは 7 キャリア講座（2）（対面）、グループディスカッション（ZOOM）（キャリアセンター） 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う 8 キャリア講座（3）（対面）、グループディスカッション（ZOOM）（キャリアセンター） 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う 9 ファッション販売員の研究（2）（個人ワーク） 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは 10 ファッション販売員の研究（3）（プレゼンテーション） 「ファッション販売員の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り 11 キャリア講座（4）（キャリアセンター） 2年生内定者による就職活動体験講話 12 履歴書およびESの書き方、面接選考の注意点 履歴書およびエントリーシートの書き方、面接選考の注意点について 13 店舗運営の研究（1）（個人ワーク） 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは 14 店舗運営の研究（2）（個人ワーク） 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは 15 店舗運営の研究（3）（プレゼンテーション） 「店舗運営の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り
学習成果・到達目標・基準	◎C：自分の考えを論理的に説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義と個人ワーク形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の特徴やマーケティング戦略を学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：プレゼンテーション、課題を評価する プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。 また、映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館にある「日経MJ新聞」や「WWD」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク ・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション デザインゼミ 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F39A68			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッションデザインモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 デザイン画における人体の理解を深め自分の世界観を表現し、それぞれ作品のポートフォリオを作成する。 (授業目標) ○C：独自のクリエイションを研究し、さらに将来のビジョンを思考できる。 ◎E：クリエイション技能を向上させ、制作したポートフォリオを使用したプレゼンテーションによって自分の世界観を的確に説明できる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス (ZOOM) 授業内容、授業の進め方、課題について説明	
	2	スタイリズム (ファッションデザイン) (プレゼンテーション) 将来の目標について自己紹介を交えて全員がプレゼンテーションする	
	3	スタイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) スタイリズムとは、人体の理解と表現	
	4	スタイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) (ディスカッション：自分の世界観について話し合う) ブランドを想定し、ムードボード制作	
	5	スタイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) エクササイズ (コラージュなど)、プロポーションの描き方を学ぶ	
	6	スタイリズム (ファッションデザイン) エクササイズ (鉛筆模写など)、プロポーションの描き方を学ぶ	
	7	キャリア講座 (1) (対面)、グループディスカッション (ZOOM) (キャリアセンター) 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う	
	8	キャリア講座 (2) (対面)、グループディスカッション (ZOOM) (キャリアセンター) 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う	
	9	スタイリズム (ファッションデザイン) (プレゼンテーション：進捗状況を発表する) デザイン画、着色、着装表現の描き方を学ぶ	
	10	スタイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) 平面図を描く	
	11	キャリア講座 (3) (キャリアセンター) 2年生内定者による就職活動体験講話	
	12	キャリア講座 (4) (キャリアセンター) 就職活動にあたり、業界の就職状況および今後の就職活動スケジュールを説明する	
	13	発表 (ファッションデザイン) (ゲスト講師) (プレゼンテーション：完成したポートフォリオについて発表する) 自分の作品をまとめポートフォリオを完成させ、発表する	
	14	2年生とディスカッション (ディスカッション：就職活動やゼミでの学びについて話し合う) 2年生から就職活動体験談やゼミでの学びの成果の発表を聞き、今後の指針を得る	
	15	卒業生とディスカッション (ディスカッション：職業観について話し合う) (ゲスト講師) 社会で活躍している卒業生から就職活動体験談や現在の仕事内容を聞き、今後の指針を得る	
学習成果・到達目標・基準	○C：自分のキャリアを論理的に思考できる。 ◎E：制作したポートフォリオを使用したプレゼンテーションによって自分の世界観を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する (15分)。 事後学習：ムードボード、デザイン画、平面図など各回の課題を完成させる (30分)。		
指導方法	論理思考をベースに、ディスカッション形式でキャリアデザインを進める。 学生の主体性と積極性を重視し、思考を深めるよう指導する。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表 (学生)、③講評及び採点し返却、④授業後における採点について質疑応答		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：ディスカッションの発言内容、課題の思考力を評価する。 E：作品の完成度とプレゼンテーション能力を評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション、ディスカッション
I C T・オープン エデュケーション の活用	なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子			
ナンバリング：F39A68			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「ウエディングモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。専門のゲスト講師を招き、業界の専門知識やスキルを講義、演習から主体的に学修する。また身近な社会現象等も取り上げグループワークで討議を行い、プレゼンテーションで発表する力を養う。 (授業目標) ◎C：身近な社会現象に対し興味を持ち、思考力を働かせ考察する。 ◎D：ウエディングホスピタリティを理解し、就職のための知識を身につける。
授業計画	<p>1 ウエディングゼミガイダンス (小泉・楠) シラバス説明、ウエディングゼミ内容、目指す専門職種について考える</p> <p>2 ウエディングゼミ個別指導 (小泉・楠) 自己を振り返りシート作成をする</p> <p>3 ウエディング業界の仕事に必要な『視点』とは (ゲスト講師①八芳園) ウエディングの現場見学で見ると学ぶべきこと、CWRIAのプロセス(事前課題を見学シートを使いながら明確にする)</p> <p>4 ウエディング業界で求められる人とは (ゲスト講師②八芳園) 八芳園の見学をベースにウエディングプランナーやドレススタイリストに求められることを探る(現場で求められる8つの技能)</p> <p>5 八芳園学外実習 (ゲスト講師③八芳園) 八芳園の模擬挙式体験を体験をする(見学シートの活用)</p> <p>6 模擬挙式の振り返り (ゲスト講師④八芳園) 見学シートを使って事前課題を検討する</p> <p>7 キャリア講座1 (対面)、グループディスカッション (zoom) (キャリアセンター) 対面：就職のための筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う、zoom：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う</p> <p>8 キャリア講座2 (対面)、グループディスカッション (zoom) (キャリアセンター) 対面：就職のための筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う、zoom：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う</p> <p>9 キャリア講座3 (キャリアセンター) 就職活動の取り組み方と業界の就職状況の説明</p> <p>10 ウエディングの職業研究 (ゲスト講師⑤八芳園) ドレススタイリスト、ウエディングプランナーの専門的な仕事と必要なスキルを学ぶ</p> <p>11 キャリア講座4 (キャリアセンター) 2年生内定者による就職活動体験講話 (ウエディングゼミ生対象講座)</p> <p>12 ウエディング業界に通用口するエントリーシートと面接対応 (ゲスト講師⑥八芳園) 自己分析と志望動機を書く視点を考える、面接の種類やその対応例について、自己分析シートを使い自分のストレスとウィークネスを知る</p> <p>13 マイストーリーの発見と40秒自己PR (ゲスト講師⑦八芳園) 自己PRの元となるマイストーリーを探し当てそれを使った40秒の自己PRを書く</p> <p>14 40秒の自己PR発表1 (ゲスト講師⑧八芳園) 40秒の自己PRを発表(発表時間1分)、他者のPRを聞く事で訴求力のある自己PRの特徴を理解する</p> <p>15 40秒の自己PR発表2 (ゲスト講師⑨八芳園) 40秒の自己PRを発表(発表時間1分)、他者のPRを聞く事で訴求力のある自己PRの特徴を理解する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：社会問題に対し、自分の考えを持ち討議できる。 ◎D：ウエディング業界で働くために修得すべきことを理解できる。
事前・事後学習	事前：各回毎のテーマについて、予習しておくこと。(20分) 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること。(25分)
指導方法	通常の授業と違いゼミ形式で行うので、学生の主体性と積極性を重視する。 テーマ毎の課題提出をする。 フィードバックの仕方：添削を行いコメントを記載し返却する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：グループワークでの自己提案力と貢献度 D：ウエディング業界の理解度 課題60%、授業への貢献度40%

テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版（1年前期に購入済み） プリント配布（式場見学シート、組織に求められる8つの適性、40秒の自己PRチェック表）
参考書	
履修上の注意	ウェディング関連企業に興味を持っていること。 ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

講義科目名称： キャリアゼミ：ビューティゼミ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
新井葉子、平光くり子			
ナンバリング：F39A68			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「ビューティモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 本ゼミナールは、美容業界を目指すための心構え、マナー、業界知識を身に付ける。 (授業目標) ◎D：美容業界のしくみや特徴、職種について理解できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス、業界研究（1）（新井） 本ゼミナールの概要、ビューティ業界について</p> <p>2 業界研究（2）（平光） 美容の目的とビューティ業界の様々な職種について</p> <p>3 業界研究（3）（ゲスト講師） ビューティビジネスの現状、化粧品業界について</p> <p>4 職種研究（1）（ゲスト講師） 美容部員のキャリア、仕事内容について</p> <p>5 業界研究（4）（ゲスト講師） エステティック業界の現状について</p> <p>6 職種研究（2）（ゲスト講師） エステティシヤンのキャリア、仕事内容について</p> <p>7 キャリア講座（1）（対面）、グループディスカッション（ZOOM）（キャリアセンター） 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う</p> <p>8 キャリア講座（2）（対面）、グループディスカッション（ZOOM）（キャリアセンター） 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う</p> <p>9 就職活動準備（ゲスト講師） 履歴書、エントリーシートの書き方</p> <p>10 キャリア講座（3）（キャリアセンター） 業界の就職活動状況の解説と指導</p> <p>11 キャリア講座（4）（キャリアセンター） 2年生内定者による就職活動体験講話</p> <p>12 業界研究（5）（ゲスト講師） ネイル業界の現状について</p> <p>13 職種研究（3）（ゲスト講師） ネイリストのキャリア、仕事内容について</p> <p>14 企業研究（1）（ゲスト講師） 企業研究と企業の求める人材の推察（1）</p> <p>15 企業研究（2）（ゲスト講師） 企業研究と企業の求める人材の推察（2）</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：美容業界のしくみや特徴、職種について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：美容雑誌、インターネット等美容に関する最新情報を調べる（20分）。 事後学習：ゼミで学んだことを調べ、就職活動に役立てるようまとめておく（25分）。
指導方法	美容業界で活躍したい学生を対象にした就職活動準備のためにゲスト講師を招いて行うゼミナールである。希望職種を明確にし、そのためには何が必要かを考え主体的に学ぶ。各自の興味にもとづいた就職活動準備を行えるよう指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：レポート、課題を評価する。 レポート50%、授業態度・授業への貢献度30%、課題20%
テキスト	なし

参考書	なし
履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング：F39A68			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ライフスタイル関連業界に就職を望む学生に対して、テーマを絞り込み、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を行う。ライフスタイル関連業界で活躍するためには必須となる、自分の考えやアイデアをまとめる力や、自分を表現する力を養いながら、学生の就業意識を高める。 (授業目標) ○A：個人ワークにおける自分の役割を実行し、主体的にグループの考えをまとめる力を修得する。 ○C：論理性、感性から多面的な視点を身につける。
授業計画	1 就職活動の現状 本ゼミナールの概要について説明する。就職活動について、現状を確認する。ライフスタイル業界など就職したい興味のある分野や企業においてどんな種類の職業があるのか、その職種の具体的な役割や分担、責任、やりがいなどを学ぶ。 2 就職活動のスケジュールと現状 就職活動についてスケジュールを確認する。興味のある店や企業をたくさん書いてもらい、それぞれの企業について簡単な概要を選ぶ。興味のある分野などを自分の適職から分析する。適職の分析方法を学び、自分にあてはめて考えてみる。 3 多くの職業、職種を知る 3つの興味のある職業、分野を選んでみる。それらの分野、企業で働くとどんな職種があるのか考えてみる。 職業人をインタビューし1日を30項目の仕事内容に分類する。3人の職業人にインタビューし、仕事内容を発表する。 4 自己紹介文を作成 これまで選んだ3分野、3つの職業において、それぞれどんな需要があるのか、どんな人材が求められているのか考えてみる。さらに自分の性格とつなげて3パターンの自己紹介文を作成する。職業の需要から自己紹介文、長所の書き方、エピソードにつなげる書き方を学ぶ。 5 グループ面接の練習 就職活動の一環として行われているグループ面接について、情報の共有、リーダー、サブリーダー、タイムキーパーの役割を決め、それぞれチームで面接を行ってみる。面接官のチェックするポイントなどを学び、面接の雰囲気を知る。 6 履歴書作成 実際に入社したい企業や分野を決めて、作成した自己紹介文を元に履歴書を作成する。また、エントリーシートの書き方も学ぶ。これからの学生生活でどんな体験がエピソードとして履歴書に書けるか考える。完成した履歴書やエントリーシートを提出する。 7 キャリア講座(1) (対面) グループディスカッション (ZOOM) (キャリアセンター) 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う 8 キャリア講座(2) (対面)、グループディスカッション (ZOOM) (キャリアセンター) 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う 9 面接の練習 数人単位での面接の練習、自己紹介の方法を練習する。また、面接では仕事内容についてプラス面だけでなくマイナス面を知っているのかどうかを聞かれるため、興味のある3分野、3職業の辛い仕事内容についても答えられるようにまとめておく。 10 就職活動の注意点 就職活動において積極的に取り組む中での就職フェア参加方法、マイナビなどの登録方法の確認や就職活動の注意点などを確認する。 11 キャリア講座(3) (キャリアセンター) 2年生内定者による就職活動体験講話 12 面接マナー対策 最近は、オンラインでの面接も増えているため、マナー対策はオンライン用にも学ぶ必要がある。また一般的な面接においてもドアをノックしてお辞儀をする方法などのビジネスマナーや注意点などを学ぶ。また面接用のスーツの着こなし方なども取得する。 13 キャリア講座(4) (キャリアセンター) 就職活動の現状、活動内容と注意点について 14 起業経営など 働き方改革により多様な働き方が注目される中、フリーで活躍する人も増えたり副業する人も増えている。個人で起業をする方法を学ぶ。簡単な会社設立方法やNPO法人の会社設立方法、準備、また需要と供給などを学ぶ。

	15 適職の探し方 就職活動をする中で、やりたい仕事への迷いが出た場合、その適職や天職の探し方について分析方法を学ぶ。また、社会人になっても再び学ぶリカレント教育も学ぶ。また間違えた転職方法をしないよう、ライフスタイルと適職探しについて学ぶ。
学習成果・到達目標・基準	業界研究、企業研究、職種研究をすることで就業意識を高める。 ○A：個人ワークにおける自分の役割を責任を持って遂行できる。 ◎C：自分の考えや計画を論理的に説明できる。
事前・事後学習	事前学習：本学図書館にてライフスタイル業界、ビジネス雑誌、キャリア、就職活動に必要な知識を身につけ、授業で発言及び発表が出来る段階まで準備しておくこと（20分）。 事後学習：各回の授業内で提出するキャリア形成に関する課題について本学図書館やPC検索などにおいて調べて発表できるようにしておくこと（25分）。
指導方法	映像やパワーポイントや配布資料を使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的な発表を貢献度として評価する。 C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題40%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する
参考書	参考文献に関してはその都度指示する
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 新聞を毎日読むこと、就職活動についてキャリアセンターと連携をとること
アクティブ・ラーニング	・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F39A68			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学生が自ら志望大学合格に必要な条件をふまえた目標計画を策定し、スケジュールに沿って個別指導を行う。 (授業目標)</p> <p>◎C：編入希望の大学に合格するためのスケジュールを策定することができる。 ○D：編入学受験科目である小論文について過去のテーマをもとに論述できる。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション・学習計画書の作成 (ZOOM) 編入に向けて、準備をする	
	2	進学準備カウンセリング (1) (対面、Classroom) 進学に向けて話し合う	
	3	情報収集 (対面、Classroom) 関心を持つ分野にどのような大学があるか、また試験課題など必要な情報を収集する	
	4	大学研究 (対面、Classroom) 進学先の大学等を研究する	
	5	試験対策 (1) (対面、Classroom) 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	6	試験対策 (2) (対面、Classroom) 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	7	キャリア講座 (1) (対面)、グループディスカッション (ZOOM) (キャリアセンター) 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う	
	8	キャリア講座 (2) (対面)、グループディスカッション (ZOOM) (キャリアセンター) 対面：就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う ZOOM：就職活動におけるグループディスカッションの練習を行う	
	9	小論文指導 (2) (対面、Classroom) 論理力、思考力を鍛える	
	10	試験対策 (3) (対面、Classroom) 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	11	キャリア講座 (3) (キャリアセンター) 2年生内定者による就職活動体験講話 オンライン：	
	12	試験対策 (4) (対面、Classroom) 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	13	試験対策 (5) (対面、Classroom) 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	14	進学準備カウンセリング (2) (対面、Classroom) 進学に向けて話し合う	
	15	対策状況確認 (対面、Classroom) 編入に向け試験対策の状況確認をし、今後の対策を練る	
学習成果・到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることができる。 ○D：小論文の知識を取得し、順序だてて組み立てることができる。		
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ、対策を行う (30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う (30分)。		
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策、小論文指導を行う。 フィードバックの仕方：小論文などの課題については、添削指導を行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：面談等から志望大学合格のためのスケジュールが組まれているか、計画を行動に移せているかなどにより判断する。 D：試験勉強への取り組みなどから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		

参考書	
履修上の注意	編入学を希望する学生は、本科目を履修登録すること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F39C57	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界及びファッション関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「職種研究」「店舗調査」をふまえて、アパレル本部にとって必要なブランド運営や店舗運営などの経営的視点を養い「理想のアパレルブランド」を立案することを目的とする。 (授業目標) アパレル会社のブランドビジネスに必要な知識やスキルを理解する。 ◎A：ブランド経営に対して積極的に調査を行い、自分の考えをまとめる力を身につける。 ◎E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状のしくみについて</p> <p>2 ファッションビジネスとは 様々なブランド運営の手法について</p> <p>3 ブランドコンセプト（ワーク） ファッションブランドの研究を基にブランドのコンセプト設定</p> <p>4 コンペチター研究（ワーク） ブランドのコンペチター研究</p> <p>5 ターゲット設定（ワーク） ブランドのペルソナ像を含むターゲット設定</p> <p>6 商品イメージ（ワーク、プレゼンテーション） ブランドの展開する商品イメージ設定、ブランドのプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>7 店舗設定（路面店）（ワーク） ブランドの路面店舗物件選択、店舗内装プラン・VMDプラン作成</p> <p>8 広告宣伝プラン（ワーク） 路面店オープンと連動するプロモーションプランをリアルとバーチャルにて作成</p> <p>9 起業・事業計画（ワーク） ブランドの立ち上げに向けて起業準備と収支プラン作成</p> <p>10 3カ年計画（ワーク） チャネル戦略とプロモーションプラン、ブランドの3年間のシナリオプラン作成</p> <p>11 コンセプトワーク・事業計画プレゼンテーション（プレゼンテーション） ブランドビジネス系プレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>12 MD・商品企画 1（ワーク） ブランドの商品構成プラン作成</p> <p>13 MD・商品企画 2（ワーク） ブランドの商品企画プラン作成</p> <p>14 商品計画（ワーク） ブランドの商品仕入れ計画（商品投入表）の作成</p> <p>15 MD構成・商品計画プレゼンテーション（プレゼンテーション） 商品計画プレゼンテーションおよび評価と振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：ブランド経営に対して興味を持ちながら課題に取り組むことができる。 ◎E：自分の考えを人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やブランドマーケティングを学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題の取り組みや授業の貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館で「日経MJ新聞」や「WWD」等を読んでおくこと。
アクティブ・ラーニング	・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F39C58	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界における販売職の就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、個人ワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「売れる販売員の条件」「売上を上げる方策」をふまえて、店長や売場責任者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い、「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。 (授業目標) ファッション小売業の店舗運営に必要となる知識を理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ◎E：自分の見解や主張を状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について 2 店舗運営コスト（1）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究 3 店舗運営コスト（2）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究 4 店舗運営コスト（3）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究 5 店舗運営コスト（4）（プレゼンテーション） 「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り 6 店舗出店コスト（1）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究 7 店舗出店コスト（2）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究 8 店舗出店コスト（3）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究 9 店舗出店コスト（4）（個人ワーク） 個人ワークによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究 10 店舗出店コスト（5）（プレゼンテーション） 「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り 11 理想の店舗（1）（個人ワーク） 個人ワークによる「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の抽出 12 理想の店舗（2）（個人ワーク） 個人ワークによる「理想の店舗」の研究 13 理想の店舗（3）（個人ワーク） 個人ワークによる「理想の店舗」の研究 14 理想の店舗（4）（個人ワーク） 個人ワークによる「理想の店舗」の研究 15 理想の店舗（5）プレゼンテーション 「理想の店舗」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り
学習成果・到達目標・基準	◎E：自分の見解を論理的に人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やマーケティング戦略を学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：プレゼンテーションの取り組みおよび発表を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク ・プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
ナンバリング：F39C59	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン関連、ものづくり関連の業界を目指す学生を対象にしたゼミである。キャリアゼミ（ファッションデザイン）で学んだスティリズムを実際にカタチで表現し、各自オリジナル作品を製作する。作品製作を通して自身の適性を見極め、キャリア形成における明確な目標を掲げ、目標をクリアする為のフローを組み立てる。 (授業目標) ○A：主体的に自身の知識・技術を向上させ、積極的に作業を進め責任感を持って最後までやり抜くことができる。 ◎E：クリエイション技能を向上させ、立体研究によりオリジナリティを表現する力を修得できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (ZOOM) 概要説明、アパレル業界における自分の「目標」とそれを実現する為のプロセスをプレゼンテーションする</p> <p>2 パタンナーとディスカッション (ゲスト講師) ファッション関係者とディスカッションし、パタンナーなどの専門職についてアパレル業界構造を学ぶ</p> <p>3 モデリズム (実習：パターンメイキング・縫製) (ゲスト講師) 立体造形の基礎を学ぶ</p> <p>4 モデリズム (実習：パターンメイキング・縫製) (ゲスト講師) 立体造形の基礎を学ぶ</p> <p>5 モデリズム (実習：パターンメイキング・縫製) (ゲスト講師) 造形実習</p> <p>6 モデリズム (実習：パターンメイキング・縫製) (ゲスト講師) 造形実習</p> <p>7 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) (ゲスト講師) カットソー作品を制作し、立体研究について学ぶ</p> <p>8 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) (ゲスト講師) 作品の基本構造を学ぶ、両脇と肩を縫い合わせる</p> <p>9 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) (ゲスト講師) 着用可能に修正、パターン落とし込み</p> <p>10 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) (ゲスト講師) デザインを入れる</p> <p>11 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) トワルチェックと付属の確認、縫製工程のチェック</p> <p>12 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) 生地 (ニット) 裁断、接着</p> <p>13 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) 肩、襟ぐり処理、袖見返し、脇、裾始末</p> <p>14 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) テントラインに縫い上げてからデザイン入れ</p> <p>15 発表 (プレゼンテーション) (ゲスト講師) 企業でのプレゼンテーションを想定し、製作した作品を発表する</p>
学習成果・到達目標・基準	○A：主体的な態度で作業に取り組み、作品を完成できる。 ◎E：立体作品により、オリジナリティを表現できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する (20分)。 事後学習：各自のスケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う (25分)。
指導方法	学生の主体性と積極性を重視し、思考を深める。 作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表 (学生)、③講評及び採点、④授業後における採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的に作業を行うなど授業への貢献度を評価する。 E：作品の完成度とオリジナリティを評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%

テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子			
ナンバリング：F39C60	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランナー、ウエディングドレススタイリスト等のブライダル関係に就職を望む学生に対して、ゲスト講師と専任教員が連動してゼミ形式で授業を行う。専門的知識と実践力を身につけ、就職に対する意識付けを図る。就職活動と連動させた相談も行い、対応策も学修する。 (授業目標) ◎B：ウエディングの現場で求められる共感力コミュニケーション能力を身につける。 ◎C：自分に適した企業を判断しウエディング業界への就職活動をする。
授業計画	<p>1 ウエディングゼミガイダンス（小泉・楠） シラバス説明、授業概要、就職活動について</p> <p>2 就職活動の取り組みについて（ゲスト講師①安東徳子） 2021年度採用の企業と周辺業界の動向を知り、求められる人材に照らし合わせながら強化すべきことを見直す</p> <p>3 共感力コミュニケーションの必要性とその手法（ゲスト講師②安東徳子） 就職活動、社会人になっても役に立つ共感力コミュニケーションについて学ぶ</p> <p>4 就職活動に必要な視点を磨く3-why-wtep（ゲスト講師③安東徳子） 今朝のwebニュースの実例を題材にした就職試験対策、3-why-stepの思考プロセスを理解する</p> <p>5 就職活動成功共有（ゲスト講師④安東徳子） 過去の学生の就職成功事例を紹介</p> <p>6 3-why-stepのケーススタディ 1（ゲスト講師⑤安東徳子） 環境問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる（3-why-stepシート使用）</p> <p>7 3-why-stepのケーススタディ 2（ゲスト講師⑥安東徳子） 教育問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる（3-why-stepシート使用）</p> <p>8 3-why-stepのケーススタディ 3（ゲスト講師⑦安東徳子） 物販と流通をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる（3-why-stepシート使用）</p> <p>9 3-why-stepのケーススタディ 4（ゲスト講師⑧安東徳子） テクノロジーをテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる（3-why-stepシート使用）</p> <p>10 企業から見た面接とは（ゲスト講師⑨安東徳子） 印象の良い選考官と印象の悪い選考官、印象の良い学生と印象の悪い学生について共感力コミュニケーションの視点で考える</p> <p>11 模擬面談と発表 1（ゲスト講師⑩安東徳子）（プレゼンテーション） 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>12 模擬面談と発表 2（ゲスト講師⑪安東徳子） 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>13 模擬面談と発表 3（ゲスト講師⑫安東徳子） 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>14 模擬面談と発表 4（ゲスト講師⑬安東徳子） 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>15 ウエディングゼミまとめ（ゲスト講師⑭安東徳子） 就職活動の把握、まとめ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎B：日常生活の中でも共感力コミュニケーションを応用できる。 ◎C：様々なウエディング業種の違いを判断することができる。
事前・事後学習	ウエディング業界の情報を得ておくこと。 毎回のテーマを理解し就職活動に役立てること。 事前：各回毎のテーマについて、予習をしておくこと（20分）。 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること（25分）。
指導方法	通常の授業と違い、学生の主体性と積極性を重視する。テーマ毎の課題提出をする。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：グループワークでの自己提案力と貢献度 C：ウェディング業界の企業考察 課題60%、授業への貢献度40%
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版（1年時に購入済み） プリント配布（組織に必要な8つの適性シート、3-why-stepシート）
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク プレゼンテーション
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子、平光くり子			
ナンバリング：F39C61	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、美容業界で働く心構えを学ぶ。美容業界で活躍する方をゲスト講師として迎え講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で授業を行う。美容を仕事にする場合、相手の身体に触れるため、対人マナーをふまえて相手のめざすイメージや好みなどの気持ちと向き合うコミュニケーション力を養うことも重視する。 (授業目標) ◎D：美容業界のマーケティング手法を理解する。 ○E：自分の考えや思いを的確にプレゼンテーションできる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (新井) 本ゼミナールの概要、授業の進め方</p> <p>2 業界研究 (1) (ゲスト講師) 化粧品業界の現状について</p> <p>3 業界研究 (2) (平光) エステティック業界の現状について</p> <p>4 業界研究 (3) (新井) ネイル業界の現状について</p> <p>5 業界研究 (4) (ゲスト講師) ビューティ業界の現状について</p> <p>6 企業のマーケティング分析 (1) (ゲスト講師) フレームワークを用いた分析方法 (1)</p> <p>7 企業のマーケティング分析 (2) (ゲスト講師) フレームワークを用いた分析方法 (2)</p> <p>8 企業のマーケティング分析 (3) (ゲスト講師) 発表、意見交換、評価</p> <p>9 企業のマーケティング分析 (4) (ゲスト講師) フレームワークを用いた分析方法 (3)</p> <p>10 企業のマーケティング分析 (5) (ゲスト講師) 発表、意見交換、評価</p> <p>11 企業研究 (1) (ゲスト講師) 研究対象企業と競合企業の選定</p> <p>12 企業研究 (2) (ゲスト講師) 研究対象企業の分析について</p> <p>13 企業研究 (3) (ゲスト講師) 資料作成、プレゼンテーション手法の指導</p> <p>14 企業研究 (4) (ゲスト講師) 資料作成、プレゼンテーション手法の指導</p> <p>15 企業研究 (5) (プレゼンテーション) (ゲスト講師) 発表、意見交換、評価</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：美容業界のマーケティング手法を説明できる。 ○E：自分の考えを人前でプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする (20分)。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い、理想の美容部員について考える (25分)。
指導方法	各自の就職活動ノートに毎週活動の進捗状況を確認できるよう指導する。 パワーポイント等を使用する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題を評価する。 ○E：プレゼンテーションを評価する。 課題50%、授業態度・授業への貢献度30%、プレゼンテーション20%
テキスト	なし
参考書	なし

履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
柏木理佳			
ナンバリング：F39C62	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ライフスタイル業界、雑貨、日用品、及び企業において企画・販売などにおいて就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ライフスタイル業界を学ぶだけでなく企画、提案などを習得する。グループワーク、プレゼンテーション形式などを取り入れ、就職活動がスムーズにできるようにする。 (授業目標) 自身のキャリアビジョンを立てることができる。 ◎A：主体的に意見を交換したり、グループワークを通して、責任感を身につける。 ◎C：ビジネス経営や企画提案などの思考力や判断力を身につけることができる。
授業計画	<p>1 ライフスタイル業界の現状 本講座の概要の説明をする。またライフスタイル業界における現状と課題を学び、企業の採用状況を知る。アンケートを実施し興味のある企業名を3～5社ほど書いて提出してもらおう。</p> <p>2 ライフスタイル業界の採用状況 ライフスタイル業界の採用状況を各社のホームページから会社概要、採用情報を調べ、自身でアプローチする方法を知る。インターンシップの申込方法などを知る。</p> <p>3 ライフスタイル業界の多くの職種を知る ライフスタイル業界の企業名を出し合い、その職種の多さを知る。本や検索、OB訪問やインタビュー、現職で働いている人など3人の職業人にインタビューすることで1日の仕事内容を30項目に分け、具体的な仕事内容を知る。</p> <p>4 価値観から適職を分析する 幅広いライフスタイル業界において、自分の価値観をカードを使いながら楽しく分析し、具体的な適職を探す方法を知る。</p> <p>5 自己紹介文を3パターン作成する ペアで長所を出し合いながら自分の長所を改めて確認する。自分の長所を書き出し、それぞれに長所をエピソード体験を含めて書く方法を知る。</p> <p>6 自己紹介文を3パターン作成する 自分の長所を3つ書き出し、それぞれに長所をエピソード体験を含めて書く方法を知る。企業が採用した人材の需要を確認し、それらに対する自己紹介文の書き方を学ぶ。</p> <p>7 ライフスタイル業界の多様な分野の就職状況 カーテン、インテリア、コーヒーショップ、セレクトショップ、輸入ショップなどにおける現状と課題を知り、就職情報を確認する方法を知る。</p> <p>8 面接方法と質疑応答内容を知る 作成した自己紹介文を元に面接で質問されること、志望理由、職種の内容の把握など想定される面接用の質問と回答例をまとめる。</p> <p>9 面接の練習 想定される質問内容を提示し、それぞれにすぐに回答出来るように具体的な例をあげる。実際に合格した回答例をあげて、面接官に対する適切な回答例を具体的に練習する。面接の練習をすることで本番で緊張せずに、実力を発揮できるようにする。</p> <p>10 履歴書の書き方を学ぶ ライフスタイル業界に就職するための履歴書の書き方を学ぶ。参考例をともに限られたスペースにおいて短い文章で印象に残る履歴書の作成方法を知る。</p> <p>11 エントリーシートの書き方 WEBによるエントリーシートの書き方を学ぶ。さらに採用担当者宛の適切なメールの書き方などを学ぶ。</p> <p>12 就職活動の注意点 就職時期と就職活動における注意点を学ぶ。</p> <p>13 就職のためのマナー 就職活動中において、面接時の回答が良くても立ち居振る舞いが悪いと印象が悪くなる。立ち居振る舞いやビジネス用、面接スーツの着こなしや印象の良くなる事例を学ぶ。</p> <p>14 ZOOMなどでの面接のマナー ZOOMなどオンラインでの企業の説明会や面接の場合の注意点、回答例など印象を良く見せる方法を学ぶ。</p> <p>15 企業へのアピール方法 本講座の総まとめ。就職活動のまとめ。また個人経営やフリーとして活躍する場合の企業へのアピール方法などを学ぶ。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：ライフスタイル業界の現状に対して、協調性を持って話し合いをすすめることができる。 ◎C：就職したい企業に企画、提案ができるようになる
事前・事後学習	事前学習：本学図書館などにて就職活動関連の本や雑誌、また興味のある企業のHPを検索して採用情報などを調べておくこと（20分）。

	事後学習：毎回到授業で学んだことを更に深める為、ビジネス雑誌、新聞、また関連企業の広告が出ているライフスタイル雑誌を読んでおくこと（25分）。
指導方法	映像を使用した講義とワークショップ形式で授業をすすめる。プレゼンテーションを取り入れる。様々な職種にもふれ、役割や仕事内容なども解説する。実践的に就職活動のサポートになるように指導していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題のオリジナリティを評価する。 C：プレゼンテーションを評価する。 課題60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	PHP研究所『30分間で天職が見つかる本』 柏木理佳 ISBN978-4-569-63157-8
履修上の注意	課題、就職活動を積極的に行うこと
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーションなど
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
ナンバリング：F39C63	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学生が自ら志望大学合格に必要な分野を調べ、それをもとに組んだ計画に従って、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎C：編入学志望大学に合格する為のスケジュールを策定し、受験科目の目標を策定することができる。</p> <p>○D：編入先の大学にて通用する知識、論理的思考力を身につける。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション・学習計画書の作成 (ZOOM) 編入に向けて、準備をする</p> <p>2 進学準備カウンセリング (対面、Classroom) 進学に向けて話し合う</p> <p>3 情報収集 (対面、Classroom) 自分が関心を持つ分野と、その分野にどのような大学があるか情報を収集する</p> <p>4 大学研究 進学先の大学等を研究する (対面、Classroom) 進学先の大学等を研究する</p> <p>5 試験対策 (1) (対面、Classroom) 学科など試験に必要な対策を行う</p> <p>6 試験対策 (2) (対面、Classroom) 学科など試験に必要な対策を行う</p> <p>7 試験対策 (3) (対面、Classroom) 学科など試験に必要な対策を行う</p> <p>8 大学研究 (対面、Classroom) 志望大学のオープンキャンパスなどのスケジュールの確認</p> <p>9 対策状況確認 (対面、Classroom) 現在の対策状況を確認し、改めて対策を練る</p> <p>10 小論文対策 (1) (対面、Classroom) 編入希望の学部に関するキーワードでの小論文対策</p> <p>11 小論文対策 (2) (対面、Classroom) 編入希望の学部に関するキーワードでの小論文対策</p> <p>12 進学準備カウンセリング (対面、Classroom) 進学に向けて話し合う</p> <p>13 試験対策 (4) (対面、Classroom) 学科、小論文など試験に必要な対策を行う</p> <p>14 試験対策 (5) (対面、Classroom) 学科、小論文など試験に必要な対策を行う</p> <p>15 対策状況確認 (対面、Classroom) 現在の対策状況を確認し、編入に向けて後期からの対策を練る</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることができる。</p> <p>○D：小論文の知識を取得し、順序だてて組み立てることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ対策を行う (30分)。</p> <p>事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う (30分)。</p>
指導方法	<p>志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策、小論文指導を行う。</p> <p>フィードバックの仕方：小論文などの課題に関しては、添削指導を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C：面談等から志望大学合格のためのスケジュールが組まれているか、計画を行動に移せているかなどにより判断する。</p> <p>D：試験勉強などへの取り組みから判断する。</p> <p>課題80%、授業への貢献度20%</p>
テキスト	なし
参考書	

履修上の注意	自主的に志望大学の情報収集等を行うこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし